

## V シラバス(2年)

### V シラバス(2年)

文部科学省大学設置基準（令和4年9月30日一部改正）によると、「1単位にはおおむね45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする」とされており、授業時間以外に自己学習時間も含まれている。1又は2単位あたりに必要な学修時間は下表の通りである。

### 単位あたりの学修時間

授業形式	単位数 (学修時間数)	授業回数 (コマ数)	授業時間数	自己学習時間数	
				合計	1コマあたり (事前+事後)
講義	1単位 (45時間)	8	16(15)時間	30時間	4時間
	2単位 (90時間)	15	30時間	60時間	4時間
演習	1単位 (45時間)	15	30時間	15時間	1時間
	2単位 (90時間)	30	60時間	30時間	1時間

出典：大学設置基準第二十一条

## V シラバス(2年)

開 講 年 次	2 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	講 義	基礎分野
授業科目(英文)	コミュニケーション理論と実際 (Introduction to Theor and Practice to Communication)					ナンバリング	N-CO94	科目分類		講 義	基礎分野
担 当 教 員	小野坂益成・丸山昭子					1科目当たりの合計自己学習時間			60時間		
履 修 条 件	前提科目	なし									
	その他	なし									
<b>授業概要：</b> 看護実践で必要とされる基本的なコミュニケーション能力の習得を目的とする。参加・体験型の授業形態を通じ、コミュニケーション理論ならびにコミュニケーションスキルについて学修する。また、ロールプレイやグループでの話し合いを通して、他者の考え方や自分の中起こってくる感情や反応を知り、ヒューマンケアを実践する看護専門職者としての言動、傾聴、態度について考察する。											
<b>授業目標：</b> 1. コミュニケーションとは何か、その意味や必要性、重要性について考えることができる。 2. コミュニケーションという日常生活を送る上で必ず行われる事柄を意識し、自己や他者に関心をもち関わるすることができる。 3. コミュニケーションの基本的な知識や技術を学び、看護専門職者に必要な基本的な態度について説明できる。											
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>											
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）				授業形態	担 当				
1	ガイダンス コミュニケーションとは何か	事前：シラバスを確認する。 事後：課題レポート作成				講義	小野坂益成 丸山昭子				
2	コミュニケーションの種類 一言語的コミュニケーション	事前：言語的コミュニケーションについて説明できるように準備する。 事後：課題レポート作成				講義 グループワーク	小野坂益成				
3	コミュニケーションの種類 非言語的コミュニケーション	事前：非言語的コミュニケーションについて説明できるように準備する。 事後：課題レポート作成				講義・グループワーク・ コミュニケーション ゲーム	小野坂益成				
4	コミュニケーションに影響するもの 自己理解	事前：自己理解について説明できるように準備する。 事後：課題レポート作成				講義 グループワーク	小野坂益成				
5	コミュニケーションに影響するもの 他者理解・ダイバーシティ	事前：他者理解について説明できるように準備する。 事後：課題レポート作成				講義・グループワーク・ コミュニケーション ゲーム	小野坂益成				
6	グループでのコミュニケーション リーダーシップとメンバーシップ	事前：司会とファシリテーターについて説明できるように準備する。 事後：理解確認小テストに向けた準備				講義 グループワーク	小野坂益成				
7	グループでのコミュニケーション グループ間の交流 グループダイナミクスについて	事前：グループダイナミクスについて説明できるように準備する。 事後：課題レポート作成				講義・グループワーク・ コミュニケーション ゲーム	小野坂益成				
8	看護におけるコミュニケーション	事前：看護におけるコミュニケーションとは？を考え授業に臨む。 事後：課題レポート作成				講義 グループワーク	小野坂益成				
9	積極的傾聴と共感	事前：傾聴と共感について説明できるように準備する。 事後：課題レポート作成				講義 ロールプレイ	小野坂益成				
10	良好なコミュニケーションに必要な技法 質問技法	事前：良好な質問について考え、授業に臨む。 事後：課題レポート作成				講義 ロールプレイ	小野坂益成				
11	良好なコミュニケーションに必要な技法 関係構築（ラポール構築）の技法	事前：良好な関係性について考え、授業に臨む。 事後：課題レポート作成				講義 ロールプレイ	小野坂益成				
12	否定的なコミュニケーション 自己と他者	事前：否定的なコミュニケーションをされたらどのように対応するか考え、授業に臨む。 事後：課題レポート作成				講義 グループワーク	小野坂益成				
13	看護面接のプロセスと動機付け	事前：看護面接について説明できるように準備する。 事後：課題レポート作成				講義 グループワーク	小野坂益成				
14	多職種連携・患者家族とのコミュニケーション	事前：良好な家族とのコミュニケーションについて、説明できるように準備する。 事後：理解確認小テストに向けた準備				講義 グループワーク	小野坂益成				
15	まとめ	事前：これまでの講義資料を精読し、コミュニケーションについて説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：これまでの講義資料、小テストの見直し				講義	小野坂益成 丸山昭子				
<b>教本：</b> なし 適宜、資料を配布する。						<b>参考文献：</b> 1. 篠崎恵美子、藤井徹也 看護コミュニケーション 医学書院 2. 川野雅資 看護師のコミュニケーション技術 中央法規					
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（60%）等で評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。											
<b>学生へのアドバイス：</b> コミュニケーションは、看護にかかわらず生活していく上で必ず生まれるものです。日常生活をよりよく生きるために良好な人間関係を構築し、また今後の看護師としてのコミュニケーションスキルを、授業を通して学びましょう。											

開 講 年 次	2 年次 前期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	ナンバリング N-EC23 科目分類	講義	基礎分野
授業科目(英文)	看護のための経済学 (Economics)					ナンバリング	N-EC23	科目分類	基礎分野		
担 当 教 員	宮崎 隆					1 科目当たりの合計自己学習時間			60時間		
履 修 条 件	前提科目	なし									
	その他	なし									
<b>授業概要：</b> 私たちは誰もが日々経済活動をしています。ATMで現金を引き落としモノを買い、消費すること。会社に行って仕事をする。CO <sub>2</sub> の減少に貢献するために再生可能エネルギーによる電力を使ったり、その電力でスマホに充電したりすること。これらはすべて経済行為です。経済学はこうした経済行為を一消費者や生産者、あるいは企業・産業、国単位、世界、環境、福祉、エネルギーなどの観点で表現したものです。本講義では主に日常にある経済問題を取り扱います。PBL(課題解決型学習)もやります。											
<b>授業目標：</b> 先ず、専門用語と統計数字になれて下さい。次に経済の関連性についてイメージを作ってください。たとえば、所得と税金、消費と価格、環境保全と電気自動車、為替レートと輸入・輸出などです。											
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>											
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態	担 当		
1	ガイダンス：授業の進め方と取り扱う問題の範囲の説明。基本的な経済用語と数値の解説。情報収集の方法等。					事前：経済問題をメモ。 事後：経済用語表を作成。		講義(60分:PBL含む)、 小レポート(30分)	宮崎 隆		
2	世界の中の日本：日本はどのように成長・発展してきたか。世界の中で日本はどのようなポジションにあるかを解説。					事前：日本経済の歴史を知る 事後：講義内容の要約		講義(60分:PBL含む)、 小レポート(30分)	宮崎 隆		
3	日本経済のしくみ その(1)：企業・産業 わが国にはどのような企業と産業があり、世界的にみて特徴はあるのか。					事前：統計数字を読む。 事後：講義内容の要約		講義(60分:PBL含む)、 小レポート(30分)	宮崎 隆		
4	日本経済のしくみ その(2)：政治と行政、経済 行政省庁と民間経済の関係。国と地方の関係性。経済政策の基礎を解説。					事前：資料を読む。 事後：講義内容の要約		講義(60分:PBL含む)、 小レポート(30分)	宮崎 隆		
5	日本経済のしくみ その(3)：人口問題 一極集中と過疎化、少子高齢化社会の実態。					事前：資料を読む。 事後：講義内容の要約		講義(60分:PBL含む)、 小レポート(30分)	宮崎 隆		
6	日本経済のしくみ その(4)：私たちの暮らしと税金 いわゆる「日本の借金問題」について。税金の基礎。					事前：資料を読む。 事後：講義内容の要約		講義(60分:PBL含む)、 小レポート(30分)	宮崎 隆		
7	日本経済のしくみ その(5)：デジタル経済論 アナログとデジタル、ネットワーク、デジタル産業について。					事前：専門用語を知る。 事後：講義内容の要約		講義(60分:PBL含む)、 小レポート(30分)	宮崎 隆		
8	エネルギー経済：電力 直流と交流、発電と送電、再生可能エネルギーとは。今後の電力政策。近未来の電力システム等					事前：電気理論の基礎を学ぶ。 事後：講義内容の要約		講義(60分:PBL含む)、 小レポート(30分)	宮崎 隆		
9	環境経済について：IPCCと地球温暖化問題 IPCC「報告書」の概要。地球温暖化の実態、環境政策の概要。					事前：資料を読む。 事後：講義内容の要約		講義(60分:PBL含む)、 小レポート(30分)	宮崎 隆		
10	交通経済学：なぜ電気自動車か。電気自動車社会になると私たちの暮らしはどう変わるのか。					事前：EVの基礎を学ぶ。 事後：講義内容の要約		講義(60分:PBL含む)、 小レポート(30分)	宮崎 隆		
11	商業経済：流通と物流、マーケティング 私たちの日常の経済生活を支える裏側を見る。成功した戦略と失敗した戦略。					事前：資料を読む。 事後：講義内容の要約		講義(60分:PBL含む)、 小レポート(30分)	宮崎 隆		
12	貨幣的経済学：銀行システムと為替レート 日本銀行と民間銀行。金融政策の基礎。為替レートはなぜ変動するのか。					事前：資料を読む。 事後：講義内容の要約		講義(60分:PBL含む)、 小レポート(30分)	宮崎 隆		
13	福祉と経済：幸せを考える 厚生経済学の歴史。介護問題の基礎。経済学は人を幸せにするか。					事前：資料を読む。 事後：講義内容の要約		講義(60分:PBL含む)、 小レポート(30分)	宮崎 隆		
14	医療の経済学1：医療政策 わが国の行政と医療。新型コロナ禍にみる政策の展開。					事前：資料を読む。 事後：講義内容の要約		講義(60分:PBL含む)、 小レポート(30分)	宮崎 隆		
15	医療の経済学2：医療資源(人的資源、医療施設・医療機器・医薬品など)と今後の動向。					事前：資料を読む。 事後：講義内容の要約		講義(60分:PBL含む)、 小レポート(30分)	宮崎 隆		
教本：なし。(適宜、資料を配布します。)						参考文献：なし。(関連情報源を随時提示します。)					
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 小テスト・レポート等(20%)、定期試験またはレポート(80%)等で総合評価します。なお、指定のレポートの他に追加の自主レポートの提出を認め、成績に加算します。											
<b>学生へのアドバイス：</b> 経済学の対象は多種多様ですが、皆さんが関係する問題、関心をもっている問題を取り上げます。											

開 講 年 次	2 年次 前期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	講 義	
授業科目(英文)	人間と環境 (Human and Environment)					ナンバリング	N-LI93	科目分類	基礎分野	講 義	基礎分野
担 当 教 員	藤井智恵子					1科目当たりの合計自己学習時間			60時間		
履 修 条 件	前提科目	なし									
	その他	なし									
<b>授業概要：</b> 人間の健康にとって必要な環境条件ならびに直面する環境問題について、文献ならびに保健統計をもとに考察する。その上で、看護・医療・福祉の現場における生活環境や環境衛生について理解を深める。具体的には、地球温暖化現象、オゾン層破壊、酸性雨、砂漠化現象、公害、廃棄物処理、食品安全、水の安全性、感染症、アレルギーなどについて概説するとともに、看護と生活環境の課題について明らかにする。また、物理的・化学的環境のみならず、心理的・社会的環境のあり方についても言及し、ストレス社会における調整についても学習する。											
<b>授業目標：</b> 1. フロレンス・ナイチンゲールの「看護覚え書」の中で特に人間と環境の関係について述べるができる。 2. 人間の生活環境としての快適環境条件、不適環境条件ならびに環境保全、環境衛生の必要性について述べるができる。 3. 地域環境汚染と公害、地球環境汚染と地球温暖化並びにその他の各種地球環境問題について説明できる。 4. 環境汚染物質の取り込み、代謝、排せつ、並びにその毒性と健康被害について説明できる。 5. 大気環境、水環境、土壌環境の健康影響、関連する感染症、水の安全性、毒性物質の体内蓄積について説明できる。 6. 生物学的環境と病原微生物、食品安全のための食中毒、寄生虫、衛生害虫、アレルギー等について説明できる。 7. 現代社会におけるストレスに起因する心の病について述べるができる。 8. 廃棄物処理、医療廃棄物の処理及び移動について説明できる。											
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>											
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）			授業形態	担 当	
1	フロレンス・ナイチンゲールの「看護覚え書」から人間と環境についてディスカッションする					事前：シラバスの内容理解 事後：「看護覚え書」の熟読			講義	藤井	
2	環境省の発足から環境基本法～東日本大震災にかかる環境省の対応について調べた内容を発表する					事前：第1章「環境問題のあゆみ」の熟読 事後：生活環境についてまとめる			講義	藤井	
3	公害健康被害（大気汚染系疾病、水俣病、イタイイタイ病、重金属被害など）について調べた内容を発表する					事前：公害健康被害について、各自調べる 事後：公害問題についてまとめる			講義	藤井	
4	一般環境における化学物質ばく露の把握 ダイオキシン対策とPCB対策について調べた内容を発表する					事前：第3章「化学物質対策」について、各自調べる 事後：ダイオキシンについてまとめる			講義	藤井	
5	大気汚染対策について調べた内容を発表する					事前：第4章「環境保全対策」について、各自調べる 事後：大気汚染についてまとめる			講義	藤井	
6	水質汚濁対策について調べた内容を発表する					事前：第4章「環境保全対策」について、各自調べる 事後：水質汚濁についてまとめる			講義	藤井	
7	騒音・振動・悪臭対について調べた内容を発表する					事前：第4章「環境保全対策」について、各自調べる 事後：環境保全対策についてまとめる			講義	藤井	
8	地球環境 地球温暖化対策、オゾン層保護対策、酸性雨対策について調べた内容を発表する					事前：第4章「環境保全対策」について、調べる 事後：地球環境についてまとめる			講義	藤井	
9	廃棄物対策の動向 廃棄物対策のあゆみについて調べた内容を発表する					事前：第5章「廃棄物対策の動向」について調べる 事後：廃棄物対策のあゆみをまとめる			講義	藤井	
10	廃棄物対策の動向 一般廃棄物、医療廃棄物について調べた内容を発表する					事前：第5章「廃棄物対策の動向」について調べる 事後：一般廃棄物についてまとめる			講義	藤井	
11	廃棄物対策の動向 災害廃棄物について調べた内容を発表する					事前：第5章「廃棄物対策の動向」について調べる 事後：災害廃棄物についてまとめる			講義	藤井	
12	石綿健康被害について調べた内容を発表する					事前：第6章「環境要因による健康影響に関する取り組み」について知らる 事後：石綿健康被害についてまとめる			講義	藤井	
13	生活環境施設の動向 食品安全行政の動向 について調べた内容を発表する					事前：第7編第1章「生活環境施設の動向」第2章「食品安全衛生行政の動向」について調べる 事後：食品の安全対策についてまとめる			講義	藤井	
14	化学物質の安全対策の動向について調べた内容を発表する					事前：第7編第3章「化学物質の安全対策の動向」について調べる 事後：家庭用品中の化学物質についてまとめる			講義	藤井	
15	森永ひ素ミルク中毒のDVDを視聴して食品衛生について考え、ディスカッションする					事前：第7編、第9編の振り返り 事後：授業のまとめ			講義	藤井	
<b>教本：</b> 国民衛生の動向 2026/2027 厚生労働統計協会											
<b>参考文献：</b> フロレンス・ナイチンゲール「看護覚え書」小玉香都子・尾田葉子訳 日本看護協会出版会、2015 社会・環境と健康 公衆衛生学 2026年版											
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加態度等（20%）、レポート（40%）、最終レポート（40%）等で総合評価する。なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。まとめノートを使用して、予習、復習を行い授業に臨むこと。											
<b>学生へのアドバイス：</b> この授業を通して、フロレンス・ナイチンゲールの「看護覚え書」に書かれている人間と環境の関りの大切さを学んでください。参考図書をたくさん読んで、積極的に授業内容を理解するように努めてください。 毎回調べた内容を発表して、ディスカッションします。事前学習を怠らないようにしてください。											

開 講 年 次	2 年次 前期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	マルチメディア表現 (Multimedia)					ナンバリング	N-IN24	科目分類	基礎分野
担 当 教 員	鈴木 秀顯					1 科目当たりの合計自己学習時間			60時間
履 修 条 件	前提科目	情報基礎							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 本講義は、社会とりわけ情報社会を理解した上で、コミュニケーション技術の基礎とそれに関わる社会現象上の諸問題を、多角的に理解する。また、企業、個人、地域社会、自治体、マスコミ、それぞれの立場に立った上でコミュニケーションについて、議論により理解を深める。PC上のコミュニケーションツールを利用して、ディスカッションを行います。									
<b>授業目標：</b> 現代社会のコミュニケーションについて、コミュニケーション技術の基礎を理解し、自分自身がその情報コミュニケーション能力を身につける。									
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	担 当
1	ガイダンス (産業社会とメディアの変容)					事前：なし 事後：議論レポートの作成		講義	鈴木
2	「メタバース空間とアバター」メタバースに入室し、メタバース空間の中でコミュニケーションをとります。					事前：精読① (115-124) 事後：議論レポートの作成		講義	鈴木
3	「対人コミュニケーションの不確定性」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読① (115-124) 事後：議論レポートの作成		講義	鈴木
4	「選択される情報と現実」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読① (125-137) 事後：議論レポートの作成		講義	鈴木
5	「技術の進歩と社会の適応問題」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読① (138-147) 事後：議論レポートの作成		講義	鈴木
6	「情報の格差問題」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読① (148-158) 事後：議論レポートの作成		講義	鈴木
7	「生活世界と情報モラル」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読① (159-168) 事後：議論レポートの作成		講義	鈴木
8	「ネット世界の人間関係」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読① (169-180) 事後：議論レポートの作成		講義	鈴木
9	「情報社会のなかの人間」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読① (181-190) 事後：議論レポートの作成		講義	鈴木
10	「コミュニケーション学とは」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読② (1-28) 事後：議論レポートの作成		講義	鈴木
11	「関係の中で生きること」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読② (29-46) 事後：議論レポートの作成		講義	鈴木
12	「記号をなすこと」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読 (47-66) 事後：議論レポートの作成		講義	鈴木
13	「意味の歩み」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読 (67-96) 事後：議論レポートの作成		講義	鈴木
14	「技術革新と技術仕様」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読 (97-120) 事後：議論レポートの作成		講義	鈴木
15	「情報の開かれとコミュニケーションの閉じ」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読 (121-152) 事後：議論レポートの作成		講義	鈴木
<b>教本：</b> ①『情報社会とコミュニケーション技術』（明石書店） ②『コミュニケーション学講義』（書籍工房早山）					<b>参考文献：</b> 『情報コミュニケーション学への招待』（ミネルヴァ書房）				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加状況等 (30%)、小テスト等 (20%)、レポート試験 (50%) 等で総合評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 必ず事前にテーマについて調査の上、参加するようにしてください。また、PCを用意の上、参加してください。									

開 講 年 次	2 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	保健医療福祉行政と政策 (Health and Welfare Administrations, and its' Policies in Japan)					ナンバリング	N-LA63	科目分類	基礎分野
担 当 教 員	渡邊 良久					1 科目当たりの合計自己学習時間			30時間
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 保健医療福祉の衛生行政と社会保障について学修し、看護のコーディネーション能力を開発、強化することを目的とする。総論として、保健医療福祉行政制度の変遷、国・都道府県・市区町村による保健医療福祉行政の仕組みと役割などについて学修する。各論として、健康増進・公衆衛生・医事行政、母子保健福祉行政、老人保健福祉行政、障害者保健福祉行政、産業保健福祉行政、日本の社会保障制度とその仕組み・問題点などについて学修する。									
<b>授業目標：</b> 1. 日本の社会福祉・社会保険制度について説明できる。 2. 看護職として地域の社会福祉機能の関わり方について説明できる。 3. 今後必要な社会福祉のあり方について述べるができる。 4. 保健医療福祉分野における各種の制度や関係法令が説明できる。 5. 保健医療福祉行政とその中における看護職の位置づけが説明できる。 6. 今後の保健医療福祉の制度改革の方向性を述べるができる。									
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1	社会保障制度と社会福祉に関する法や施策					事前：シラバス熟読 事後：社会保障制度と社会福祉に関する法律についてまとめる		講義	渡邊良久
2	社会保障制度の基本（小テスト） 医療保険制度					事前：テキスト「医療保障」を熟読 事後：医療保険制度についてまとめる		講義	渡邊良久
3	所得保障と公的扶助（小テスト） 労働保険、年金、生活保護					事前：テキスト「所得保障」を熟読 事後：労働保険、年金、生活保護についてまとめる		講義	渡邊良久
4	介護保険制度、高齢者に関する法律（小テスト）					事前：テキスト「介護保障」、「福祉法」を熟読 事後：介護保険制度、高齢者に関する法律をまとめる		講義	渡邊良久
5	社会福祉の分野とサービス（小テスト） 障害者福祉、母子福祉					事前：テキスト「社会福祉の分野とサービス」を熟読 事後：障害者福祉、母子福祉についてまとめる		講義	渡邊良久
6	社会福祉の展望 社会福祉の歴史と今後の方向性					事前：テキスト「社会福祉の展望」を熟読 事後：社会福祉の歴史と今後の方向性についてまとめる		講義	渡邊良久
7	疾病予防に関連する法律（小テスト） 地域保健法、健康増進法、感染症に関する法律					事前：テキスト「保健衛生法」を熟読 事後：地域保健法、健康増進法、感染症に関する法律をまとめる		講義	渡邊良久
8	学校保健や労働に関する法律（小テスト）					事前：テキスト「労働法と社会保障基盤整備」を熟読 事後：学校保健や労働に関する法律をまとめる		講義	渡邊良久
<b>教本：</b> 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③ 看護関係法令④ 医学書院					<b>参考文献：</b> 随時提示する。				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 小テスト（60%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 看護職として活動する際、保健医療福祉行政との関わりが不可欠です。特に人口の高齢化に伴い、保健医療福祉を取り巻く環境は激変しているため、高齢者福祉の制度や関連する様々な法制度が頻繁に改定されています。法制度やしくみを理解し、地域や患者家族と適切に関われる看護師となることを目指しましょう									

開 講 年 次	2 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	健康障害 C (Health Disorders C)					ナンバリング	N-MS23	科目分類	専門基礎分野
担 当 教 員	成尾宗浩・中 正剛・別所文雄・関口 剛					1 科目当たりの合計自己学習時間			60時間
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 1) 運動器系の病態の特性：①骨の構造と機能、②腱・筋肉の構造と機能、③関節靭帯の構造と機能を学修し、運動器が人間の日常生活（QOL）に強く影響していることを理解し、さらに運動器疾患の各病態メカニズム、検査、症状および治療について学修をする。また、回復期におけるリハビリテーションの実際について、その適応や実技、装具などについても学ぶ。 2) 小児の健康障害：人間の成長と発達より、乳児期、幼児期、学童期、思春期各期の身体的・精神的発達について理解し、小児期特有の症状（発熱、脱水、呼吸困難、けいれん、嘔吐、下痢、湿疹、食欲不振など）や疾患のメカニズム、検査、治療について学修する。また、小児疾患の疾病の定義、病態、診断、症状、検査、治療について、事例などを紹介しながら学修する。また、救急救命の必要な事故・外傷、虐待、ハイリスク新生児、先天性疾患、心身障害のある小児の治療などについても学ぶ。小児の慢性期および終末期の治療についても学修する。 3) 精神・心理の健康障害：精神の構造と機能を理解し、それぞれの健康レベルと障害との関連、精神の不健康状態について理解するための知識を学び、今日の精神医学の知識を学修する。									
<b>授業目標：</b> 1. すでに学んだ人体の構造と機能（運動器系）を想起できる。 2. 各ライフステージによる運動器系の疾病の特徴を説明できる。 3. 運動器の症状とその病態について説明できる。 4. 運動器の検査及び診断について説明できる。 5. 運動器の治療の特徴を踏まえ、治療の説明ができる。 6. リハビリテーションの実際についてその適応や実技について説明ができる。 7. 小児疾患全般についての知識を獲得する。 8. 小児看護の果たすべき役割を学習する。 9. 精神症状の理解 10. 主に統合失調症、気分障害の理解 11. 主に薬物療法の理解									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1～5	精神症状論と状態像 統合失調症 気分障害 神経症その他 精神治療学					事前：テキストを読んでおく 事後：ノートの記録をしながら本日の講義内容を確認する		講義	関口
6～10	運動器の構造と機能 骨折・脱臼・捻挫 骨の腫瘍 廃用症候群 変形性関節症 筋ジストロフィー、重症筋無力症 骨粗鬆症 腰痛症（椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症）					事前：本日の講義範囲の教本を読む 事後：ノートの記録をしながら本日の講義内容を確認する		講義	成尾中
11	先天異常、染色体異常、新生児疾患（胎内感染、発生異常を含む） 代謝性疾患（先天性代謝異常スクリーニングを含む：糖尿病は内分泌疾患で）					事前：講義範囲の教本を読む 事後：ノートの記録をしながら本日の講義内容を確認する		講義	別所
12	内分泌疾患（糖尿病、成長・発育を含む）、感染症								
13	免疫疾患（免疫不全、アレルギー・リュウマチ性疾患など）、呼吸器疾患、循環器疾患（先天性心疾患、川崎病など）								
14	消化器疾患、血液疾患、悪性新生物、腎泌尿器疾患（水・電解質異常などを含む）								
15	神経疾患（発達を含む）、運動器疾患（骨疾患、筋疾患など）、精神疾患（発達障害を含む）								
<b>教本：</b> 1 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学10「運動器」医学書院 2 系統別看護学講座「小児臨床看護各論」医学書院 3 系統別看護学講座 精神看護の基礎 「精神看護学①」医学書院					<b>参考文献：</b> 1 新体系 看護学全書 成人看護学11「運動器」メジカルフレンド社 2016年度版 2 ナーシング・グラフィカ健康の回復と看護⑤「運動機能障害」MCメディア出版 2016年度版 その他は随時提示する。				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 定期試験（100%）を原則とし、出席状況等を加味して判断する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 身体の構造・機能の運動器や神経系及び血管系の復習を十分してから、この授業に参加することで、よりいっそうの学習成果を得ることができます。									

開講年次	2年次 前期	選択・必修	必修	単位数	1	時間数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	薬物や放射線による人間の反応 (Human Response to Drugs and Radioactive Substances)					ナンバリング	N-MS33	科目分類	専門基礎分野
担当教員	吉井信哉・高田英明					1科目当たりの合計自己学習時間			30時間
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要： 多くの疾患において治療の中心となるのは薬剤である。この授業では、薬理学総論として薬物の基本的な知識・法・規則などを概略的に学習する。(具体的な作用・副作用など各論的な部分は健康障害A、Bで学ぶ。)</p> <p>また、現代の医療では、腫瘍に対する放射線治療だけでなく、放射線を使った検査機器の発展とともに放射線の医療に果たす役割はますます大きくなっている。この学科目では放射線の医療利用(放射線診断、放射線治療、輸血用の血液に対する放射線照射等)、人間への放射線の作用と健康への影響・リスク、放射線利用の際の医療者の被ばく防護対策を学ぶ。</p>									
<p>授業目標： (薬物による人間の反応)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬物の作用点(受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーター)を説明できる。</li> <li>2. 薬理作用を規定する要因(用量と反応、親和性等)や薬物動態(吸収、分布、代謝、排せつ)を説明できる。</li> <li>3. 薬物の蓄積、耐性、依存、習慣性や嗜癖を説明できる。</li> <li>4. 薬物相互作用とポリファーマシーについて概説できる。</li> <li>5. 薬物の投与方法(経口、舌下、皮膚、粘膜、直腸、注射、吸入、点眼、点鼻等)の違いによる特徴を説明できる。</li> <li>6. 薬物作用の個人差に関与する因子を説明できる。</li> </ol> <p>(放射線による人間の反応)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 放射線の種類、作用、単位を列挙し、説明できる。</li> <li>2) 「放射線」と「放射能」の違いを説明できる。</li> <li>3) 放射線被曝の種類を列挙し、説明できる。</li> <li>4) 防護の三原則を説明できる。</li> <li>5) 各種画像検査を列挙し、その特徴、必要な前・後処置、禁忌事項がある場合にはそれを説明できる。</li> <li>6) 造影剤の使用意義と有害事象について説明できる。</li> <li>7) 核医学検査の特徴および注意事項を説明できる。</li> <li>8) 痛治療における三大治療方法を列挙し、それぞれの特徴を説明できる。</li> <li>9) 放射線治療の生物学的背景を説明できる。</li> <li>10) 放射線治療の方法を列挙し、特徴を説明できる。</li> </ol>									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態	担当
1	薬物による病気の治療、薬物の作用するしくみ(薬物受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーター)					事前学習：教本1、1章、2章Aを読んで、疑問点を整理しておく 事後学習：プリントを見直して講義の復習、課題レポート提出		講義	高田 英明
2	薬物の体内動態(薬物の投与経路、吸収、分布、代謝と排泄、体内動態の指標)					事前学習：教本1、2章Bを読んでおく。 事後学習：プリントを見直して講義の復習、課題レポート提出		講義	高田 英明
3	薬物の相互作用・ポリファーマシー、薬効の個人差に影響する因子(年齢、性、妊娠、遺伝子)					事前学習：教本1、2章C、Dを読んでおく。 事後学習：プリントを見直して講義の復習、課題レポート提出		講義	高田 英明
4	薬物使用の有益性と危険性(用量による影響、副作用、薬物耐性・依存)、薬害エイズ、予防接種によるB型肝炎、薬と法律(医薬品に関する法律、新薬開発)					事前学習：教本1、2章E、Fを読んでおく。 事後学習：プリントを見直して講義の復習、課題レポート提出		講義	高田 英明
5	放射線と医学、放射線防護と健康管理 医療における放射線医学の役割、歴史、放射線医学の総論的な知識を修得する。また、放射線障害や放射線防護を学ぶ。					事前学習：教本を読んでおく 事後学習：プリントを見直して講義の復習、課題レポート提出		講義	吉井 信哉
6	X線・CT・MRI・超音波 X線CTを含めたX線診断の特徴ならび、MRIと超音波検査の特徴を学び、画像のなりたちを理解し、実際のCT・MRI・超音波検査に役立つ知識を身に付ける					事前学習：教本を読んでおく 事後学習：プリントを見直して講義の復習、課題レポート提出		講義	吉井 信哉
7	核医学・IVR血管造影 核医学検査や血管造影の特徴を学び、画像のなりたちを理解し、血管造影の診断技術を応用した治療手技IVRの必要性和手技を理解し、実際の検査に役立つ知識を身に付ける					事前学習：教本を読んでおく 事後学習：プリントを見直して講義の復習、課題レポート提出		講義	吉井 信哉
8	放射線治療 放射線治療の原理や基礎、照射法の種類など総論的な事項を学び、急性有害反応など実際に役立つ知識を身に付ける					事前学習：教本を読んでおく 事後学習：プリントを見直して講義の復習、課題レポート提出		講義	吉井 信哉
<p>教本： 1. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [3] 薬理学(第1部総論部分)、吉岡充弘、泉剛、井関健、横式尚司、菅原満、医学書院 2. 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院</p>									
<p>成績評価の方法、評価基準： 出席時間・授業参加状況等は定期試験受験のための必要条件とし、小テスト・レポート等(20%)、定期試験(80%)等で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目(レポート等)についてもすべて評価しない。</p>									
<p>学生へのアドバイス： この授業科目の内容は、1年生で履修した健康障害A、Bの各疾患について診断や治療に用いる薬物や放射線をまとめて学びます。医療現場で薬物や放射線の使用はきわめて有効ですが、同時に副作用など悪影響も少なくありません。基本的な薬物や放射線のはたらきメカニズムを理解しておくことは重要です。教科書にあらかじめ目を通しておくなど、毎回予習復習をするように心がけ、授業内容の理解に努めて下さい。Web上でも有益な情報が多く得られますが、うまく理解できないところは積極的に質問し、理解しておくことが肝要です。</p>									

開 講 年 次	2 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	医療支援技術 (Medical and Nursing Technologies)					ナンバリング	N-BN43	科目分類	専門分野
担 当 教 員	牛島典子・勅使河原俊子・西 法子・小俣ちはる					1 科目当たりの合計自己学習時間			30時間
履 修 条 件	前提科目	生活援助技術演習Ⅰ・Ⅱ、フィジカルアセスメント演習、看護方法論演習の単位修得済							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 健康、疾患、障害に対する診療の補助技術ついて、安全・安楽に行動するための法と理論的根拠について理解をして実践できるように学習する。具体的には、与薬法、検査法等の技術について看護の視点を含め学ぶこととする。									
<b>授業目標：</b> 1. 診療の補助に伴う援助を実践するために必要な知識と方法を学ぶことができる。 2. 診療の補助に伴う援助を受ける対象者を理解し、対象者の立場に立った援助が考えられる。 3. 診療の補助に伴う援助技術の特徴を理解し、基礎的技術が確実に、安全に実施できる。									
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)				事前・事後学習 (学習課題)			授業形態	担 当
1・2	医療支援技術授業の進め方 診療の補助と医行為 安全確保の技術				事前：シラバス、講義に関する教科書を読み、事前に学習内容を確認して講義に臨む。 事後：事後課題を提出する。授業の復習をする。(次回、確認テストあり)			講義	牛島
3・4	感染防止の技術① 演習：無菌操作				事前：無菌操作・滅菌物の取り扱いについての演習課題を提出する。 1年生で学習した感染防止対策を復習して臨む。 事後：事後課題を提出する。授業の復習をする。(次回、確認テストあり) 滅菌手袋の着脱の練習をする。			講義 演習	勅使河原 他
5・6	創傷管理の技術 演習：包帯法 感染防止の技術② 技術試験：滅菌手袋の着脱				事前：創傷管理の技術についての演習課題を提出する。 事後：事後課題を提出する。授業の復習をする。(次回、確認テストあり)			講義 演習	牛島・ 勅使河原 他
7・8	呼吸・循環を整える技術①				事前：呼吸・循環を整える技術(酸素療法・排痰ケア)についての演習課題の提出をする。 事後：事後課題を提出する。授業の復習をする。(次回、確認テストあり)			講義 演習	牛島 他
9・10	呼吸・循環を整える技術② 演習：酸素療法・排痰ケア								
11・12	排泄の援助技術①				事前：排泄の援助技術についての課題を提出する。 膀胱留置カテーテル挿入・洗腸についての演習課題を提出する。 事後：事後課題を提出する。授業の復習をする。(次回、確認テストあり)			講義 演習	勅使河原 他
13・14	排泄の援助技術② 演習：膀胱留置カテーテル、浣腸								
15・16	食事援助技術(非経口的栄養摂取の援助) 演習：経鼻経管栄養法				事前：非経口的栄養摂取の援助についての演習課題を提出する。 事後：事後課題を提出する。授業の復習をする。(次回、確認テストあり)			講義 演習	小俣 他
17・18	与薬の技術① 与薬の基礎知識				事前：与薬の技術に関する教科書を熟読し、授業に臨む。 事後：事後課題を提出する。授業の復習をする。(次回、確認テストあり)			講義	牛島 他
19・20	与薬の技術② 演習：皮下注射				事前：皮下注射についての演習課題を提出する。 事後：事後課題を提出する。授業の復習をする。(次回、確認テストあり)			講義 演習	牛島 他
21・22	与薬の技術③ 演習：筋肉内注射				事前：筋肉内注射についての演習課題を提出する。 事後：事後課題を提出する。授業の復習をする。(次回、確認テストあり)			講義 演習	牛島 他
23・24	検査・処置における技術① 生体検査・検体検査				事前：検査に関する教科書を熟読し、授業に臨む。 事後：授業の復習をする。(次回、確認テストあり)			講義	牛島 他
25・26	検査・処置における技術② 演習：静脈血採血				事前：静脈内注射についての演習課題を提出する。 事後：事後課題を提出する。授業の復習をする。(次回、確認テストあり)			講義 演習	牛島 他
27・28	与薬の技術④ 静脈内注射・輸血管理				事前：静脈内注射・輸血管理についての演習課題を提出する。 事後：事後課題を提出する。授業の復習をする。(確認テストあり)			講義 演習	牛島 他
29・30	与薬の技術⑤ 演習：点滴静脈内注射								
<b>教本：*</b> 1年生で購入済 ①系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ：医学書院 ②系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ：医学書院 <b>参考文献：</b> ①看護がみえるvol.2 臨床看護技術：メディックメディア ②根拠からわかる！実習で実践できる！臨床看護技術：照林社 ③看護技術ブラックティス 一つひとつの根拠がよくわかる！：学研 ④演習・実習に役立つ基礎看護技術 根拠に基づいた実践をめざして：ヌーヴェルヒロカワ ⑤根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術：医学書院 ⑥根拠から学ぶ基礎看護技術：サイオ出版									
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 演習参加状況、技術試験、確認テスト、事前・事後学習等(40%)、定期試験(60%)等で総合評価する。 なお、課題の提出は期限厳守であり、提出が遅れた場合には減点の対象となる。									
<b>学生へのアドバイス：</b> ①演習に向けて事前課題を提示するため、事前課題を行っていることが演習実施の前提とします。事前課題と講義内での知識を統合し、確実かつ安全な演習へとつなげてください。 ②毎回、確認テストを実施します。授業後に復習をして、基本的な技術の修得をしてください。 ③対象者の体験をすることで援助時の知識・技術・態度の重要性を理解することができます。グループ内で協力して演習に臨んでください。 ④演習では怪我等の危険が伴うため、注意力が欠如せぬように体調を整え、真剣に慎重に演習に臨んでください。									

開 講 年 次	2 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	90	授業形態	実習
授業科目(英文)	基礎看護ケア実践Ⅱ (生活の援助) (Basic Nursing PracticumⅡ)					ナンバリング	N-NP13	科目分類	専門分野
担 当 教 員	藤井智恵子・牛島典子・勅使河原俊子・西 法子・小俣ちはる								
履 修 条 件	前提科目	基礎看護ケア実践Ⅰの単位修得済 医療支援技術の受験資格有							
	その他	IGRA検査、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。							
授業概要： 看護の対象である患者に対して、既習の知識、技術、態度を実際に適用し実践することを通して、看護学について基本的に理解することを目的とする。特に対象理解に着目し、患者とのコミュニケーションおよび日常生活援助技術の一部を指導下において提供し、入院生活や病気がその人にどのような生活上の変化をもたらしているのか、またそれによって生じた基本的ニーズの未充足に対してケアすることによって、対象の生活行動が全人的に拡大していく過程について理解する。また、専門的援助過程、問題解決思考過程、看護技術の成立過程、チームとの連携についても考察し、学修を深める。この実習を通して個々の倫理的課題を明確にする。									
授業目標： 1. 入院患者の生活環境を知り、入院生活や病気がその人に、どのような生活上の変化をもたらしているかについて全人的に理解する。 2. 対象に行われている「日常生活の援助」が、看護過程に基づいて実施されていることを説明でき、対象に沿った看護過程が展開できる。 3. 看護の専門性の一つである日常生活の援助により、患者の自然治癒力が促進されることの意味を理解できる。 4. 対象に関わるヘルスケアチームと看護チームの連携のあり方を説明することができる。 5. 看護を学ぶものとして倫理的配慮のもとに、対象と関わるができる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）			担 当
10日間	各自の実習指導者について実習を行う。 日程及び実習の展開は「基礎看護ケア実践Ⅱの要領」を参照すること（後日配布）。 第1日目：学内にて実習オリエンテーションと自己学習 第2日目～第4日目：受け持ち患者に対して情報収集とアセスメント、看護ケアの実施 第5日目：学内にて看護過程の展開と看護計画の立案 第6日目～第9日目：看護過程に基づいた受持ち患者への看護計画の実践、最終日に最終カンファレンスを行い、実習の学びを発表する。 第10日目：学内にてまとめと報告会、最終個人面接を行う。					「基礎看護ケア実践Ⅱの要領」参照 看護方法論演習、フィジカルアセスメント演習、日常生活援助技術演習Ⅰ・Ⅱの復習			藤井他
教本： 看護学原論、生活援助技術演習Ⅰ・Ⅱ、看護方法論演習、フィジカルアセスメント演習、医療支援技術で使用した授業資料、テキスト						参考文献： 随時提示する。			
成績評価の方法、評価基準： 実習態度、記録物等、別途定める実習評価基準に準ずる。 ●実習の前提として実習オリエンテーションへの出席も含むので、必ず出席すること。									
学生へのアドバイス： これまでの基礎看護学で学習した内容を基に実習を行うので、実習前に復習をしておくこと。特に技術は繰り返し練習を行うこと。 体調を整えて実習に臨むこと。 台風の時期と重なるため、学内日を変更することがある。									

開 講 年 次	2 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	看護と倫理 (Ethics of Nursing Practice)					ナンバリング	N-N113	科目分類	専門分野
担 当 教 員	大橋優美子・下村晃子					1科目当たりの合計自己学習時間			30時間
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 今日、医療がますます高度化、専門化している現場で、科学的な医学知識と技術を疾病治療に応用する中、治療、回復過程自体に心身の苦痛を伴うことが余儀なくされていることがある。そうした場合、患者が求めるケアとの間に倫理的問題意識が発生する。現代医療倫理の歴史と背景、患者の権利と責務、インフォームド・コンセント、専門職業人としての看護師の倫理観、価値観、責任のあり方、ケアの倫理及び事例等をもとに学習する。									
<b>授業目標：</b> 1. 倫理思想の要点を説明できる。 2. 生命倫理の諸問題を看護師の立場で適切に理解し、説明できるようにする。 3. 人間に対する理解を深め、自分の考えを話すことができる。 4. すでに学んだ主要な看護関係法規の知識を把握した上で、看護師の職務を法的な側面から説明できる。									
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1	＜看護倫理を学ぶために＞ Aなぜ倫理を学ぶのか、B本書で学ぶこと他					予習、P1～P4テキストを読む 復習：本日の内容を理解する		講義	大橋 下村
2	＜生命倫理＞A生命倫理とは何か、B生命倫理の理論、 C. 生命倫理の進展と看護職の責務					予習、P24～P40テキストを読む 復習：本日の内容を理解する		講義	大橋 下村
3	＜生殖の倫理＞ ＜死の生命倫理＞ ＜先端医療と制度の生命倫理＞					予習30分、P42～P95テキストを読む 復習：本日の内容を理解する		講義	大橋 下村
4	＜看護倫理とは何か＞ ＜専門職の倫理＞①社会から見た看護、②専門職に求められる倫理、③専門職の倫理綱領、					予習、P100～P130テキストを読む 復習：本日の内容を理解する		講義	大橋 下村
5	④看護業務基準と倫理実践、⑤保健師助産師看護師法と倫理 ＜倫理問題へのアプローチ＞①看護実践における倫理問題の特徴、②倫理問題へのアプローチ法。 ＜看護研究の倫理＞					予習、P131～P178テキストを読む 復習：本日の内容を理解する		講義	大橋 下村
6	事例分析 ケース1 小児看護の事例					予習、P190～P196テキストを読む 復習：自己の看護倫理をまとめる		グループ討議	大橋 下村
7	事例分析 ケース2、精神看護の事例					予習、P189～P207テキストを読む 復習：自己の看護倫理をまとめる		グループ討議	大橋 下村
8	事例分析 ケース3 終末期看護の事例					予習、P213～P220テキストを読む 復習：自己の看護倫理をまとめる		グループ討議	大橋 下村
<b>教本：</b> 「看護倫理」宮坂道夫 医学書院 2025年版					<b>参考文献：</b> 1. 「看護倫理1・2・3」坂川雅子訳 いすず書房、 2. 「ケアの倫理」ナーシング・サブリエ編集委員会編 メディカ出版、 3. 「看護倫理学」松本光子編集 ヌーベルヒロカワ、 その他は随時提示する。				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加状況等（10%）、課題レポート等（30%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 倫理に関する諸問題の多くは、明解な答えができることはほとんど期待できず、極めて厄介なものです。看護職になる人にはぜひ、関心を持ち学んでほしいものです。医療が人々の生命・健康に直接関わるものだけに、医療職にかかわる法制度は複雑で多岐にわたり、看護師の職務遂行においても多くの問題に直面します。それゆえに法の制定されている趣旨を学ぶことにより理解を深めることができます。講義に参加し自らの今後の倫理的糧にしてください。 欠席者は、欠席当日自宅での自己学修をした内容確認のため、課題を出すことがあります。（翌週の授業開始前に教員に提出する）。									

開 講 年 次	2 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	リプロダクティブ・ヘルス援助論 (Reproductive health Nursing theory)					ナンバリング	N-DN13	科目分類	専門分野
担 当 教 員	木原博子・藤井智恵子					1 科目当たりの合計自己学習時間			60時間
履 修 条 件	前提科目	身体の構造と機能 A・B の科目を修得していること							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 生殖及び周産期の援助の基本となるリプロダクティブヘルス・ライツの概念と共に、生殖にかかわる生理機能や性・生殖に関係する心理・社会的な基礎知識を学修する。また、発達段階で起こりやすい生殖にかかわる健康問題を理解し、健康的な生活への支援の基礎を学修する。									
<b>授業目標：</b> 1. 性及び生殖に関する概念について理解する。 2. 母子保健に関わる法律・制度・施策について理解する。 3. 性及び生殖に関する形態と機能について理解する。 4. 女性の各ライフステージにおける身体的、心理・社会的特徴および健康課題および問題について理解する。 5. 性及び生殖に関わる看護における倫理について考える。 6. 性及び生殖に関する看護の展開方法について学ぶ。									
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1・2	ガイダンス 授業の目的、方法、評価について 母性看護の基盤となる概念 母性看護の中心概念、母性看護実践を支える概念 リプロダクティブ・ヘルスに関する概念					事前：第 1 章を読む 事後：授業内容の振り返り		講義	木原 藤井
3～5	性及び生殖に関わる動向、法律、制度、施策 母性看護の変遷、母子保健の動向、母子保健統計 法律、制度、施策					事前：第 2 章を読む 事後：授業内容の振り返り		講義	木原 藤井
6	性及び生殖に関する生理 生殖器の形態、生殖器の機能					事前：第 3 章を読む 事後：授業内容の振り返り		講義	木原 藤井
7・8	女性のライフステージにおける健康と看護 思春期・成熟期の健康課題と看護					事前：第 5・6 章を読む 事後：授業内容の振り返り		講義	木原 藤井
9・10	思春期・成熟期の健康課題と看護					事前：第 5・6 章を読む 事後：授業内容の振り返り		講義	木原 藤井
11	更年期・老年期の健康課題と看護					事前：第 5 章を読む 事後：授業内容の振り返り		講義	木原 藤井
12・13	性及び生殖における倫理的・社会的課題 自己決定権、人工妊娠中絶、生殖補助医療 リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する倫理的課題					事前：第 1・6 章を読む 事後：授業内容の振り返り		講義 演習	木原 藤井
14	母性看護における看護過程 ウェルネス志向型の看護過程演習					事前：第 4 章を読む 事後：演習課題		講義 演習	木原 藤井
15	まとめ リプロダクティブ・ヘルス援助論を通して得た学びを整理し、リプロダクティブ・ヘルスの看護における重要な視点や姿勢について考える					事前：演習課題 事後：授業内容の振り返り		講義 演習	木原 藤井
<b>教本：</b> 森恵美他編 系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学 1 医学書院						<b>参考文献：</b> 随時提示する。			
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 小テスト、授業の取り組み状況（10%）、レポート（20%）、定期試験（70%）で総合的に評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 生涯を通じリプロダクティブ・ヘルスの理念を基盤として、性と生殖に関する看護に必要な知識と技術を学びます。積極的な姿勢で授業に取り組みましょう。									

開 講 年 次	2 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	老年期の発達援助演習 (Gerontological Nursing Care: Assessment & Skills)					ナンバリング	N-DN53	科目分類	専門分野
担 当 教 員	菊地悦子・草地潤子・掛谷和美・深田雅美					1科目当たりの合計自己学習時間			30時間
履 修 条 件	前提科目	老年発達援助論の単位を修得していること。							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 高齢者の健康障害に伴う生活機能のアセスメントとケアの技法を学習し、根拠に基づいた看護実践上の問題解決能力を習得する。既習の知識と技術を、実際の高齢者ケアの具体的な場面で個別性に応じて活用できるように、高齢者に対するコミュニケーションの技法（認知症高齢者、非言語的方法）、健康障害に伴うアセスメント技法（嚥下障害、低栄養・脱水、褥瘡、転倒・骨折、感染症など）、根拠に基づいた問題解決技法などについて学び、演習を通して、安全・安楽な柔軟性のあるケアの習得ができるようにする。									
<b>授業目標：</b> 1. 高齢者に多い健康課題に関してのアセスメント方法を説明できる。 2. 高齢者の生活機能のアセスメント方法を理解し、根拠に基づく看護が考えられる。 3. 高齢者看護に必要となる看護技術を習得する。 4. 高齢者とその家族への援助が考えられる。									
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1・2	科目ガイダンス 評価基準説明 老年看護学におけるヘルスアセスメント 1) ヘルスアセスメントの枠組み 高齢者の生活機能を整える看護① 生活機能とは 1) フレイルと廃用症候群のアセスメント 2) 生活リズムを整えるための看護					事前：シラバスの内容を確認する 事後：テキスト 高齢者のヘルスアセスメント、高齢者の生活機能を整える看護「生活リズム」を熟読する		講義 演習	菊地
3・4	高齢者の生活機能を整える看護② 活動 1) 基本動作と環境のアセスメント 2) 転倒のアセスメントと看護 高齢者の生活を整える看護③ コミュニケーション 1) 高齢者とのコミュニケーションの原則 2) コミュニケーション障害を持つ高齢者の看護					事前：テキスト 高齢者の生活機能を整える看護「日常生活を支える基本的活動」を熟読する 事後：講義内容をテキスト・講義資料にて学修する		講義 演習	深田
5・6	高齢者の生活機能を整える看護④ 清潔 1) 高齢者に生じやすい清潔に関する健康課題 2) 清潔の援助 高齢者の生活機能を整える看護⑤ 排泄 1) 高齢者の排泄ケアの基本 2) 高齢者の排尿障害のアセスメントとケア					事前：テキスト「検査・治療を受ける高齢者への看護」を熟読する 事後：講義内容をテキスト・講義資料にて学修する		講義 演習	草地
7・8	高齢者の生活機能を整える看護⑥-1 食生活 2) 食事に影響を及ぼす要因 3) 食事のアセスメント 4) 摂食嚥下障害 5) 低栄養 6) 脱水 7) 多職種協働による食支援					事前：テキスト 高齢者の生活機能を整える看護「食事・食生活」を熟読する 事後：講義内容をテキスト・講義資料にて学修する		講義 演習	草地
9・10	高齢者の生活機能を整える看護⑥-2 咀嚼・嚥下障害がある高齢者へのケア実践					事前：咀嚼・嚥下障害がある高齢者へのケアの課題 事後：咀嚼・嚥下障害がある高齢者へのケアについて演習課題を記載し学修する		演習	菊地 草地 掛谷 深田
11・12	認知機能障害のある高齢者の看護 1) 認知症の看護の原則 2) 認知症高齢者とのコミュニケーション 3) 認知症高齢者の環境調整 4) 認知症高齢者と家族へのサポート					事前：テキスト 認知機能障害のある高齢者の看護「認知症」を熟読する 事後：授業での学びを記述する		講義 演習	深田
13・14	健康逸脱からの回復を促す看護 1) 褥瘡のなりたちと臨床的特徴 2) 褥瘡の予防と看護 3) スキン-ケアのなりたちと臨床的特徴 4) スキン-ケアの予防と看護 5) 皮膚掻痒症・疥癬					事前：テキスト 健康逸脱からの回復を促す看護「褥瘡・スキン-ケア」を熟読する 事後：授業での学びを記述する		講義 演習	草地
15・16	検査：治療を受ける高齢者への看護 1) 検査を受ける高齢者の看護 2) 薬物療法を受ける高齢者の看護 入院治療を受ける高齢者の看護 1) リハビリテーションを受ける高齢者の看護 2) 入退院支援					事前：テキスト「検査を受ける高齢者の看護」「薬物療法を受ける高齢者の看護」「リハビリテーションを受ける高齢者の看護」「高齢者の入退院支援と看護」を熟読する 事後：授業での学びを記述する		講義 演習	深田 菊地
17・18	老年期にある人の看護過程① 看護過程の展開および事例の理解、アセスメント					事前：ゴードン (Gordon, M) による機能的健康パターンについて調べる 事後：事例患者の情報をゴードンのデータベースで整理する		講義 演習	菊地 掛谷 他

19・20	身体疾患のある高齢者の看護① 心不全 1) 心不全の病態生理 2) 高齢者の心不全の特徴 3) 治療と看護 身体疾患のある高齢者の看護② 感染症・肺炎 1) 高齢者に多い感染症と看護 2) 予防・診断・治療・看護	事前：テキスト「心不全」「感染症」「肺炎」を熟読する。 事後：看護過程の事例患者の心不全の病態・治療のアセスメントを行う	講義 演習	掛谷 菊地 草地 深田
21・22	老年期にある人の看護過程② アセスメント 全体像	事前：ゴードン (Gordon, M) の機能的健康パターンの各パターンのアセスメントを行う 事後：事例患者の全体像を作成する	講義 演習	菊地 掛谷 他
23・24	老年期にある人の看護過程③ 看護問題 優先順位、看護計画	事前：事例患者の看護問題を抽出する 事後：事例患者の看護問題を修正し優先順位を考える	講義 演習	菊地 掛谷 他
25・26	老年期患者の看護過程の展開④ 優先順位、看護計画 老年期患者の看護過程の展開⑤ 看護計画 発表 まとめ	事前：事例に基づき看護問題の優先順位、看護計画の課題を記述する 事後：事例患者の看護実践で用いる教育資料を作成する	講義 演習	菊地 掛谷 他
27・28	慢性疾患（心不全）を有する高齢者の学習支援 1) 塩分制限 2) 薬物療法 3) 転倒予防・運動 4) 急性増悪予防	事前：事例に基づき看護問題の優先順位、看護計画の課題を記述する 事後：事例患者の看護過程の課題提出用に整える	演習	菊地 草地 掛谷 深田
29・30	高齢者のリスクマネジメント 1) 高齢者と医療安全 2) 高齢者と救命救急 3) 高齢者と災害看護	事前：テキスト 高齢者のリスクマネジメントを熟読する 事後：講義内容をテキスト・講義資料にて学修する	講義	掛谷
教本： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院		参考文献： 根拠と事故防止からみた老年看護技術 医学書院		
成績評価の方法、評価基準： 課題提出状況（10%）、老年看護過程（30%）、定期試験（60%）等で総合評価する。				
学生へのアドバイス： 老年期の発達援助演習は、高齢者に多い健康課題と具体的援助方法を学び、更に演習を通して老年期にある人とその家族の援助を学びます。予習・復習、授業内容をノートにまとめること、学生間で知恵を出し合い最善を考えるワークをすることで、より健康的で、安全、安心、安楽に高齢者が生活する援助の基本的な知識、技術を習得することができます。				

開 講 年 次	2 年 次 前 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	15	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	家 族 看 護 学 (Family Health Nursing)					ナンバリング	N-CN23	科 目 分 類	専 門 分 野
担 当 教 員	望 月 麻 衣 ・ 大 脇 淳 子 ・ 前 島 貴 子 ・ 渡 部 月 子 ・ 保 母 恵					1 科 目 当 た り の 合 計 自 己 学 習 時 間			30 時 間
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>看護の対象として、地域で生活している家族を1つの単位として捉え、家族がセルフケア能力を高めることの重要性を理解し、援助方法を学ぶ。そして、家族自らが健康問題を解決し、より健康な生活を実践できるよう、事例を通して家族の役割・看護の役割を学修する。</p>									
授 業 目 標 :									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族の対象としての特徴を理解する。</li> <li>2. 家族看護理解のための諸理論がわかる。</li> <li>3. 家族看護における看護者の役割を学ぶ。</li> <li>4. 在宅療養者と家族の事例を通して、家族看護の実際を理解する。</li> </ol>									
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	担 当
1	家族とは 日本の家族の動向 等 家族の病気体験				事前：シラバス内容を確認する 事後：家族看護学 第1章と第2章を授業内容と合わせて復習			講義	望月麻衣
2	家族へのアプローチ 家族発達理論 家族システム理論 等				事前：家族看護学 第1章と第4章を熟読する 事後：授業内容の復習			講義	渡部月子
3	家族の対象としての特徴① 定位家族から生殖家族の発達・機能				事前：母性看護学概論「家族」を熟読する 事後：授業内容の復習			講義	前島貴子
4	家族の対象としての特徴② 小児期の家族の機能				事前：小児看護学概論「家族の特徴とアセスメント」を熟読する 事後：授業内容の復習			講義	大脇淳子
5	家族の全体像の把握 ジェノグラム・エコマップ				事前：自分の家族構成を想起する 事後：自分の家族のジェノグラムを修正する			講義	保母恵
6	看護者に求められる基本的姿勢と援助方法				事前：家族看護学 第3章を熟読する 事後：授業内容の復習			講義	望月麻衣
7	家族看護における看護者の役割① —家族との面接場面を通して—				事前：面接場面の準備をする 事後：面接場面を振り返る			講義	渡部月子
8	家族間後における看護者の役割② —在宅療養者と家族の事例を通して—				事前：既習内容を確認する 事後：事例を振り返る			講義	望月麻衣
教 本 :									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 中野綾美他編 家族看護学 家族のエンパワーメントを支えるケア メディカ出版 随時提示する。</li> <li>2 森恵美他編 母性看護学概論&lt;1&gt;、医学書院</li> <li>3 丸光恵著、奈良間美保編、小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院</li> </ol>									
参 考 文 献 :									
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況（GW含む）等（10%）、レポート等（30%）、定期試験（60%）等で総合評価する。</p> <p>なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。</p>									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
<p>家族とは何か。少子高齢化や夫婦共働きや核家族に伴い、家族の存在は大きな変容を迎えました。在宅療養を継続している家族に、私たち看護者は何ができるのか、何をしなければいけないのか、一緒に考えていきましょう。</p>									

開 講 年 次	2 年次 前期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	在宅看護援助論 (Introduction to Home Care Nursing)					ナンバリング	N-CN23	科 目 分 類	専 門 分 野
担 当 教 員	渡部 月子					1 科目当たりの合計自己学習時間			60 時間
履 修 条 件	前提科目	看護学原論を修得していること							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 在宅看護における対象と概念、訪問看護制度とその法的な枠組みや、訪問看護サービスの仕組みと訪問看護師の役割について学ぶ。地域で生活する在宅療養者とその家族の健康課題や、行われる支援について理解する。また地域包括ケアシステムにおける在宅看護の位置づけ、療養の場の移行に伴う継続看護の必要性、および地域包括ケアとして実践される多職種連携やケアマネジメントについて学ぶ。									
<b>授業目標：</b> 1. 在宅看護の理念・目的や特徴を学び、在宅看護の概要を把握できる。 2. 在宅看護が発展してきた必然性や社会的背景を知ることができる。 3. 社会から求められる在宅看護に関わる看護職の役割を理解できる。 4. 在宅看護における環境や生活の重要性を考慮することができる。 5. 地域包括ケアシステムの中の在宅看護の位置づけと働きを理解できる。 6. 多職種との連携・協働や継続看護の必要性について知り、地域で活躍する看護職としての資質を養うことができる。									
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )			事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )			授 業 形 態	担 当	
1	ガイダンス 在宅看護の概念、歴史と変遷 在宅看護の目的と特徴			事前：シラバスの確認、在宅看護に関する身近な事例を考える 事後：配布資料精読			講義	渡部	
2	在宅看護をめぐる社会文化的背景			事前：日本社会の現状について予習 事後：配布資料精読			講義	渡部	
3	在宅看護の対象としての療養者・権利・安全の保証			事前：訪問看護の対象に関する項目の熟読、家族看護について予習 事後：配布資料精読			講義	渡部	
4	在宅看護の法的基盤とシステム 介護保険制度・医療保険			事前：介護保険制度、医療保険制度に関する事項の熟読 事後：配布資料精読・介護保険制度・医療保険制度に関する課題			講義	渡部	
5	訪問看護制度の法的枠組み 訪問看護制度の理解			事前：訪問看護の制度に関する項目の熟読 事後：配布資料精読・訪問看護制度に関する課題			講義	渡部	
6	訪問看護ステーションの運営			事前：訪問看護の制度に関する事項の熟読 事後：配布資料精読			講義	渡部	
7	在宅看護と他職種の連携			事前：関係職種の連携に関する事項の熟読 事後：配布資料精読			講義	渡部	
8	在宅看護における連携 退院支援			事前：実習で得た医療施設での看護と在宅での看護について予習 事後：配布資料精読			講義	渡部	
9	在宅医療			事前：今までの実習で得た医療施設と在宅医療の連携について予習 事後：配布資料精読			講義	外部講師	
10	地域包括ケアシステムにおける連携			事前：地域包括ケアシステムに関する事項の熟読 事後：配布資料精読			講義	渡部	
11	訪問看護師の役割と活動①			事前：今まで学んできた中から訪問看護師の活動について予習 事後：配布資料精読			講義	渡部	
12	訪問看護師の役割と活動②			事前：今まで学んできた中から訪問看護師の活動の実際について予習 事後：配布資料精読			講義	外部講師	
13	社会資源と福祉用具の活用			事前：社会資源に関する事項の熟読 事後：配布資料精読・社会資源に関する課題			講義	渡部	
14	在宅看護における看護過程			事前：多様な場で生活する人の生活史をアセスメントする意義について予習 事後：配布資料精読			講義	渡部	
15	在宅看護における倫理的課題			事前：在宅看護における倫理に関する事項の熟読 事後：配布資料精読			講義	渡部	
<b>教本：</b> 地域・在宅看護論Ⅰ 地域・在宅看護論Ⅱ 南江堂					<b>参考文献：</b> 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 その他は随時提示する。				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加状況等 (10%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (70%) 等で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目 (レポート等) についてもすべて評価しない。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 在宅看護について学び人々の地域における療養生活を深く理解することは、将来どのような看護の現場に就職しても必ず役に立つと考えています。本科目は、現代社会に求められている在宅看護の全体像を知り、看護職としてのひとつの基盤を構築するためのものです。予習・復習をしっかりとって積極的に参加することを期待します。									

開 講 年 次	2 年次 後期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	感情と行動 (Emotion and Human Behavior)					ナンバリング	N-PS34	科目分類	基礎分野
担 当 教 員	牧 裕夫					1科目当たりの合計自己学習時間			60時間
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 医療・福祉・教育といった対人援助の領域では、サービスの対象者の心のケアが重要である。この講義では、人間の心と感情を理解するために、思考・感情・行動に関する心理学的基礎を学ぶとともに、サービス業の感情労働についても触れ、他者理解と自己理解を深め、人々とよりよいコミュニケーションを築くための考え方と方法について学習する。									
<b>授業目標：</b> 1. 感情について理解を深める。 2. 感情と行動の関係を理解することにより、対人援助職で起こりうる課題に適応できる能力を身につける。									
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当	
1	内的感情を示す様々なことば				事前：シラバスの確認 事後：指定資料の復習		講義	牧 裕夫	
2	感情概念と認知モデルの構造				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	牧 裕夫	
3	感情と記憶				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	牧 裕夫	
4	認知的感情理論				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	牧 裕夫	
5	感情経験の源と対人行動				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	牧 裕夫	
6	ポジティブな感情と社会的行動				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	牧 裕夫	
7	共感と援助行動				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	牧 裕夫	
8	感情の制御、開示と適応				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	牧 裕夫	
9	感情表出とコミュニケーション				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	牧 裕夫	
10	感情の生理学的基礎				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	牧 裕夫	
11	パーソナリティ特性と個人差				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	牧 裕夫	
12	感情の測定尺度				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	牧 裕夫	
13	感情労働の概念				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	牧 裕夫	
14	感情労働による課題－ケーススタディから学ぶ－				事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	牧 裕夫	
15	まとめ				事前：指定資料の予習 事後：なし		講義	牧 裕夫	
<b>教本：</b> 1. 講義内で適時配布する。									
<b>参考文献：</b> 1. 感情と行動・認知・生理－感情の社会心理学（対人行動学研究シリーズ） 土田昭司、竹村和久（編著） 誠信書房 2. 感情心理学・入門（有斐閣アルマ） 大平英樹（編著） 有斐閣アルマ 3. 感情と心理学－発達・生理・認知・社会・臨床の接点と新展開 高橋雅延、谷口高士 北大路書房 4. 管理される心－感情が商品になるとき A.R.ホックシールド(著)、石川准、室伏亜希 世界思想社 その他は随時提示する。									
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 心の理解と共有（1年次必修）を復習した上で履修することをすすめる。事前に指定資料を予習し、講義を受けることを前提としている。									

開 講 年 次	2 年次 後期	選択・必修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	看護のための教育学 (Pedagogy for Nursing)					ナンバリング	N-ED14	科目分類	基礎分野
担 当 教 員	大沢 裕					1科目当たりの合計自己学習時間			30時間
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>「人生をいかに生きるべきか」を考え、主張し、行動することは、グローバル化の進展しつつある今日、ますます重要になっている。この講義では、以上のことを念頭に置きながら、看護と教育の関係、教育の意義、思想、内容、方法、制度等について、看護師として必要な教育学の基礎的、基本的な概念等を学習する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>教育の意義、理念について理解し、教育の思想と歴史的変遷について学び、教育の基礎的理論を理解する。教育の制度・法規について理解する。教育実践の様々なあり方を知る。生涯学習社会の教育の現状と課題について認識する。</p>									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態	担 当	
1	看護と教育			事前：教育記事を読む 事後：ノートを読み返す			講義90分	大沢 裕	
2	家庭教育（家族の教育）			事前：家庭教育を調べる 事後：ノートを読み返す			講義90分	大沢 裕	
3	学校教育			事前：学校の特徴を調べる 事後：ノートを読み返す			VTR試聴45分・ グループ討論45分	大沢 裕	
4	諸外国の教育思想と歴史			事前：世界史を復習する 事後：ノートを読み返す			講義90分	大沢 裕	
5	教師論－看護師との比較			事前：教師に関する記事を調べる 事後：ノートを読み返す			講義90分	大沢 裕	
6	教育における遺伝（素質）と環境の問題			事前：遺伝について調べる 事後：ノートを読み返す			講義90分	大沢 裕	
7	現代の教育問題－虐待、いじめ、体罰等			事前：虐待等の記事を探す 事後：ノートを読み返す			講義90分	大沢 裕	
8	生涯学習と今後の教育課題（AI時代と教育）			事前：生涯と学びを考える 事後：全授業を振り返る			講義90分	大沢 裕	
<p>教本：</p> <p>『教育の知恵60』（大沢裕編著、一藝社）</p>				<p>参考文献：</p> <p>適宜、授業時に掲示する。</p>					
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>到達目標が達成できたかを評価する。教育に関わる基礎的事項が理解でき、教育的なものの見方・考え方が身についているかを、複数回提出させるレポートの内容によって総合的に評価する。</p> <p>評価の配分基準：（各授業時の小レポート内容 40%）、（期末のレポート内容 60%）</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>絶えず教育の時事的問題に関心を持ち、新聞記事を読んだり、インターネットで調べてみたりする習慣を身につけること。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 後 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	15	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	医 療 と 経 済 (Introduction to Health Economics)					ナ ン バ リ ン グ	N-EC53	科 目 分 類	基 礎 分 野
担 当 教 員	松 浦 広 明					1 科 目 当 た り の 合 計 自 己 学 習 時 間			30 時 間
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要									
<p>医療経済学は、医療や医療制度、そして人々の健康に関する様々な事象を扱う経済学の一分野です。ヨーロッパにおいては、医学の分野から、医療技術や診療行為の経済的評価を中心に発達し、アメリカでは、経済学の一分野として、医療制度の経済分析と言う形で大きく発展してきました。本講義では、わが国の医療制度について、特に経済学的側面から考察する。医療サービスの経済学的特殊性、医療保険の理論と実際、医療・看護サービスの経済評価など、医療制度の様々な側面を経済学的手法を用いて検討していきます。</p>									
授 業 目 標 :									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済学の基本的な考え方を理解する。</li> <li>2. 健康の決定要因としての医療の役割を理解する。</li> <li>3. 医療費の高騰とその原因を理解する。</li> <li>4. 医療費の高騰を抑えるための政策オプションについて理解する。</li> </ol>									
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	担 当
1	医療経済学とは何か?					事前：なし 事後：講義の復習		講義	松浦広明
2	健康への需要 v. 医療への需要					事前：1章1 事後：講義の復習		講義	松浦広明
3	健康の決定要因としての医療の役割					事前：7章 事後：講義の復習		講義	松浦広明
4	医療の供給					事前：なし 事後：レポート1 (翌週提出)		講義	松浦広明
5	医療のファイナンス					事前：1章4-6, 9-11 事後：講義の復習		講義	松浦広明
6	医療経済評価Ⅰ：費用対効果分析					事前：4章 (2章の内容もカバーします) 事後：講義の復習		講義	松浦広明
7	医療経済評価Ⅱ：効率性と公平性					事前：なし 事後：講義の復習		講義	松浦広明
8	まとめ					事前：なし 事後：レポート2 (翌週提出)		講義	松浦広明
<p>教本： 津川 友介 (2020) 「世界一わかりやすい「医療政策」の教科書」</p> <p>参考文献： 1 松浦広明 (2023) 「健康の公平性、正義、権利」 井深陽子・後藤励・泉田信行編『健康経済学講義 ヒューマン・ケアのための理論と実証』東京大学出版会 2 マーク・ロバーツ、ウィリアム・シャオ、ピーター・バーマン、マイケル・ライシュ (2010) 「実践ガイド 医療改革をどう実現すべきか」日本経済新聞出版社 3 WHO (2000) The World Health Report 2000 – health systems: improving performance, Geneva: World Health Organization 4 Drummond MF. (2005) Methods for the economic evaluation of health care programmes. 3rd ed. New York: Oxford University Press 5 Cookson, R., Griffin, S., Norheim, O. F., &amp; Culyer, A. J. (Eds.). (2020). Distributional Cost-Effectiveness Analysis: Quantifying Health Equity Impacts and Trade-Offs. Oxford: Oxford University Press その他は随時提示する。</p>									
<p>成績評価の方法、評価基準： 2回のレポート (各50%) で評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 全ての重要な連絡はメールでします。大学のメールの使えない方は、初日までに使えるようにしておいてください。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 後 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	15	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	看 護 関 係 法 令 (Nursing Legislation and Regulation)					ナ ン バ リ ン グ	N-LA64	科 目 分 類	基 礎 分 野
担 当 教 員	望 月 麻 衣 ・ 渡 部 月 子 ・ 草 地 潤 子					1 科 目 当 た り の 合 計 自 己 学 習 時 間			30 時 間
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>保健師助産師看護師法の成立過程とその変遷について詳しく概説することにより、法における職業の権限と役割、責務について看護の視点から考察する。また、看護関係法規は医師法、薬剤師法、医療法などとともに医療における社会システムとして機能している。その仕組みを知ることにより、看護に課せられた社会的役割について考え、他の専門職との協働について考える機会とする。</p>									
授 業 目 標 :									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法 の 概 念 と 衛 生 法 の 概 念 に つ い て 学 び 、 そ の 重 要 性 を 説 明 で き る 。</li> <li>2. 医 事 法 と し て 、 「 看 護 の 基 盤 と な る 法 」 、 「 医 療 的 提 供 体 制 の 基 本 と な る 法 」 、 「 医 療 関 係 資 格 と 保 健 福 祉 資 格 法 」 に つ い て 理 解 で き る 。</li> <li>3. 薬 務 法 に つ い て 理 解 で き る 。</li> <li>4. 母 子 、 障 害 者 、 高 齢 者 に 関 す る 保 健 衛 生 法 、 社 会 保 険 法 、 福 祉 法 が 理 解 で き る 。</li> <li>5. 労 働 法 に つ い て 理 解 で き る 。</li> </ol>									
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )					事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )		授 業 形 態	担 当
1	法 の 概 念 ・ 衛 生 法 の 概 念 ( 法 の 概 念 、 衛 生 法 )					事 前 : 該 当 講 義 部 分 の 教 本 を 精 読 事 後 : 配 付 資 料 を 精 読 し 、 ま と め		講 義	望 月
2	【 医 事 法 ① 】 看 護 職 の 基 盤 と な る 法 ( 保 健 師 助 産 師 看 護 師 法 、 看 護 師 の 人 材 確 保 に 関 す る 法 律 な ど )					事 前 : 該 当 講 義 部 分 の 教 本 を 精 読 事 後 : 配 付 資 料 を 精 読 し 、 ま と め		講 義	草 地
3	【 医 事 法 ② 】 医 療 提 供 体 制 の 基 本 と な る 法 ( 医 療 法 ・ 臓 器 の 移 植 に 関 す る 法 律 な ど )					事 前 : 該 当 講 義 部 分 の 教 本 を 精 読 事 後 : 配 付 資 料 を 精 読 し 、 ま と め		講 義	望 月
4	【 医 事 法 ③ 】 医 療 関 係 資 格 法 と 保 健 福 祉 資 格 法 ( 医 師 法 、 薬 剤 師 法 な ど )					事 前 : 該 当 講 義 部 分 の 教 本 を 精 読 事 後 : 配 付 資 料 を 精 読 し 、 ま と め		講 義	草 地
5	【 薬 務 法 】 薬 剤 に 関 す る 法 ( 医 薬 品 医 療 機 器 等 法 な ど )					事 前 : 該 当 講 義 部 分 の 教 本 を 精 読 事 後 : 配 付 資 料 を 精 読 し 、 ま と め		講 義	望 月
6	【 保 健 衛 生 法 ・ 福 祉 法 】 母 子 ・ 障 害 者 に 関 す る 法 律 ( 母 子 保 健 法 ・ 障 害 者 総 合 支 援 法 な ど )					事 前 : 該 当 講 義 部 分 の 教 本 を 精 読 事 後 : 配 付 資 料 を 精 読 し 、 ま と め		講 義	草 地
7	【 社 会 保 険 法 ・ 福 祉 法 】 高 齢 者 に 関 す る 法 律 ( 介 護 保 険 法 、 老 人 福 祉 法 な ど )					事 前 : 該 当 講 義 部 分 の 教 本 を 精 読 事 後 : 配 付 資 料 を 精 読 し 、 ま と め		講 義	草 地
8	【 労 働 法 】 看 護 師 を 取 り 巻 く 労 働 に 関 す る 法 ( 労 働 基 準 法 な ど )					事 前 : 該 当 講 義 部 分 の 教 本 を 精 読 事 後 : 配 付 資 料 を 精 読 し 、 ま と め		講 義	望 月
教 本 :					参 考 文 献 :				
1. 系 統 看 護 学 講 座 健 康 支 援 と 社 会 保 障 制 度 ④ 看 護 関 係 法 令 医 学 書 院					1. 「 看 護 六 法 」 2. 「 国 民 衛 生 の 動 向 」 そ の 他 は 随 時 提 示 す る 。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 ( 10% ) 、 小 テ ス ト ( 10% ) 、 定 期 試 験 ( 80% ) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
な お 、 定 期 試 験 を 受 験 で き な か っ た 場 合 は 、 定 期 試 験 以 外 の 項 目 ( 小 テ ス ト 等 ) に つ い て も す べ て 評 価 し な い 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
看 護 関 係 法 令 は 理 解 が 困 難 な 科 目 で あ る が 、 看 護 師 の 業 務 に と つ て は 非 常 に 重 要 な も の で あ る の で 、 指 定 し た 教 科 書 の 内 容 は 必 ず 事 前 に 読 ん で お い て くだ さ い 。 そ し て 、 医 療 ・ 看 護 に か か わ る ニ ュ ー ス や ト ビ ッ ク ス に つ い て 、 日 頃 か ら 気 に し て み て くだ さ い 。									

開講年次	2年次 後期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	公衆衛生 (Introduction to Public Health)					ナンバリング	N-MS64	科目分類	専門基礎分野
担当教員	渡部月子・望月麻衣・保母 恵					1科目当たりの合計自己学習時間			60時間
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 公衆衛生学は、人の集団である地域や社会の保健衛生を対象として保健衛生状況を科学的に分析し、その問題点を明らかにして疾病の予防と健康増進に寄与するための学問である。公衆衛生の歴史を振り返りながら、疾病予防、健康の保持増進、健康管理、学校保健、産業保健、国際保健などの理解を深めることを目的とする。									
<b>授業目標：</b> 1. 公衆衛生の概念を理解する。 2. 疫学について説明できる。 3. 健康の増進と疾病予防について説明できる。 4. 地球規模の保健医療政策について説明できる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									

授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態	担当
1	公衆衛生の概念 公衆衛生の概念、歴史、活動対象、しくみ	事前：シラバスの内容理解 事後：公衆衛生の概念と歴史、活動対象の復習	講義	渡部
2	疫学 疫学の概念、疫学で用いる健康指標	事前：「疫学・保健統計」を熟読 事後：健康指標について復習	講義	渡部
3	疾病予防と疫学 公衆衛生の場での疫学－集団を捉える、原因を分析する	事前：「疫学・保健統計」を熟読 事後：疾病予防と疫学について復習	講義	渡部
4	感染予防① 感染症とその予防、わが国の感染症予防対策、院内感染	事前：「感染症とその予防対策」を熟読 事後：感染予防について復習	講義	渡部
5	感染予防② 公衆衛生上の重要な感染症とその対策	事前：「感染症とその予防対策」を熟読 事後：感染予防について復習	講義	渡部
6	母子保健 母子保健の水準、母子保健の課題、母子保健活動と行政	事前：「母子保健」を熟読 事後：母子保健について復習	講義	保母
7	成人保健 健康増進法、健康日本21	事前：「成人保健」を熟読 事後：成人保健について復習	講義	保母
8	高齢者保健 高齢化の現状と対策、高齢者保健活動と行政	事前：「高齢者保健」を熟読 事後：高齢者保健について復習	講義	保母
9	精神保健 精神保健の現状と対策、精神保健の活動理念	事前：「精神保健」を熟読 事後：精神保健について復習	講義	望月
10	歯科保健 歯科保健の現状と対策	事前：「歯科保健」を熟読 事後：歯科保健について復習	講義	渡部
11	生活環境 食品安全行政・生活衛生行政	事前：「環境と健康」を熟読 事後：食品・生活衛生行政について復習	講義	渡部
12	学校保健 学校における健康	事前：「学校と健康」を熟読 事後：学校保健について復習	講義	望月
13	産業保健 職場における健康	事前：「職場と健康」を熟読 事後：産業保健について復習	講義	望月
14	健康危機管理 健康危機管理の体制と実際	事前：「健康危機管理」を熟読 事後：健康危機管理について復習	講義	渡部
15	国際保健医療 経済格差と健康格差、開発途上国の健康問題	事前：経済格差と健康格差について予習 事後：国際保健医療について復習	講義	望月

**教本：** 系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度2 医学書院     
 **参考文献：** 国民衛生の動向 2026/2027 厚生労働統計協会

**成績評価の方法、評価基準：**  
 授業参加状況等（10%）、定期試験（90%）等で総合評価する。

**学生へのアドバイス：**  
 この授業を通して公衆衛生の大切さを学んでください。参考図書をたくさん読んで、積極的に授業内容を理解するように努めてください。

開 講 年 次	2 年次 後期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	ナランピング N-DN24 科目分類	講 義	専門分野
授業科目(英文)	小児発達援助論 (Introduction to Pediatric Nursing)					ナンバリング	N-DN24	科目分類	専門分野		
担 当 教 員	大脳 淳子					1科目当たりの合計自己学習時間			60時間		
履 修 条 件	前提科目	ライフステージと発達看護論、看護学原論、健康障害C									
	その他	なし									
<b>授業概要：</b> これからの社会を担う子どもたちが人格あるひとりの人間として尊重されるための子どもの権利擁護を基盤に、ライフサイクルにおける小児期の重要性を理解した上で、子ども固有の成長・発達の論理とともに、成育看護の観点から子どもの最善の利益を守るための小児看護の理念、倫理と役割、小児医療・保健・福祉・教育との連携や協働、子どもを取り巻く環境の重要性について講義する。											
<b>授業目標：</b> 1. 小児看護の対象と理念、こどもの誕生、小児医療・看護の変遷、小児を取り巻く社会（小児保健・医療の動向、法律と施策）を説明する。 2. こどもの権利擁護と小児看護の倫理に基づく看護を説明する。 3. 小児固有の成長・発達の論理を基に、乳児～思春期の成長・発達の特徴と生活行動の自立を支援する看護を説明する。 4. 小児期の健康を保持・増進するための小児各期のヘルスプロモーションを説明する。 5. 配慮が必要なこどもと家族の理解と保健・福祉・教育との連携と協働における看護の役割を考える。 6. こどもの健やかな成長・発達を支援する成育医療・成育看護の未来を展望する。 7. こどもの健やかな成長・発達を守るためにこどもと家族を取り巻く社会環境のあり方に関心をもつ。											
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>											
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）			授業形態	担 当	
1	ガイダンス 小児看護の対象と社会 こどもの誕生、小児保健医療と小児看護の変遷と現状					事前：小児看護の目指すところを一読 事後：講義内容の復習			講義	大脳	
2	こどもの権利擁護と小児看護における倫理 (レポート課題の提示)					事前：小児看護における倫理を一読 事後：こどもの権利について復習する			講義	大脳	
3	小児固有の成長・発達の論理(1) こどもの成長・発達の概念と成長・発育の評価					事前：こどもの成長・発達を一読 事後：講義内容の復習			講義	大脳	
4	小児固有の成長・発達の論理(2) こどもの成長・発達の理論（アタッチメント理論、心理・社会的発達の理論、認知的発達理論）					事前：母子関係・自我同一性・認知的発達の理論を調べる 事後：講義内容の復習			講義	大脳	
5	※家族にこどもが誕生する事例を通して、乳児期～思春期の看護を学ぶ 乳幼児期の成長・発達と看護(1)					事前：乳児・幼児期の成長の特徴と養育及び看護を一読 事後：事例（乳児）の課題に取り組む			講義	大脳	
6	乳幼児期の成長・発達と看護(2)					事前：乳児・幼児期の発達の特徴と養育及び看護を一読 事後：課題1：乳児期の成長・発達の特徴			講義	大脳	
7	乳幼児期の成長・発達と看護(3)					事前：乳児・幼児期の発達の特徴と養育及び看護を一読 事後：課題2：幼児期の成長・発達の特徴			講義	大脳	
8	こどもと家族のヘルスプロモーション(1) 小児の予防接種と健康教育					事前：予防接種と学校保健を一読 事後：講義内容の復習			講義	大脳	
9	こどもと家族のヘルスプロモーション(2) 小児期の事故の特徴と予防、安全教育					事前：こどもの事故防止、事故・外傷と看護（※1） 事後：講義内容の復習			講義	大脳	
10	学童期～思春期の成長・発達とヘルスプロモーション 学校保健					事前：学童～思春期の成長・発達と養育及び看護を一読 事後：課題3：学童～思春期の特徴(自主)			講義	大脳	
11	こどもをめぐる法律と政策、こどもと家族の諸統計					事前：こどもと家族を取り巻く社会を一読 事後：講義内容の復習			講義	大脳	
12	配慮が必要なこどもと家族の理解と看護(1) 発達障害					事前：障害のあるこどもと家族の看護を一読 事後：講義内容の復習			講義	大脳	
13	配慮が必要なこどもと家族の理解と看護(2) 児童虐待					事前：こどもの虐待と看護を一読 事後：講義内容の復習			講義	大脳	
14	こどもの死の理解とEnd Of Life care					事前：終末期にあるこどもと家族の看護を一読 事後：講義内容の復習			講義	大脳	
15	こどもの未来を支える成育医療・成育看護					事前：小児看護の課題を一読 事後：講義内容の復習			講義	大脳	
<b>教本：</b> 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学1「小児看護学概論・小児臨床看護総論」医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2「小児臨床看護各論」医学書院（※1） その他：「健康障害C(小児)」で使用したテキストおよび授業レジュメを持参する											
<b>参考文献：</b>											
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 課題とレポート等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。											
<b>学生へのアドバイス：</b> こども家庭庁「こどもまんなか社会」を目指す政策によるこどもと家族を支える様々な支援策が策定されています。少子化社会におけるこどもと家族を取り巻く社会問題(新聞やニュース等)に関心を持ち、小児期の健やかな成長・発達に必要な社会環境の在り方を考えてみましょう。健康障害Cで修得した小児期の専門基礎知識を活用します。授業レジュメは持参してください。また、小児を看護するためにこどもにとっての「大人モデル」としての態度(社会性)を身に着けられるようにしましょう。課題・レポート提出期限の遅れは、評価の対象となりませんのでご注意ください。											

開 講 年 次	2 年次 後期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	60	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	成人期の発達援助演習 I (急性期・回復期) (Adult Health Nursing: Assessment & Skills I)					ナンバリング	N-NP44	科目分類	専門分野
担 当 教 員	佐藤京子・下村晃子・川原理香・刈田明子・中野 香・川崎真子・川畑貴美子					1 科目当たりの合計自己学習時間			30時間
履 修 条 件	前提科目	2 年次前期までの必修科目を修得していること							
	その他	なし							
授業概要： 急激な健康破綻をきたした健康状態にある患者の身体的、心理的、社会的に及ぼす影響を理解し、生命の維持や健康の回復に必要な看護技術を学修する。学修内容は、周手術期やクリティカルな健康状態における看護援助の方法や健康回復を促すためのリハビリテーションに関する援助方法、そしてこのような健康状態にある患者と家族に対する精神的援助の意味と介入方法について学ぶ。 重症・重篤な健康状態にある患者と家族を支援するにあたり、さまざまな職種との連携についてイメージでき、自分の考え方を整理することも学修のねらいとしている。									
授業目標： 1. 周手術期およびクリティカルな状況にある対象者への看護ケアを理解する。 2. 健康状態をアセスメントするための観察方法を理解する。 3. 患者と家族に対する精神面からの支援方法を理解する。 4. 健康の回復や合併症を予防するための援助方法を習得する。 5. 周手術期にある患者の看護過程を展開できる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	担 当
1	(総論) 急性期における患者および看護の特徴					事前：急性期看護と患者の特徴について、テキストを精読し、準備して臨む。 事後：救急DVD視聴		講義	川畑
2	生命の危機的状況にある患者の看護								
3	周手術期の看護①					事前：周手術期の患者の特徴を理解して説明できるように準備する。 事後：講義のまとめとDVD視聴		講義	佐藤
4	周手術期の看護②								
5	急激な機能・形態の変化を伴う患者の看護 (運動器) 運動器にかかわる変化/事故・外傷を含む					事前：運動器の病態を理解して説明できるように準備する。 事後：講義のまとめ		講義	佐藤
6	急激な機能・形態の変化を伴う患者の看護 消化・吸収にかかわる変化 (下部消化管)/小腸・大腸・直腸					事前：下部消化管の病態を理解して説明できるように準備する。 事後：事例②の説明		講義	川原
7	急激な機能・形態の変化を伴う患者の看護 消化・吸収にかかわる変化 (上部消化管)/食道・胃					事前：上部消化管の病態を理解して説明できるように準備する。 事後：事例①の配布と説明		講義	川原
8	看護問題解決のための看護過程：事例演習 事例：①胃がんの手術患者					事前：事例①②患者の理解に必要な知識を理解して臨む。 事後：課題レポート提出		事例演習	全員
9	事例演習(1)(2)： 情報整理、分析、解釈、情報統合								
10	急激な機能・形態の変化を伴う患者の看護 消化・吸収にかかわる変化/肝臓・胆嚢・膵臓					事前：肝・胆・膵の病態を理解して説明できるように準備する。 事後：講義のまとめ		講義	川畑
11	泌尿器科疾患患者の周手術期看護 (腎臓・膀胱疾患)					事前：クリニカルパスとは何か理解して説明できるように準備する。 事後：講義のまとめ		講義	佐藤
12	開心手術を受ける患者の看護 心疾患で手術を受ける患者の看護					事前：心疾患の手術に必要な病態を理解して説明できるように臨む。 事後：講義のまとめ		講義	川原
13・14	看護問題解決のための看護過程 事例：①胃がんの手術患者 事例演習(3)(4)： 情報統合、アセスメント、全体像把握、関連図作成					事前：看護過程の展開のプロセスが理解できるように準備する。 事後：課題レポート提出		事例演習	全員
15	技術演習① 周手術期の看護 ・術後の深部静脈血栓症予防 弾性ストッキング着用					事前：手術前後の看護のワークブックを学習する。 事後：技術演習①の理解確認の小テスト ワークブック整理		実技演習	全員
16	・全身麻酔後の術後患者用ベッド作成 (根拠を踏まえて)								

17	開胸手術を受ける患者の看護 肺疾患／肺がん 甲状腺疾患で手術を受ける患者の看護 甲状腺腫瘍	事前：肺疾患の手術に必要な病態を理解して説明できるように臨む。 事後：講義のまとめ	講義	佐藤
18	脳神経疾患で開頭手術等を受ける患者の看護	事前：脳神経疾患で開頭術を受ける疾患の知識を確認して説明できるように準備する。 事後：講義のまとめ	講義	下村
19	看護問題解決のための看護過程 事例：①胃がんの手術患者	事前：看護過程の展開のプロセスが理解できるように準備する。 事後：課題レポート提出	事例演習	全員
20	事例演習(5)(6)：全体像把握、関連図作成 提示された看護問題を含めて事例全体の関連図作成と看護計画立案			
21	がん患者の看護①	事前：がんに関する疫学とは何か理解して説明できるように準備して臨む。 がん疾患の症状や治療法などテキストを精読し知識を確認して臨む。 事後：講義のまとめ	講義	川畑
22	がん患者の看護②			
23	技術演習② 周手術期の看護 ・手術直後患者の全身の観察 ドレーン挿入時の観察と管理	事前：ドレーン管理のワークブックを学習する。 事後：技術演習②の理解確認小テスト ワークブックの整理	実技演習	全員
24	各種ドレーンやカテーテルの取り扱い			
25	急激な機能・形態の変化を伴う患者の看護 (生殖器・乳房・前立腺) セクシュアリティにかかわる変化	事前：セクシュアリティにかかわる臓器の病態を理解して説明できるように準備する。 事後：講義のまとめ	講義	苅田
26	看護問題解決のための看護過程 事例：①胃がんで手術をうける患者	事前：看護過程の展開のプロセスが理解できるように準備する。 事後：発表後の課題レポート提出	事例演習	全員
27	事例演習(7)：看護過程展開の確認と発表準備			
28	事例演習(8)(9)：発表、まとめ			
29	周術期にある患者に影響するリスクと家族への支援について	事前：手術を受ける患者のリスクと家族の特徴を説明できるように準備する。 事後：講義のまとめ	講義	下村
30	臓器移植と脳死について	事前：臓器移植と脳死を理解し授業に臨む。 事後：脳死による臓器移植に賛・否を考える。	事例演習	川畑
教本：		参考文献：		
1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [2～11] (医学書院、東京)		1. 系統看護学講座 別巻、臨床外科看護総論・臨床外科看護各論 (医学書院、東京)		
2. 明石恵子ほか編集「経過別成人看護学② 周術期看護 第1版5刷」(メジカルフレンド社、東京)		2. 川本利恵子ほか監修 ナースのための術前・術後ケア (学研、東京)		
3. 池松裕子ほか編集「成人看護学 急性期看護論」(ヌーベルヒロカワ、東京)		3. 黒田裕子 しっかり身に付く看護過程改訂 第2版 照林社		
4. 小松浩子ほか著 がん看護学 系統看護学講座 別巻 (医学書院、東京)		他は随時提示する。		
5. NANDA 看護診断 定義と分類 医学書院 最新版				
成績評価の方法、評価基準：				
授業参加状況等 (10%)、小テスト・看護過程レポート (10%)、定期試験 (80%) 等で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外のすべての項目 (レポート等) も評価しない。				
学生へのアドバイス：				
急性・回復期にある対象の援助を実践するには、人体の構造や機能、疾病の成り立ちと治療について理解していることが大前提である。「身体の構造と機能」、「病態と治療」の学習内容を復習・整理しておく必要がある。医療の高度化に伴って、周術期患者を看護する上で、ME機器を使用している患者の観察や機器の操作方法、感染対策など、患者や自分自身の安全や安楽を守る技術の習得は必修条件である、看護過程演習や技術演習の事前課題を準備し、欠席しないようにする。終了後は小テストや課題レポートを整理することが必要である。				

開 講 年 次	2 年次 後期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	精神看護援助論 (Introduction to Mental Health Nursing)					ナンバリング	N-CN14	科目分類	専門分野
担 当 教 員	丸山 昭子					1科目当たりの合計自己学習時間			60時間
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> さまざまな精神健康レベルにある個人、家族、グループを対象にした精神看護を実践するための基礎知識、技術、態度を、自己理解やコミュニケーション技術も含め、習得することを目的とする。同時に、環境、文化的要因、セクシュアリティ、発達の危機、偶発的危機などが精神健康に及ぼす影響も学ぶ。また、精神の病気をもつ個人が地域で共に生活することを支える保健・医療・看護・福祉のあり方や精神看護学の課題等について法的、倫理的観点から検討する。									
<b>授業目標：</b> 1. 精神保健学の枠組みと対象や理論について述べるができる。 2. 精神医療と看護の歴史の変遷および法律を学ぶことで、精神障害者の取り巻く環境を説明することができる。 3. メンタルヘルスの問題に目を向け、支援の方法を述べるができる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1	ガイダンス・精神保健学の枠組み					事前：テキスト1：該当ページの精読 事後：復習課題の作成		講義	丸山 昭子
2	心の健康の概念 ー精神の健康・精神障害のとりえ方ー					事前：テキスト1：該当ページの精読 事後：復習課題の作成		講義	丸山 昭子
3	心の危機的状況／精神の健康のマネジメント ーストレスと健康の危機・心的外傷・レジリエンスー					事前：テキスト1：該当ページの精読 事後：復習課題の作成		講義	丸山 昭子
4	災害時の医療と看護／精神的健康管理					事前：テキスト2：該当ページの精読 事後：復習課題の作成 小テスト①の準備		講義	丸山 昭子
5	小テスト① 心の機能と発達					事前：テキスト1：該当ページの精読 事後：復習課題の作成		講義	丸山 昭子
6	ライフサイクル各期における発達課題					事前：テキスト1：該当ページの精読 事後：復習課題の作成		講義	丸山 昭子
7・8	集団の場における精神保健上の問題への支援					事前：テキスト1：該当ページ（8回目）、 テキスト2：該当ページ（9回目）の精読 事後：復習課題の作成		講義	丸山 昭子
9・10	病を患う人の精神状態と看護 ーリエゾン精神看護／看護師のメンタルヘルスー					事前：テキスト2：該当ページの精読 事後：復習課題の作成 小テスト②の準備		講義	丸山 昭子
11	小テスト② 諸外国における精神保健医療福祉の変遷と看護					事前：テキスト1：該当ページの精読 事後：復習課題の作成		講義	丸山 昭子
12	日本における精神保健医療福祉の変遷と看護					事前：テキスト1：該当ページの精読 事後：復習課題の作成		講義	丸山 昭子
13	精神障害と文化および社会学					事前：テキスト1：該当ページの精読 事後：復習課題の作成		講義	丸山 昭子
14	精神保健上の問題にかかわる法律の動向と対策					事前：テキスト1：該当ページの精読 事後：復習課題の作成 小テスト③の準備		講義	丸山 昭子
15	小テスト③ まとめ					事前：これまでの授業資料の見直し 事後：定期試験に備える		講義	丸山 昭子
<b>教本：</b> 1. 系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院（テキスト1） 2. 系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院（テキスト2） *事前学習の該当ページについては、年度によりテキストの改訂が生じるため、その都度提示する。						<b>参考文献：</b> 参考文献は、講義初回ならびに随時提示する。			
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加状況等（10%）、小テスト・復習課題等（20%）、定期試験（70%）で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。									
<b>学生へのアドバイス：</b> こころの健康について、幅広く学んでいきます。自分自身のこころを見つめ、こころの健康を保つために必要な援助を学ぶと共に、精神に問題を抱える人の保健・医療・社会の課題についても具体的な例を用いて学んでいきます。									



開 講 年 次	2 年 次 後 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	15	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	地 域 看 護 論 (Community Health Nursing)					ナ ン バ リ ン グ	N-CN24	科 目 分 類	専 門 分 野
担 当 教 員	望 月 麻 衣 ・ 保 母 恵 ・ 渡 部 月 子					1 科 目 当 た り の 合 計 自 己 学 習 時 間			30 時 間
履 修 条 件	前 提 科 目	在 宅 看 護 援 助 論 を 履 修 し て い る こ と							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>地域看護の理念、対象及び地域看護活動の理解に必要な理論と個人・集団・地域への支援のあり方を理解する。</p> <p>事例を通して病院や施設から、自宅に帰った時の社会資源や関係機関との連携を学修する。</p>									
授 業 目 標 :									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域看護の理念を理解し、地域看護活動の全体像を把握することができる。</li> <li>2. 地域看護学に関わる諸理論を理解し、地域看護について体系的に考えることができる。</li> <li>3. 地域看護がさまざまな領域で展開されていることを知り、その重要性・必要性を理解できる。</li> <li>4. 事例を通して地域社会資源の考え方と選択・活用について学ぶ。</li> </ol>									
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	担 当
1	地域看護の概念、定義、目的					事前：シラバスの内容確認 事後：授業の復習		講義	望月
2	地域看護活動の場の特徴と看護職の役割： 行政（保健所・保健センター等）					事前：課題に取り組む 事後：授業の復習		講義	外部講師 渡部
3	地域看護活動における個人・家族・コミュニティへの支援方法： 家庭訪問、健康相談、健康診査、健康教育、グループ支援等					事前：課題に取り組む 事後：授業の復習		講義	保母
4	地域看護活動に関連する諸理論：地域を捉える視点 プリシードプロシードモデル、コミュニティ・アズ・パートナーモデル					事前：課題に取り組む 事後：授業の復習		講義	渡部
5	事例を通して地域の特徴と社会資源の活用、他職種との連携を考える①②③ ・地域情報の収集、分析 ・社会資源の理解と選択・活用 ・地域保健医療福祉システム及び関連する他職種との連携					事前：授業資料の熟読 事後：事例に関連した情報の収集・分析		講義	望月 保母 渡部
6									
7									
8	事例を通して地域の特徴と社会資源の活用、他職種との連携を考える④ ・事例の報告					事前：事例発表の準備 事後：レポートの提出		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
<p>地域・在宅看護論Ⅰ総論、地域・在宅看護論Ⅱ支援論 南江堂</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [2] 公衆衛生 医学書院</p>					<p>国民衛生の動向 2026/2027 厚生労働統計協会</p> <p>他随時提示する。</p>				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
<p>授業参加状況（GW含む）等（10%）、レポート等（20%）、定期試験（70%）等で総合評価する。</p> <p>なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。</p>									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
<p>自分の暮らしている地域に興味関心を持ってください。毎日生活している地域を見回してください。新たな気づきがたくさん出てくると思います。皆さんの暮らしているまちはすみやすいですか？住民が生き生きと暮らしていますか？今、自分が地域の中でできることは何か。一緒に考えてみましょう。毎回予習・復習をして授業に積極的に参加してください。</p>									

開 講 年 次	2 年次 後期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	60	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	地域・在宅の看護援助演習 (Community and Home Care Nursing: Assessment & Skills)					ナンバリング	N-CN24	科目分類	専門分野
担 当 教 員	渡部月子・望月麻衣・保母 恵					1 科目当たりの合計自己学習時間			30時間
履 修 条 件	前提科目	在宅看護援助論を修得していること							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 在宅看護援助論で学んだ在宅看護の対象や介護保険法をはじめとする訪問看護に関する制度の知識を基に学修する。地域で療養しながら生活する人々と家族に対する在宅看護支援の実際を、講義・演習を通して知識と基礎的技術を修得する。									
<b>授業目標：</b> 1. 生活援助を必要とする在宅療養者の特徴、観察方法、ヘルスアセスメント、看護技術に関連づけて学び、その一部を体験し、在宅看護における生活支援技術を体得する。 2. 疾患に特有な療養上の課題を抱えて生活する対象の特徴を理解し、観察方法、ヘルスアセスメント、看護技術及び倫理的課題について学び、要介護高齢者、認知症、がんの終末期支援について述べられる。 3. 在宅看護の特徴を踏まえた看護過程の一連のプロセスについて体得する。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )					事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )		授 業 形 態	担 当
1～4	<b>ガイダンス</b> シラバスに沿って授業計画の説明を受ける  <b>家庭訪問の技術（訪問マナー）①②③④</b> 1. 在宅療養における看護方法としての訪問看護の意義を学ぶ 2. 療養の場であり生活の場である在宅の特徴を学ぶ 3. 訪問看護を行う看護職の態度・マナーを学ぶ					事前：シラバスを読む 事後：配付資料の確認  事前：配布資料の学修 事後：課題学修		講義  演習	渡部 望月 保母
5・6	<b>さまざまな対象者への在宅看護①</b> <b>疾病や障害を持つ小児への在宅看護</b> 1. 在宅で療養する小児の特徴とケアについて学ぶ 2. 長期在宅生活を継続するために必要な家族への支援について学ぶ 3. 在宅で療養する小児の訪問看護の実際について学ぶ  <b>さまざまな対象者への在宅看護②</b> <b>認知症高齢者への在宅看護</b> 1. 在宅で療養する認知症高齢者の特徴について学ぶ 2. 認知症高齢者を在宅で介護する家族への支援について学ぶ 3. 認知症高齢者に安全と安心をもたらす看護について学ぶ					事前：教本を読む 事後：疾病や障害、家族看護について学んだことをまとめる  事前：教本を読む 事後：在宅における認知症看護、家族看護について学んだことをまとめる		講義	
7・8	<b>さまざまな対象者への在宅看護③</b> <b>神経系難病の療養者への在宅看護</b> 1. 難病対策について学ぶ 2. 神経系難病の療養者の身体的・精神的・社会的特徴を学ぶ 3. 家族介護者の現状を理解し看護支援について考える 4. 災害への平常時の備えと対応を学ぶ  <b>さまざまな対象者への在宅看護④</b> <b>精神疾患を持つ療養者への在宅看護</b> 1. 病院における精神科看護と訪問看護の違いを知り、在宅で生活する精神疾患の療養者の状況がイメージできる 2. 精神疾患療養者への看護の視点を学ぶ					事前：教本を読む 事後：配布資料の確認  事前：教本を読む 事後：精神疾患療養者の状況を考えて看護をまとめる		講義	
9・10	<b>さまざまな対象者への在宅看護⑤</b> <b>回復期（リハビリテーション期）の療養者への在宅看護</b> 1. 在宅におけるリハビリテーションの考え方を学ぶ 2. 生活機能・日常生活機能（ADL）のアセスメントを学ぶ 3. 状態に合わせた対応・調整について学ぶ 4. 合併症の予防と対応を学ぶ  <b>在宅における看護過程の展開①</b>					事前：教本を読む 事後：回復期のケアについて学んだことをまとめる  事前：教本を読む 事後：事前課題の学修		講義	
11・12	<b>さまざまな対象者への在宅看護⑥</b> <b>終末期の在宅看護</b> 1. 終末期の療養者の身体的・心理的特徴と経過を学ぶ 2. 終末期の療養者の家族の特徴を理解する 3. 終末期の療養者の在宅看護について学ぶ  <b>食事と栄養①</b> 1. 在宅療養者の食事と栄養の特徴について学ぶ 2. 嚥下障害のある療養者への食事の工夫を学ぶ 3. 胃ろう、経管・経腸栄養法を学ぶ 4. 口腔ケアの実際を学ぶ					事前：教本を読む 事後：在宅における終末期ケアについて学んだことをまとめる  事前：教本を読む 事後：課題プリントの学修		講義  演習	

13・14	食事と栄養②③ 1. 在宅療養者の食事と栄養の特徴について学ぶ 2. 嚥下障害のある療養者への食事の工夫を学ぶ 3. 胃ろう、経管・経腸栄養法を学ぶ 4. 口腔ケアの実際を学ぶ	事前：食事の看護技術 事後：在宅における食事支援のまとめ	演習	渡部 望月 保母
15・16	在宅における看護過程の展開②③	事前：課題学修 事後：課題学修	演習	
17・18	在宅酸素療法（HOT）・在宅人工呼吸療法療養者の看護 1. 在宅酸素療法や人工呼吸療法の管理方法を学ぶ 2. 在宅酸素や人工呼吸療法時の観察と生活指導を学ぶ 3. 療養者の心理を把握し、思いに添う支援について知る 4. 災害への備えと対応を学ぶ	事前：教本を読む 事後：配付資料の復習	講義 演習	外部 講師
19・20	在宅輸液療法の療養者への看護（服薬管理含む）薬物療法 1. 栄養補給が必要な在宅療養者に対して行われる在宅輸液療法を学ぶ 2. 在宅輸液療法を行っている療養者への看護を学ぶ 3. 薬物療法管理（服薬管理）の実際を学ぶ  在宅における看護過程の展開④	事前：教本を読む 事後：配付資料の復習  事前：課題学修 事後：課題学修	講義  演習	
21・22	排泄支援①② 1. 在宅における排泄支援の特徴を学ぶ 2. 排泄障害（尿失禁・便秘等）のケア方法について学ぶ 3. 排泄補助用具の選択方法、ストーマケアについて学ぶ 4. 膀胱留置カテーテル法について学ぶ	事前：排泄の看護技術の復習 事後：在宅における排泄支援のまとめ	演習	
23・24	移動の援助①② 1. 在宅看護における移動援助の目的と療養者の特徴について学ぶ。 2. 在宅看護に必要な移動におけるヘルスアセスメントの方法について学ぶ。 3. 在宅看護に必要な移動の援助方法の実際を学ぶ	事前：体位と移動についての看護技術の復習。移動補助用具・転倒防止について調べる 事後：課題プリント提出	演習	渡部 望月 保母
25・26	在宅における看護過程の展開⑤  清潔援助技術① 1. 清潔ケアの目的と療養者の特徴について学ぶ 2. 清潔ケアのアセスメントと評価について学ぶ 3. 清潔ケアの方法、他職種との連携について学ぶ	事前：課題学修 事後：課題学修  事前：教本を読む 事後：配付資料の復習	演習	
27・28	清潔援助技術（洗髪）②③ 1. 在宅で簡便にできるケリーパッドを作成する 2. 在宅療養者の状態や家族の生活に合わせた洗髪用具の選択、工夫について学ぶ 3. 在宅における洗髪方法について学ぶ	事前：洗髪の看護技術の復習 事後：課題プリント学修	演習	
29・30	在宅における看護過程の展開⑥  在宅看護の実際 ―訪問看護― 訪問看護師の役割 訪問看護の魅力とやりがい	事前：課題学修 事後：課題レポート提出  事前：今までの学修の振り返り 事後：配付資料の復習	演習  講義	外部 講師
教本： 地域・在宅看護論Ⅰ 地域・在宅看護論Ⅱ 南江堂		参考文献： 在宅看護実習ガイド（パーフェクト臨床実習ガイド） 山田雅子 照林社 他随時紹介する。		
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（10％）レポート等（20％）定期試験（70％）等で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。				
学生へのアドバイス： この授業は必修科目です。講義と演習が連動して構成された科目ですので、欠席は内容の理解に影響を及ぼします。 予習・復習、体調管理をしっかりとって欠席がないように臨んでください。				

## VI シラバス(3年)

### VI シラバス(3年)

文部科学省大学設置基準（令和4年9月30日一部改正）によると、「1単位にはおおむね45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする」とされており、授業時間以外に自己学習時間も含まれている。1又は2単位あたりに必要な学修時間は下表の通りである。

### 単位あたりの学修時間

授業形式	単位数 (学修時間数)	授業回数 (コマ数)	授業時間数	自己学習時間数	
				合計	1コマあたり (事前+事後)
講義	1単位 (45時間)	8	16(15)時間	30時間	4時間
	2単位 (90時間)	15	30時間	60時間	4時間
演習	1単位 (45時間)	15	30時間	15時間	1時間
	2単位 (90時間)	30	60時間	30時間	1時間

出典：大学設置基準第二十一条

## VI シラバス(3年)

開 講 年 次	3 年次 前期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	15	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	保 健 衛 生 統 計 (Introduction to Health Statistics for nursing)					ナ ン バ リ ン グ	N-ST15	科 目 分 類	基 礎 分 野
担 当 教 員	大 脇 淳 子 ・ 草 地 潤 子					1 科 目 当 た り の 合 計 自 己 学 習 時 間			30 時 間
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>物事を筋道立てて考え、様々な社会現象を適確に把握することができる基礎になるものがデータである。データには量的なものや質的なものがあるが、データの種類に応じた適切な分析を行い、その結果からどのような判断をするべきかの手法を学修する。本講義では、医療・看護に関わる疫学・保健統計の見方・考え方の基礎的な内容とその活用法について概説する。また、人間の反応や数量化しにくいデータの扱い、保健統計の基礎となる統計学の考え方および統計処理法についても解説する。</p>									
授 業 目 標 :									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健衛生統計の概要を理解する</li> <li>2. 統計の基礎 (統計手法の基礎とデータの読み取り方、など) を理解する</li> <li>3. 母子保健・高齢者保健及びこころの健康における保健衛生統計の活用方法を理解する</li> <li>4. 課題を通して、計量的データ解析の方法と結果の数字の意味を読み取る</li> </ol>									
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	担 当
1	ガイダンス 保健衛生統計とは、データを読む				事前：シラバス内容を確認する 事後：講義内容の復習			講義	大脇
2	身近な健康データから統計の基礎を学ぶ ①基本統計量、概要・母集団と標本				事前：統計の概要について調べる 事後：授業内容の復習			講義	大脇
3	②主要な統計量、代表値・バラツキの統計量・関連の統計量・主な図表の特徴				事前：主な統計量について調べる 事後：講義内容の復習			講義	草地
4	③確率分布、 $\chi$ 二乗・T検定				事前：確率分布について調べる 事後：講義内容の復習			講義	草地
5	母子の健康における保健衛生統計				事前：女性の健康の統計について調べる 事後：講義内容の復習			講義	大脇
6	こころの健康における保健衛生統計				事前：精神保健の統計について調べる 事後：講義内容の復習			講義	大脇
7	高齢者保健における保健衛生統計				事前：母子保健の統計について調べる 事後：講義内容の復習			講義	草地
8	医療・看護における保健衛生統計 課題の提示、課題作成				事前：既習の学習内容を復習する 事後：課題の復習			講義	大脇 草地
教 本 :					参 考 文 献 :				
なし					<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座 統計学、医学書院</li> <li>2. やさしい保健統計学 改訂第5版増補、南江堂</li> <li>3. 国民衛生の動向、その他は随時提示する</li> </ol>				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
課題への取り組み状況 (20%)、レポート等 (80%) で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
<p>この科目は、医療、保健に関するさまざまな計量的データから考えられる問題点、推移や予想される出来事、対処すべきことなどを読み解く科学的方法論のひとつです。看護実践や研究においても、人の健康に関する保健統計の計量的データを正しく理解し活用するためには、統計学の知識を持つことが重要であり、この計量的データを読み解くためにはどの統計手法を用い、得られた解析結果をどう読み解くか、これらの力を備えることで見てくる事象があります。その楽しさを一緒に学びましょう。</p>									

開 講 年 次	3 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	医療安全管理・感染管理 (Patient Safety Management and Infection Control)					ナンバリング	N-AM25	科目分類	専門基礎分野
担 当 教 員	牛島典子・勅使河原俊子					1科目当たりの合計自己学習時間			30時間
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 対象者の安全を守るために、医療現場における感染管理及び機器の保守管理、機器の操作、安全教育、法規などについて学修を深める。また、過去の事故事例やインシデントについて、データをもとに概説し、個々の安全に対する確認行動や支援システムについても言及する。									
<b>授業目標：</b> 1. 医療安全の基本について理解できる。 2. 過去の事故事例から事故の要因や事故防止のための個々の安全行動について理解できる。 3. チーム・組織における安全について理解できる。 4. 医療安全における感染予防と感染管理について説明できる。									
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>									
授業回数	授業内容及び計画					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1	医療安全の基本					事前：シラバスを参照し、本科目の授業内容の確認をする。授業内容の教本を熟読する。 事後：授業の復習をする。		講義	牛島
2	事例から医療安全を学ぶ1 ①医療機器の使用・管理における安全 ②ドレーン・チューブの管理における安全					事前：授業内容の教本を熟読する。 事後：授業の復習をする。		講義	牛島
3	事例から医療安全を学ぶ2 ①手術の安全 ②投薬の安全					事前：授業内容の教本を熟読する。 事後：授業の復習、課題を提出する。		講義	勅使河原
4	事例から医療安全を学ぶ3 ①輸血管理における安全 ②治療・処置における安全					事前：授業内容の教本を熟読する。 事後：授業の復習、課題を提出する。		講義	牛島
5	事例から医療安全を学ぶ4 ③療養上の世話における安全（転倒・転落）					事前：授業内容の教本を熟読する。 事後：授業の復習、課題を提出する。		講義	牛島
6	チーム、組織としての医療安全 患者との協働					事前：授業内容の教本を熟読する。 事前課題を学習して授業にのぞむ。 事後：授業の復習をする。		講義	牛島
7・8	感染予防と管理 ①外来・入院における感染看護の実際 ②医療関連感染 ③職業的感染					事前：1・2年生で学習した感染対策に関する内容を復習してのぞむ。 事後：授業内容の復習をする。		講義	牛島
<b>教本：</b> 医療安全 多職種でつくる患者安全をめざして 南江堂					<b>参考文献：</b> ①WHO患者安全カリキュラムガイド多職種版2011（日本語版） ②「医療安全推進のための標準テキストー日本看護協会ー」 <a href="https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/anzhen/pdf/text.pdf">https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/anzhen/pdf/text.pdf</a> ③「Japan Virtual Campus」 <a href="https://www.jv-campus.org/">https://www.jv-campus.org/</a> ④系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ：医学書院 * 1・2年生の看護の基礎の授業で使用した教本 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ：医学書院 * 1・2年生の看護の基礎の授業で使用した教本 ⑤医療安全ワークブック：医学書院 ⑥医療安全 患者の安全を守る看護の基礎力・臨床力：学研 ⑦医療現場のヒューマンエラー対策ブック：日本能率協会マネジメントセンター ⑧看護の統合と実践 医療安全：メディカ出版 ⑨医療安全とリスクマネジメント：スーヴェルヒロカワ ⑩ナースのための危険予知トレーニングテキスト：メディカ出版 ⑪医療安全に生かすKYT：メジカルフレンド社 ⑫写真でわかる看護現場で行う医療安全行動アドバンス：インターメディカ ⑬裁判例から学ぶ 看護ケアと看護記録：医歯薬出版株式会社 ⑭感染看護学 患者の健康と権利を守り安全に看護を実践する：南江堂 ⑮基礎から学ぶ医療関連感染対策 標準予防策からサーベイランスまで：南江堂				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 課題提出状況、グループワークの学習状況等（30%）定期試験（70%）の総合評価とする。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 医療事故はいつ、どのような場面で起こるかわかりません。そのため、医療事故の現状を理解し、事故の要因、再発を防止するための対策について、自分自身の身に置き換えて受講してください。 また、医療現場は、COVID-19の流行後よりさらに厳重な感染対策が求められています。感染経路に応じた感染対策を理解し、確実に実践できるようにしましょう。 臨地実習では学生も医療チームの一員です。そのため、安全で質の高いケアの提供に努めることが求められます。既習科目を含め、本科目で得た知識を臨地実習で確実に活用できるようにしてください。									

開 講 年 次	3 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	リプロダクティブ・ヘルス援助演習 (Reproductive health Nursing : Assessment & Skills)					ナンバリング	N-DN15	科目分類	専門分野
担 当 教 員	木原博子・前島貴子・箭内彩也佳・藤井智恵子					1科目当たりの合計自己学習時間			30時間
履 修 条 件	前提科目	リプロダクティブ・ヘルス援助論を履修していること。							
	その他	なし							
授業概要： 周産期にある対象（妊婦・産婦・褥婦・新生児）の看護を中心として、看護を実践するために必要な知識・技術を修得するとともに、生殖に伴う次世代につながる健康に目を向けた看護を学ぶ。									
授業目標： 1. 妊婦・産婦・褥婦及び新生児の身体的・心理的・社会的特性を理解する。 2. 妊婦・産婦・褥婦及び新生児が順調な経過をたどるための看護について説明する。 3. 妊婦・産婦・褥婦及び新生児におこる異常と看護について説明する。 4. 妊娠期から育児期の家族の発達を支える看護について説明する。 5. 母児の健康的な生活にむけて、母子保健のシステムとそれを支える他職種との連携・協働を説明できる。 6. 妊娠期・分娩期・産褥期及び新生児期に必要な看護技術を修得する。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1～5	ガイダンス 妊娠期の看護 1. 妊娠に伴う身体的、心理・社会的特性と看護 1) 妊婦と胎児の生理的な身体の変化 2) 妊婦とその家族の心理的・社会的変化 3) 妊婦と胎児の健康状態のアセスメントと援助 2. 妊娠期に起こりうる正常からの逸脱と看護 1) 正常からの逸脱と妊婦と胎児に及ぼす影響 2) 正常逸脱時のアセスメントと援助 3. 妊娠期の看護にかかわる技術 1) 妊婦および胎児のアセスメントに必要な援助技術 2) セルフケア向上のための援助技術					事前：第3章および第7章を読み予習 事後：妊娠期の経過、妊娠期のアセスメントと援助、妊娠期の正常からの逸脱と看護、妊娠期の援助技術の復習		講義 演習	木原 前島 箭内 藤井
6～9	分娩期の看護 1. 正常な分娩経過と看護 1) 産婦と胎児の生理的な経過 2) 産婦と胎児のアセスメントと援助 2. 分娩期に起こりうる正常からの逸脱と看護 1) 正常からの逸脱と産婦と胎児に及ぼす影響 2) 正常逸脱時のアセスメントと援助 3. 分娩期の看護にかかわる技術 1) 産婦および胎児のアセスメントに必要な援助技術 2) 安全安楽のために必要な援助技術					事前：第4章および第7章を読み予習 事後：分娩期の経過、分娩期のアセスメントと援助、分娩期の正常からの逸脱と看護、分娩期の援助技術の復習		講義 演習	
10～14	新生児期の看護 1. 出生直後の新生児の看護 1) 胎内生活から胎外生活への生理的变化と特徴 2) 出生直後のアセスメントと援助 2. 移行期以降の早期新生児期の胎外生活適応への援助 1) 早期新生児の生理的变化と特徴 2) 早期新生児の健康と発育のアセスメントと援助 3. 新生児期に起こりうる正常からの逸脱と看護 1) 正常からの逸脱と新生児に及ぼす影響 2) 正常逸脱時のアセスメントと援助 4. 新生児期の看護にかかわる技術 1) 新生児のアセスメントに必要な援助技術 2) 新生児の養護のための援助技術					事前：第5章および第7章を読み予習 事後：新生児の生理的特徴、新生児期のアセスメントと援助、新生児期の正常からの逸脱と看護、新生児期の援助技術の復習		講義 演習	
15～22	産褥期の看護 1. 正常な産褥経過と看護 1) 褥婦の生理的变化（退行性変化、進行性変化） 2) 褥婦の心理・社会的変化 3) 退行性変化のアセスメントと援助 4) 進行性変化のアセスメントと援助 5) 親になっていく過程のアセスメントと援助 6) 退院後の生活にむけた援助 2. 産褥期に起こりうる正常からの逸脱と看護 1) 正常からの逸脱と褥婦に及ぼす影響 2) 正常逸脱時のアセスメントと援助 3. 産褥期の看護にかかわる技術 1) 褥婦のアセスメントに必要な援助技術 2) 復古促進のために必要な援助技術 3) 哺育のために必要な援助技術					事前：第6章および第7章を読み予習 事後：産褥期の経過、産褥期のアセスメントと援助、産褥期の正常からの逸脱と看護、産褥期の援助技術の復習		講義 演習	

23～28	<p>1. 産褥・新生児期の看護過程の展開</p> <p>1) 褥婦および新生児の事例を用いた個人ワークおよびグループワークを実施</p> <p>2) 対象者の健康レベルを把握し健康課題・問題を抽出、全体像をとらえて計画立案する</p>	<p>事前：授業の内容を整理、リプロダクティブ・ヘルス援助論で学んだウェルネスの看護過程を復習</p> <p>事後：看護過程課題</p>	演習	木原 前島 箭内 藤井
29・30	まとめ	<p>事前：テキスト、授業資料、ノートを見直し課題を明らかにする</p> <p>事後：授業内容の振り返り</p>		
<p>教本：</p> <p>1. 森恵美、他編：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論(2)、医学書院</p> <p>2. 石村百合子編：根拠と事故防止からみた母性看護技術 第3版 医学書院</p> <p>3. 日本助産診断実践学会編：マタニティ診断ガイドブック 第7版 医学書院</p>		<p>参考文献：</p> <p>1. 平澤美恵子 他監修：写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディアカ</p> <p>2. 荒木奈緒 他編著：ナーシンググラフィカ母性看護学③ 母性看護技術 メディカ出版</p> <p>3. 太田操 編著：ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程 第4版 医歯薬出版</p> <p>4. 中村幸代 編著：根拠がわかる母性看護過程 南江堂</p> <p>5. 新道幸恵 他編：新体系看護学全書 母性看護学② マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 メヂカルフレンド社</p> <p>6. 小林康江 他編著：ナーシンググラフィカ母性看護学② 母性看護の実践 メディカ出版</p> <p>7. 大平光子 他編：母性看護学Ⅱ マタニティサイクル 第3版 南江堂</p> <p>8. 井上和美 他監修：病気がみえる Vol.10 産科 第4版 メディックメディア</p> <p>授業中に随時提示する。</p>		
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>定期試験：客観試験（70%）、看護過程レポート（10%）、講義・演習への取り組み状況（20%）で総合的に評価する。</p> <p>なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についても全て評価しない。</p>				
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>周産期にある母子及びその家族を対象にしたウェルネスの視点での看護を学びます。柔軟な思考で授業に臨んでください。</p>				

開 講 年 次	3 年次 前期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	60	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	小児期の発達援助演習 (Pediatric Nursing : Assessment & Skills)					ナンバリング	N-DN25	科 目 分 類	専 門 分 野
担 当 教 員	大脇淳子・吉田裕子・眞壁公美子					1 科目当たりの合計自己学習時間			30 時間
履 修 条 件	前提科目	健康障害 C、小児発達援助論の単位を修得していること。							
	その他								
<b>授業概要：</b> 健康障害や入院による子どもと家族への影響、様々な状況にある子どもと家族について学び、倫理に基づく援助、成長・発達に応じた援助の必要性を学修する。また、小児特有の健康障害を持つ小児と家族の健康レベルに応じた看護について学習し、技術演習や事例演習を通して小児特有の看護技術および看護過程の基本を修得する。									
<b>授業目標：</b> 1. 健康障害や入院による子どもと家族への影響について学び、倫理に基づく援助の必要性を説明する。 2. 健康障害により様々な状況にある子どもと家族について学び、成長・発達に応じた小児看護の特徴を説明する。 3. 小児特有の健康障害を持つ子どもと家族の健康レベルに応じた看護に必要な知識（社会資源等含む）を説明する。 4. 技術演習を通して、基本となる小児の看護技術および小児特有の看護技術を修得する。 5. 事例を通して小児看護過程の基本を修得する。									
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )					事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )		授 業 形 態	担 当
1・2	ガイダンス 健康障害をもつ子どもと家族の看護、入院環境 ※演習オリエンテーション、演習ノート配付					事前：ガイダンス資料を読む 事後：講義内容の復習		講義 (T1)	大脇
	病気や入院に対する子どもと家族の理解と看護					事前：子どもの入院環境・認知的発達について調べる 事後：講義内容の復習		講義 (T1・2)	大脇
3・4	乳児期：急性症状のある子どもと家族の看護① 事例：【急性胃腸炎】 対象年齢：7か月 1. 急性胃腸炎（下痢・嘔吐症状）の病態、脱水のアセスメント 2. 小児特有の看護技術 ・フィジカルアセスメントⅠ：身体計測 ・発育評価 ・日常生活援助技術：清潔行動（陰部洗浄） 演習場所：[看護実習室Ⅱ（母性・小児看護学実習室）]					事前：演習ノートの事前課題を行う（第3、4回） ケア計画立案（おむつ交換、陰部洗浄） 事後：講義内容の復習		講義 (T1・2)	眞壁 吉田 大脇
	乳児期：急性症状のある子どもと家族の看護② 小児特有の看護技術（日常生活援助技術） ・清潔行動（陰部洗浄、臀部の清潔）*下痢時の観察 ・乳時期の排泄行動（オムツ交換、衣服の着脱） ・食行動（哺乳・離乳食）、抱っこ ・身体計測・成長・発達の評価					事前：演習ノートの事前課題を行う（第3、4回）、ケア計画立案 事後：事例の課題をまとめる ★演習ノート課題提出 ★ケア計画書提出		演習 (T1・2) 技術	吉田 眞壁 大脇
5・6	検査や処置による苦痛、痛みを伴う子どもの看護 手術を受ける子どもの看護 1. 子どもの痛みのアセスメント 2. 子どものコミュニケーションとインフォームドアセント・プレパレーション・遊びと学習					事前：検査や処置の子どもの看護、手術を受ける子どもの看護を一読 事後：講義内容の復習		講義 (T1・2) 技術	吉田
7・8	幼児前期：急性症状のある子どもと家族の看護① 事例：【川崎病】急性期 対象年齢：1歳4か月 1. 川崎病の病態、アセスメント、川崎病急性期にある子どもと家族の看護 2. 小児特有の看護技術 ・フィジカルアセスメントⅡ：バイタルサイン測定 ・基本技術：安全・安楽な環境の調整、・与薬（経口薬） 演習場所：[看護実習室Ⅱ（母性・小児看護学実習室）]					事前：演習ノートの事前課題を行う（第7～11回） 事後：講義内容の復習 ケア計画立案（バイタルサイン測定）		講義 (T1・2) GW	吉田
	幼児前期：急性症状のある子どもと家族の看護② 小児特有の看護技術演習 ・安全・安楽な環境の調整（環境整備） ・バイタルサイン測定技術確認、フィジカルアセスメント、プレパレーション ・与薬（経口薬）					事前：演習ノートの事前課題を行う（第7～11回） ケア計画立案 事後：事例の課題をまとめる ★演習ノート課題提出 ★ケア計画書提出		演習 (T1・2) 技術	吉田 眞壁 大脇
12・13	小児看護過程の展開 幼児後期：呼吸困難のある子どもと家族の看護① 事例：【気管支喘息】急性期 対象年齢：4歳 1. 基礎的知識の確認：成長・発達の特徴、病態（重症度）、検査・治療 2. 必要な情報の整理：情報収集（DVD活用）					事前：演習ノートの事前課題を行う（第12～21回） 事後：講義内容の復習 事例に必要な情報の整理、3側面をアセスメントする		講義 (T1・2)	吉田
14・15	幼児後期：呼吸困難のある子どもと家族の看護②（事例展開） 1. 患児の成長・発達の特徴をふまえた情報の分析・アセスメント、看護の方向性・3側面（身体的側・成長・発達・社会的側面（家族への影響））					事前：情報収集・アセスメント 事後：3側面のアセスメント追加 看護問題・期待される結果		講義 (T1・2) GW	吉田

16・17	<p>幼児後期：呼吸困難のあるこどもと家族の看護③（事例展開）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>看護問題の明確化、</li> <li>看護計画立案 <ul style="list-style-type: none"> <li>看護目標、問題点、期待される結果、援助項目</li> </ul> </li> </ol>	<p>事前：看護問題・期待される結果 事後：看護問題・期待される結果修正 看護計画立案</p>	<p>講義 (T1・2) GW</p>	吉田
18・19	<p>幼児後期：呼吸困難のあるこどもと家族の看護④（事例展開）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ケア計画の立案</li> <li>1) フィジカルアセスメント：事例をもとにしたバイタルサイン測定</li> <li>2) 安楽に呼吸ができるための援助：吸入、酸素療法※プレパレーション含む</li> </ol>	<p>事前：看護計画立案 事後：個々の学習をもとに、グループ間でケア計画を検討 GWの発表に向けた準備</p>	<p>GW (T1・2) 技術</p>	吉田
20・21	<p>演習場所：[看護実習室Ⅱ（母性・小児看護学実習室）]</p> <p>幼児後期：呼吸困難のあるこどもと家族の看護④ 援助実施（ロールプレイ）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①適切に状態を把握するため（フィジカルアセスメント：バイタルサイン測定）</li> <li>②安楽に呼吸ができるための援助（吸入、酸素療法）</li> </ol>	<p>事前：看護計画立案 事後：演習の振り返り 演習ノートの事後課題のまとめ ★演習ノート課題提出 ★ケア計画書提出</p>	<p>演習 (T1・2) 技術 GW</p>	吉田 眞壁 大脇
22・23	<p>学童期：慢性の経過をたどるこどもと家族の看護① 事例：【ネフローゼ症候群】回復期 対象年齢：8歳</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>基礎的知識の確認；ネフローゼ症候群の病態、治療、成長・発達の特徴</li> <li>成人期への移行とアドヒアランス向上にむけた患者教育</li> <li>退院後の生活に向けた指導案の作成 *援助実施に向けての準備</li> </ol>	<p>事前：演習ノートの事前課題を行う (第22～25回) 事後：個々の学習をもとに、グループ間でケア計画を検討 GWの発表に向けた準備</p>	<p>講義 (T1・2) GW</p>	吉田
24・25	<p>演習場所：[看護実習室Ⅱ（母性・小児看護学実習室）]</p> <p>学童期：慢性の経過をたどるこどもと家族の看護② 成人期移行とアドヒアランス向上にむけた患者教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指導案作成 実施（ロールプレイ）</li> <li>アドヒアランス向上にむけた患者教育についてディスカッション</li> </ul>	<p>事前：発表時の役割をグループ間で決め各自が責任をもって準備する 事後：演習後の振り返り 演習ノートの事後課題のまとめ ★演習ノート課題提出（指導案含む）</p>	<p>演習 (T1・2) 技術 GW</p>	吉田 眞壁 大脇
26・27	<p>生命危機状態にあるこどもと家族の看護</p> <p>こどものBLS・気道異物除去</p>	<p>事前：演習ノート事前課題を行う (第26、27回)</p> <p>事後：講義・演習内容の復習</p>	<p>講義 (T1・2)</p> <p>演習 (T1・2) 技術</p>	眞壁 吉田 吉田 眞壁 大脇
28～30	<p>未熟な状態で誕生したこどもと家族の看護 【低出生体重児】</p>	<p>事前：NICU・ディベロップメンタルケアについて調べる 事後：講義内容の復習</p>	<p>講義 (T1・2)</p>	大脇
	<p>地域で生活する医療的ケアが必要なこどもと家族の看護 【障害児・医療的ケア児】</p>	<p>事前：障害児・医療的ケア児について調べる 事後：講義内容の復習</p>	<p>講義 (T1・2)</p>	大脇
	<p>成人移行期にあるこどもと家族の看護</p>	<p>事前：慢性経過…看護を一読 事後：講義内容の復習</p>	<p>講義 (T1・2)</p>	大脇
<p>教本：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院（T1）</li> <li>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 医学書院（T2）</li> <li>根拠と事故防止からみた小児看護技術 第4版（2025）、浅野みどり編集 医学書院</li> </ol> <p>※授業形態の欄に、授業・演習で使用するテキストNoを、（T1、T2、技術）の様に示す</p>		<p>参考文献：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>病気の子どもへのプレパレーション、及川郁子・田代弘子（編）、中央法規</li> <li>写真でわかる小児看護技術 改訂版第3版、山元恵子（監）、インターメディカ</li> <li>病気がみえる vol.15 小児科 第1版、医療情報科学研究（編）、※その他は随時提示する</li> </ol>		
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況等（10%）、事前・事後課題（30%）、定期試験（60%）等で総合評価する。</p>				
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>既習の知識を整理して主体的に学んでください。そのために、事前学習の内容をよく読み早めに取り組みましょう。この科目では、様々な状態にあるこどもと家族の看護を、特に小児特有の症状や疾患の事例を通して講義（ワーク）、演習、ロールプレイを取り入れながら学びます。段階を追って積み重ねる構成になっていますので、「小児発達援助論」「健康障害C（小児）」の授業資料を活用して事前学習した上で同資料を常に持参してください。また「小児期の発達援助演習ノート」は実習の準備学習ともなるものです。大切に学習を積み重ねてください。</p>				

開 講 年 次	3 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	成人期の発達援助演習Ⅱ (慢性期・終末期) (Adult Health Nursing : Assessment & Skills Ⅱ)					ナンバリング	N-DN45	科目分類	専門分野
担 当 教 員	下村晃子・佐藤京子・川原理香・苅田明子・中野 香・川崎真子・川畑貴美子					1 科目当たりの合計自己学習時間		30時間	
履 修 条 件	前提科目	2 年までの必修科目を修得していること。							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 成人期に起こりやすい健康問題、疾患や障害のうち、長期慢性的経過をたどり、さまざまな点で生活上のサポートや生涯にわたって生活のコントロールを必要とする対象への看護を学ぶ。国民の死因統計上の課題となる疾患、慢性難治性疾患、あるいは事故などにより身体機能を喪失した対象の個別性に応じた援助方法(援助技術含む)、生活上の問題解決、病みの軌跡における病気の認知と受容過程、セルフケア能力を高める援助、家族へのサポート、社会的支援システムなどについて学修する。 終末期についてはがんをとりあげ、積極的な医学的治療が難しいと考えられる時期にあっても、がんの疼痛緩和などケアによって、終末期の充実した生活のありかたについて学修する。人間の根源的苦悩と向き合い、自己の状況の受容過程、その状況の中で積極的に生きることに向き合うケアの方法と、援助する側の人間としてのあり方について学ぶ。									
<b>授業目標：</b> 1. 慢性疾患をもつ患者、がんの終末期にある患者、身体機能を喪失した患者とその家族の生活状況と心理状態を説明できる。 2. 慢性疾患をもつ患者、がんの終末期にある患者、身体機能を喪失した患者とその家族に対する看護の必要性を説明できる。 3. 慢性疾患をもつ患者、がんの終末期にある患者、身体機能を喪失した患者とその家族に対する看護ケアと社会支援システムを説明できる。 4. 慢性疾患をもつ患者に必要な看護技術を習得する。 5. 慢性疾患をもつ患者とその家族を対象にした看護過程を展開できる。									
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	担 当
1	導入：慢性期の概念と看護の特徴、慢性疾患をもちながらの生活と慢性期のケアとは 1) 慢性期疾患と機能障害					事前：慢性期看護と患者の特徴について、テキストを精読し、準備して臨む		講義	下村
2	2) セルフケアマネージメント能力を高める方法					事後：授業内容のまとめ			
3	呼吸器機能障害の看護ケア： 慢性閉塞性肺疾患 (COPD)、肺炎、気管支喘息／呼吸方法、酸素療法、酸素化に必要なケア、日常生活・在宅療養への支援					事前：呼吸器の病態を理解して説明できるように準備する 事後：授業内容のまとめ		講義	佐藤
4	脳神経系 脳梗塞患者の看護ケア 脳神経系の観察、随伴症状を伴うケア、回復過程に向けた看護の方向性					事前：脳神経系の病態を理解して説明できるように準備する 事後：授業内容のまとめ		講義	下村
5	事例演習1：看護過程の展開 (ミニ講座) 事例の説明					事前：事例患者の理解に必要な知識を学習して臨む 事後：課題レポート提出		事例演習	全員
6	事例 (脳梗塞) グループワーク 1. 情報の整理								
7	2. アセスメント (分析・解釈・統合)								
8	腎・泌尿器機能障害の看護ケア： 腎不全／透析、シャントの管理、薬物療法、食事療法					事前：腎排泄機能の病態を理解して説明できるように準備 事後：授業内容のまとめ		講義	川原
9	感覚機能障害を有する人へのケア： 特発性難聴、メニエール病／ 感覚機能障害の種類、生活に及ぼす影響					事前：感覚器機能の病態を理解して説明できるように準備 事後：授業内容のまとめ		講義	川原
10	事例演習2：看護過程の展開 事例 (脳梗塞) グループワーク					事前：事例患者の理解に必要な知識を学習して臨む 事後：課題レポート提出		事例演習	全員
11	3. アセスメント (分析・解釈・統合)								
11	4. 看護上の問題抽出 (看護診断)								
12	循環器機能障害の看護ケア： 不整脈、冠状動脈疾患 (狭心症)、心不全 高血圧/ペースメーカー、 薬物療法、食事療法、心臓リハビリテーション					事前：循環器の病態を理解して説明できるように準備する 事後：授業内容のまとめ		講義	苅田
13	代謝機能障害の看護ケア：糖尿病、脂質異常症					事前：代謝機能の病態を理解して説明できるように準備 事後：授業内容のまとめ		講義	ゲスト スピーカー (前田)
14	・食事療法 ・運動療法 ・薬物療法								
15	技術演習①： ・血糖測定					事前：糖尿病の看護のワークブックを学習する 事後：ワークブック課題・小テスト		実技演習	全員
16	・インスリン自己注射								

17	事例演習3：(脳梗塞) グループワーク 5. 関連図作成 6. 看護計画の立案、発表準備	看護過程の展開が理解できるように準備する。グループワークを通して理解する。 事後：課題レポート提出	事例演習	全員
19	栄養摂取・消化器機能障害の看護ケア： 消化管等/薬物療法、食事療法	事前：消化器の病態を理解して説明できるように準備する 事後：授業内容のまとめ	講義	川原
20	栄養摂取・消化器機能障害の看護ケア： 肝臓疾患等/薬物療法、食事療法	事前：消化器の病態を理解して説明できるように準備する 事後：授業内容のまとめ	講義	菊田
21	技術演習②： ・心電図波形の観察と医療機器の取り扱い（心電図モニター・輸液ポンプ、シリンジポンプ） ・看護過程事例のフィジカルイグザミネーション	事前：身体所見観察とモニター類のワークブックを学習する 事後：ワークブック課題・小テスト	実技演習	全員
23	事例演習4：(脳梗塞) グループワーク・発表 7. 発表準備と発表(グループ毎) 8. まとめ	看護過程の展開が理解できるように準備する。グループワークを通して理解する。 事後：課題レポート提出	事例演習	全員
26	血液・造血管機能障害の看護ケア： 白血病/薬物療法、輸血療法、移植療法、放射線療法、感染症の予防	事前：造血管機能の病態を理解して説明できるように準備 事後：授業内容のまとめ	講義	下村
27	免疫系機能障害の看護ケア： 膠原病と自己免疫疾患/薬物療法、理学療法	事前：免疫系機能の病態を理解して説明できるように準備 事後：授業内容のまとめ	講義	川原
28	神経難病患者の看護ケア：パーキンソン病 ALS、MG/薬物療法、コミュニケーション方法	事前：神経難病の病態を理解して参加する。 事後：授業内容のまとめ	講義	下村
29	がん患者のケア：身体的・心理的苦痛と苦痛緩和のための看護と治療に伴う看護、緩和ケアとリハビリテーション	事前：がん疾患や治療の知識を確認して、がん患者の特徴についてテキストを精読し説明できるように準備する。 事後：がんの病名告知を考える。	講義	川畑
30	終末期の看護ケア：補完代替療法、死後のケア、家族ケア *成人期の慢性期・終末期看護のまとめ			
<b>教本：</b> 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1～15] 医学書院 2. 経過別成人看護③ 慢性期看護 メヂカルフレンド社 3. NANDA-I看護診断 定義と分類 最新版 医学書院 4. 系統看護学講座 別巻 がん看護学(医学書院、東京)		<b>参考文献：</b> 1. 成人看護学 慢性期看護 南江堂 2. 実践に役立つ看護過程と看護診断—ヘンダーソン・ゴードンのデータベースに基づく事例展開— スーヴェルヒロカワ 3. 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 4. 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 5. 緩和・ターミナルケア看護論 スーヴェルヒロカワ その他は随時提示する。		
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加状況等(5%)、レポート・事例記録物等(15%)、定期試験(80%)等で総合的に評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目(レポート等)についてもすべて評価しない。				
<b>学生へのアドバイス：</b> 予習復習を必ず行うことにより知識・技術の必要性を熟知でき、成人看護の演習で自らの進歩に結びつける。 講義と演習には積極的に参加すること。看護過程演習や技術演習は事前課題を準備し、終了後は課題レポートを整理する。				

開 講 年 次	3 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	精神看護援助演習 (Mental Health Nursing : Assessment & Skills)					ナンバリング	N-CN15	科目分類	専門分野
担 当 教 員	小野坂益成・川下貴士・丸山昭子					1科目当たりの合計自己学習時間			30時間
履 修 条 件	前提科目	精神看護援助論の単位を修得していること							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 精神疾患を抱える対象者を、身体的および心理社会的側面を含めた全体的存在として捉えた上で、人権擁護の観点から、生活の質の向上と自己実現を促す精神看護援助過程を理解することを目的とする。精神疾患の特徴とその看護を知識として学んだ上で、セルフケア理論に基づいた看護過程を事例展開し、看護の方向性や看護計画を立案する。また、自らのコミュニケーションの傾向を把握し、対人関係について振り返ることで精神障害者と接する上での基盤とする。さらに、入院前から地域生活までを視野に入れた精神障害者とその家族を理解する。早期退院の動向から社会資源の活用や多職種の役割・連携について学ぶ。									
<b>授業目標：</b> 1. 精神障害をもつ人の身体・心理・社会的側面を述べることができる。 2. 精神疾患の特徴と治療および看護について説明できる。 3. 精神障害をもつ人の人権と安全を守るための看護について述べるができる。 4. 自分のコミュニケーションの傾向を把握し、振り返ることができる。 5. 精神看護の看護過程を理解し、事例を通してグループで看護の方向性をまとめることができる。									
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）					授業形態	担 当	
1	ガイダンス 脳の仕組みと精神機能	事前：脳の解剖生理を説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義	小野坂 川下 丸山	
2	精神疾患の基礎知識	事前：テキストの該当ページを精読し、精神疾患の原因と分類方法を説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義		
3	統合失調症 ・陽性症状（幻覚など）、陰性症状（感情鈍麻など）について ・カタトニア、両価性など	事前：テキストの該当ページを精読し、統合失調症の原因・症状を説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義		
4	統合失調症とその看護	事前：MSEについて復習し13項目を説明できるように準備する。 事後：復習課題の作成					講義		
5	気分障害	事前：テキストの該当ページを精読し、気分障害の原因・症状を説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義		
6	気分障害とその看護	事前：統合失調症の授業で用いたMSEを振り返り、気分障害患者の事例にも適合できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義		
7	神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害とその看護	事前：テキストの該当ページを精読し、神経症性障害の分類と症状、およびストレスについて説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義		
8	生理的障害・身体的要因に関連した行動症候群	事前：テキストの該当ページを精読し、生理的障害・身体的要因に関連した行動症候群の分類と症状が説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義		
9	成人のパーソナリティ・行動の障害とその看護	事前：既習の心理学で学習したパーソナリティとはどのようなものを説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義		
10	器質性精神障害とその看護 ・脳の障害を原因として生じた精神疾患・症状（てんかん、認知症、せん妄、けいれんなど）	事前：既習の病態学で学習した脳の機能・解剖生理について説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義		
11	知的障害、心理的発達障害、児童期の行動・情緒の障害とその看護	事前：乳幼児期・学童期の発達段階について説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義		
12	精神作用物質使用による精神・行動の障害とその看護	事前：精神作用物質について説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義		
13	精神科における安全管理と入院環境 ・アドボカシー、共同意思決定など	事前：精神科におけるリスクマネジメントについて説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義		
14	精神科における薬物療法	事前：精神科で使用される薬について、既習の薬理学をもとに説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義		

15	精神療法・電気けいれん療法・反復経頭蓋磁気刺激療法・医学的検査と心理検査	事前：精神看護援助論で学習した意識・無意識についての復習と、人の性格パターンについて説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成	講義	小野坂川下丸山	
16	社会療法・精神科リハビリテーション	事前：精神科リハビリテーションについて説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成	演習		
17	地域精神保健活動における社会資源の活用と調整	事前：精神科における地域医療・福祉について説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成	講義		
18	地域精神保健活動における社会資源の活用とケアマネジメント	事前：精神科におけるチーム医療について説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成	講義 演習		
19	精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム ・多職種によるチーム医療（リエゾン精神看護専門看護師）	事前：17回目の授業で学んだ精神科における地域医療・福祉について復習し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成	講義 演習		
20	援助関係の構築（患者－看護師関係）・プロセスレコード	事前：患者－看護師関係について、テキストの該当ページを精読し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成	演習		
21	プロセスレコードの活用	事前：プロセスレコードの実施方法について説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成	講義 演習		
22	精神看護の看護過程(1) セルフケア理論の概要	事前：オレム・アンダーウッドのセルフケア理論について、テキストの該当ページを精読し、説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成	演習		
23	精神看護の看護過程(2) 情報収集・アセスメント・関連図・ケアプラン立案・評価について	事前：看護過程の必要性と一連の流れを説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成	演習		
24	精神看護の看護過程(3) 統合失調症の事例を用いたグループ演習	事前：統合失調症の病態・治療、および看護について復習し、事例における看護過程が展開できるように準備して、グループワークに臨む。 事後：課題レポートの作成	演習		
25	精神看護の看護過程(4) 統合失調症の事例を用いたグループ演習	事前：グループワークで残った課題や疑問を調べて、グループワークがスムーズに進行するように準備して臨む。 事後：課題レポートの作成	演習		
26	精神看護の看護過程(5) 統合失調症の事例を用いたグループ演習	事前：グループワークで残った課題や疑問を調べて、グループワークがスムーズに進行するように準備して臨む。 事後：課題レポートの作成	演習		
27	精神看護の看護過程(6) 統合失調症の事例を用いたグループ演習	事前：グループワークで残った課題や疑問を調べて、グループワークがスムーズに進行するように準備して臨む。 事後：課題レポートの作成	演習		
28	精神看護の看護過程(7) 統合失調症の事例を用いたグループ演習	事前：グループワークで残った課題や疑問を調べて、グループワークがスムーズに進行するように準備して臨む。 事後：課題レポートの作成	演習		
29	グループ演習の発表	事前：グループワークの成果が他者に伝わるように準備して臨む。 事後：課題レポートの作成	演習		
30	グループ演習の発表 まとめ	事前：グループワークの成果が他者に伝わるように準備して臨む。 事後：これまでの講義資料を見直し、定期試験の準備をする。	演習		
教本：		参考文献：			
1. 系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院		参考文献は、随時提示する。			
2. 系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院					
成績評価の方法、評価基準：					
授業参加状況等（10%）、復習課題（10%）、看護過程に関するグループワークの発表および個人の課題レポート等（20%）、定期試験（60%）で総合評価する。					
なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。					
学生へのアドバイス：					
精神看護援助論の講義内容を適宜用いますので、その時使用したテキストや講義プリントを復習時に連動させて見直す習慣をつけるようにしてください。					

開講年次	3年次 前期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	災害時精神的援助論 (Disaster Mental Helth and Care)					ナンバリング	N-CN35	科目分類	専門分野
担当教員	丸山昭子・小野坂益成・川下貴士					1科目当たりの合計自己学習時間			30時間
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 災害では、さまざまな原因によって多くの人の命や安全が脅かされ、災害に遭遇した人は身体的・精神的・社会的影響を受け、状況の危機に陥る。この授業では、それらの影響をふまえ、災害によって危機に直面した人への具体的な心のケアについて学ぶ。また、支援者側のメンタルヘルスについても検討する。									
<b>授業目標：</b> 1. 災害時における心のケアの必要性を説明できる。 2. 災害がもたらす身体的・精神的・社会的影響について説明できる。 3. 災害派遣精神医療チームの活動について述べるができる。 4. 被災者を支援する側のメンタルヘルスについて検討できる。									
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態	担当	
1	オリエンテーション 災害時における心のケアの必要性			事前：災害時における心のケアの必要性について、自分の意見を述べるできるように準備する。 事後：復習課題の作成			講義 グループワーク	丸山 小野坂 川下	
2	災害時の心のケアにおける個人とコミュニティ			事前：災害時の心のケアとして、個人とコミュニティの視点で述べるできるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					
3	災害弱者と人権問題			事前：災害弱者について述べるできるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					
4	災害派遣精神医療チーム (DPAT) の活動			事前：DPATについて述べるできるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					
5	災害時の心理 ・逆境体験、サバイバースギルドなど			事前：災害時の心理について、精神看護援助論（2年次）の授業資料を復習し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					
6	サイコロジカルファーストエイドとトラウマインフォームドケア			事前：サイコロジカルファーストエイドについて、精神看護援助論（2年次）の授業資料を復習し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					
7	支援者のメンタルヘルスとケア			事前：支援者のメンタルヘルスとケアについて自分の考えを述べるできるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					
8	まとめ			事前：これまでの授業資料を見直し、疑問点や不明な点を明確にして授業に臨む。 事後：定期試験に向けての準備をする					
<b>教本：</b> プリントを配布する。				<b>参考文献：</b> 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院（2年次購入済み）					
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加状況等（10%）、復習課題等（20%）、定期試験（70%）で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 災害は、誰にでも突発的に起こりうるリスクがあります。災害は、人の心にどのような影響を及ぼすのか、どのような援助が必要なのか、また支援者の心のケアはどのようにすべきなのか、授業を通して受講者全員で考えてみましょう。									

開 講 年 次	3 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	健康教育論 (Introduction to Health Education)					ナンバリング	N-NI35	科目分類	専門分野
担 当 教 員	渡部月子・望月麻衣・保母 恵					1 科目当たりの合計自己学習時間			30時間
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 看護師の教育的役割機能には、一次予防、二次予防、三次予防のための教育がある。この講義では、わが国の健康を取り巻く状況を理解したうえで、様々な対象の健康段階に応じて活用できるように、教育・学習の機能とプログラムについて、基本的な理論と実践について学修する。									
<b>授業目標：</b> 1. 健康教育の目的・内容・方法について述べることができる。 2. 健康教育の対象となる人たちの①知識の修得と理解 ②態度の変容 ③行動の変容を図る方法を関連づけて健康教育を実践できる。									
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)				事前・事後学習 (学習課題)			授業形態	担 当
1	オリエンテーション 健康教育の理念 (患者教育の考え方)				事前：シラバス内容の確認 事後：患者教育の考え方について復習			講義	渡部
2	健康教育に関する諸理論				事前：「保健行動と行動変容理論」を調査 事後：健康教育に関連する理論について復習			講義	望月
3	健康教育の方法と教材				事前：健康教育の方法について調査 事後：健康教育の方法と媒体について復習			講義	渡部
4	健康教育計画の企画、実施と評価				事前：作成する企画書案の作成 事後：企画書の作成			講義 演習	保母
5・6	健康教育の企画書・指導案・教材の作成				事前：健康教育の教材の準備 事後：健康教育の教材作成 プレゼンテーションの準備			演習	渡部 望月 保母
7・8	健康教育の発表と評価 まとめ				事前：プレゼンテーションの練習 事後：授業のまとめ			講義 演習	渡部 望月 保母
<b>教本：</b> プリントを配布する					<b>参考文献：</b> 随時提示する				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加状況等 (10%)、企画書・教材・発表 (30%)、定期試験 (60%) 等で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目についてもすべて評価しない。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 「健康教育論」は、健康の保持・増進、疾病の予防、早期発見・早期治療、治癒、社会生活の回復のすべて場面での健康教育について学ぶ授業です。看護師にとって必要なことは、保健・医療の専門家としての誇りと責任感を持ち、患者の一番身近にいる相談相手であり健康教育者であるということを忘れずに進めることです。学ぶ内容は幅広くあるので、じっくりと学んでほしい。									

開 講 年 次	3 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	看護研究方法論 (Research Method for Contemporary Nursing)					ナンバリング	N-NI35	科目分類	専門分野
担 当 教 員	大脇淳子・丸山昭子・川下貴士・深田雅美					1科目当たりの合計自己学習時間			15時間
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 看護学研究的の動向および研究方法～論文作成のプロセスを概説する。本授業の目的は看護研究の方法論の特徴を理解し、一つの研究的問いに対し関心を傾けて探求する基礎的能力を養い、研究方法の一連の過程を学ぶことである。また、内容と方法は、研究論文の種類と文献探索、研究計画書、研究手順、研究のまとめ方、研究発表等について演習を交えて学修する。									
<b>授業目標：</b> 1. 看護研究の特徴を説明する。 2. 看護研究における倫理について説明する。 3. 看護研究の進め方を説明する。 4. 研究課題に関する文献検索・文献検討する。 5. 研究計画書を作成する。 6. 研究論文のまとめ方を説明する。									
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1	ガイダンス 看護研究とは					事前：序章・第1・2・終章の予習 事後：看護研究とは何かを復習		講義	大脇
2	研究デザイン、研究の倫理					事前：第4・5章の予習 事後：看護研究の倫理・デザインを復習		講義	
3	量的研究の特徴					事前：第5章（量的研究出デザイン）を予習 事後：量的研究の復習		講義	丸山
4	研究課題と文献検索(1)：量的研究					事前：第3・5章（量的研究デザイン）を予習 事後：リサーチクエスチョン・文献検索の復習		講義 演習	
5	文献クリティーク(1)					事前：第3章の予習 事後：文献クリティークの復習		演習	
6	質的研究の特徴					事前：第5（質的研究デザイン）を予習 事後：質的研究の復習		講義	大脇
7	研究課題と文献検索(2)：質的研究					事前：第2・3・5章（質的研究デザイン）を予習 事後：リサーチクエスチョン・文献検索の復習		講義 演習	
8	文献クリティーク(2)					事前：第3章の予習 事後：文献クリティークの復習		演習	
9	研究計画書の作成(1)					事前：第8章の予習 事後：文献検索、ワークへの取り組み		講義 演習	大脇 丸山 川下 深田
10	研究計画書の作成(2)					事前：ワークの予習 事後：進捗に応じた課題への取り組み		演習	
11	研究計画書の作成(3)					事前：ワークの予習 事後：進捗に応じた課題への取り組み		演習	
12	研究計画書の作成(4)					事前：ワークの継続 事後：進捗に応じた課題への取り組み		演習	
13	研究計画書の作成(5) ※終了時課題の提出					事前：ワークの継続 事後：課題：研究計画書の提出		演習	
14	研究論文のまとめ方と公表： 研究背景と研究目的研究方法・結果・考察・結論・限界					事前：第12章の予習：背景と目的 研究方法～結論（まとめ） 事後：研究背景～研究方法～まとめの復習		講義	大脇
15	文献研究の進め方					事前：第12章の予習 事後：文献研究の復習		講義	丸山
<b>教本：</b> 1. 坂下玲子他：看護研究 系統看護学講座 別巻 第2版、医学書院					<b>参考文献：</b> 随時提示する。				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業・演習への参加状況等（40%）、課題等（60%）で総合評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 研究は自分で挑戦することで学びが深まる分野です。本科目はワークなど演習形式を取り入れ、学生間で学びを共有しながら最終的に自身の研究への関心を探求するための看護研究の基礎的能力を養うことを目指します。保健衛生統計学の知識も導入しますので関連させながら授業に臨みましょう。皆さんにとって初めての看護研究ですので、わかりやすい講義を心がけます。									

開 講 年 次	3 年次 後期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	90	授業形態	実習
授業科目(英文)	生殖・周産期の看護ケア実践 (Reproductive and Perinatal Nursing : Practicum)					ナンバリング	N-DN16	科目分類	専門分野
担 当 教 員	木原博子・前島貴子・箭内彩也佳・藤井智恵子								
履 修 条 件	前提科目	リプロダクティブ・ヘルス援助論、リプロダクティブ・ヘルス援助演習を修得していること。							
	その他	ツベルクリン検査、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに、11月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を受けることも実習条件として追加される。							
<p>授業概要：</p> <p>学んだ知識・技術を統合し、根拠に基づいた個別性のある看護実践を展開する。主な対象は、周産期にある妊婦・産婦・褥婦・新生児とその家族で、情報のアセスメント、看護計画を立案、看護援助の実践、評価の連続した過程を学ぶ。また、地域社会での母子支援を含めて次世代を育成するための看護や自らの性、家族の意義についても考える機会とする。</p>									
<p>授業目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の特性を理解する。</li> <li>2. 妊娠・分娩・産褥期及び新生児期の母子と家族の健康状態に応じた看護を実践する。</li> <li>3. 妊娠・分娩・産褥期及び新生児期の家族の機能を把握し、新しい家族成員を迎える家族への支援を学ぶ。</li> <li>4. 母子及び家族を取り巻く環境を理解し、地域社会における母子支援の必要性を学ぶ。</li> <li>5. 母子保健医療チームの一員としての自覚を持ち、責任ある行動を身につける。</li> </ol>									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）			担 当
1 週目 5 日間	初日：学内オリエンテーション、看護技術演習					「生殖・周産期看護ケア実践実習手引き」参照			木原 前島 箭内 藤井
	助産院 環境整備、妊婦健康診査、分娩・産後ケア、母乳外来、育児支援等の実施及び見学  学内 妊娠期の看護診断、妊婦健康診査の実施、妊娠期の看護実践計画、教育プラン作成／実施								
2 週目 5 日間	母児の看護実践 周産期にある母児を受け持ち、看護過程の展開をする 看護計画に基づき、看護を実践する ＊一部実践もしくは見学の場合もある					※実習施設ごとに分け指導する。			
	その他 機会を得ることができれば、妊娠期の看護、分娩期の看護、帝王切開時の看護を実践する  最終日：実習のまとめ、報告会								
教本： リプロダクティブ・ヘルス援助論、リプロダクティブ・ヘルス援助演習で使用したテキスト					参考文献： 随時提示する。				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>実習評価表の評価基準に基づき、看護援助の実際、実習態度、実習課題レポートおよび記録物により、総合的に評価する。</p> <p>＊実習オリエンテーションや学内学習も評価対象とする。</p> <p>＊実習の準備・学習課題は、臨地実習ガイダンスにて配布する資料を参照する。</p> <p>＊実習初日のオリエンテーションで生殖・周産期ケアに関する基礎知識の確認テストを行う。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>生殖・周産期の看護ケア実践の実習では看護過程の展開が速いため、事前学習、準備を十分にして実習に臨んでください。欠席のないように健康管理に気をつけましょう。</p>									

開 講 年 次	3 年次 後期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	90	授業形態	実習
授業科目(英文)	小児期の看護ケア実践 (Introduction to Pediatric Nursing : Practicum)					ナンバリング	N-NP36	科目分類	専門分野
担 当 教 員	大脇淳子・吉田裕子・眞壁公美子								
履 修 条 件	前提科目	健康障害C、小児発達援助論、小児期の発達援助演習、基礎看護ケア実践Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること。							
	その他	IGRA検査陰性、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で抗体がある、または陰性で予防接種が完了している者、インフルエンザの予防接種を完了していることを条件とする。							
授業概要： 本科目は、子どもと家族の倫理に基づく看護を学ぶために、健康な子どもの発達支援実習と健康障害のある小児と家族の看護ケア実践実習の2単位で構成する。まず、1単位は、幼稚園での実習を通して、健康な子どもの成長・発達過程の実際と健やかな成長・発達の促進に向けた発達支援の実際を学修する。次の1単位は、健康障害により療養生活を送る小児と家族を受け持ち、成育看護の観点から対象の成長・発達段階と身体的・心理・社会的な健康レベルに応じた看護に必要な基礎的能力を学修し、自己の小児看護観を育む。									
授業目標： 1. 小児各期の成長・発達と生活行動の特徴を理解し、健やかな成長・発達を促進する看護を実践する。 2. 健康障害や療養生活が小児と家族（きょうだいを含む）に及ぼす影響を分析する。 3. 健康障害のある小児と家族を看護の対象と捉え、小児の健康回復と成長・発達を促進する看護を実践する。 4. こどもの権利擁護と小児看護の倫理に基づく看護を学ぶ学生として責任ある行動をとる。 5. 成育看護を見据えた多職種との連携、協働における看護の役割について考える。 6. 成長・発達や健康レベルに応じたこどもと家族（きょうだいを含む）との関わりを通して対象理解を深め、倫理に基づく小児看護観を育む。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）			担 当
5 日間	<b>健康なこどもの発達支援実習：1単位</b> <b>【実習施設】</b> ・松蔭幼稚園 <b>【実習方法】</b> 初日ガイダンス。2～4日目は幼稚園で年齢の異なるクラスで実習する。5日目は学内で実習報告会を行う。 <b>【実習内容】</b> ・幼稚園では、成長・発達段階の異なる幼児クラスで集団生活を送る健康な幼児の成長・発達の特徴と基本的養護の実際を学ぶ。 ※詳細は「小児期の看護ケア実践要領」参照					<b>【事前】</b> ①小児各期（特に幼児期）の成長・発達の特徴 ②発育・発達評価および生活行動を促進する看護（発育支援）方法 <b>【事後】</b> 健康なこどもの発達支援実習の学びのレポート			大脇 吉田 眞壁
5 日間	<b>健康障害のある小児と家族の看護実習：1単位</b> <b>【実習施設】</b> 厚木市立病院・海老名総合病院・平塚市民病院・東海大学医学部付属病院 <b>【実習方法】</b> 実習1日目～4日目は病棟実習、5日目は学内で小児病棟実習のまとめを行う。 <b>【実習内容】</b> 健康障害のある小児と家族1名受け持ち、健康レベルや発達段階に応じた看護を実践する。 ※詳細は「小児期の看護ケア実践要領」参照					<b>【事前】</b> ①小児各期の成長・発達の特徴 ②健康なこどもの発達支援実習②と同様 ③小児に特有な疾患の病態生理・検査・治療・処置・看護 ④小児期の予防接種、事故防止 ⑤他職種との連携と協働、看護の役割 <b>【事後】</b> 健康障害のある小児と家族の看護ケア実践後レポート			
実習方法 1) 1グループ3～5名程度で2週間実習する。(別紙「2027年度看護ケア実践計画学生配置」を参照) 2) 実習開始直前に実習施設別オリエンテーションおよび看護過程の復習と事例に基づく小児看護技術演習を実施する。									
教本： 小児発達援助論、小児期の発達援助演習、健康障害C(小児)で使用したテキスト					参考文献： 病気がみえる vol.15 小児科、第1版、医療情報科学研究所（編集） 小児期の看護関連科目の講義レジュメ、その他、随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 実習態度（30%）、援助の実際（40%）、実習課題レポート・記録物（30%）等、別途定める小児期の看護ケア実践評価基準に準ずる。									
学生へのアドバイス： 1) 健康障害C、小児発達援助論、小児期の発達援助演習で学修した知識・技術を活用した実習になります。 臨地では、まずは、対象となる子どもと接して関係性を築くことから始めましょう。 2) 感染症に罹患した（疑い含む）場合は実習を中断する場合がありますので、実習前2週間、実習中の自己の健康管理には十分注意しましょう。 また、実習後2週間も健康管理を記録し、異常があれば必ず報告しましょう。									

開 講 年 次	3 年次 後期	選択・必修	必修	単 位 数	3	時 間 数	135	授業形態	実習
授業科目(英文)	急性期・回復期の看護ケア実践 (Adult Health Nursing : Practicum I)					ナンバリング	N-NP46	科目分類	専門分野
担 当 教 員	川畑貴美子・佐藤京子・下村晃子・川原理香・刈田明子・中野 香・川崎真子								
履 修 条 件	前提科目	3 年次前期までの必修科目を履修していること							
	その他	IGRA検査、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性であること、または予防接種が完了していること。予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。11月以降の実習においては、インフルエンザの予防接種を受けていることも実習条件として追加される。							
授業概要： 成人期や老年期の急性期・回復期、特に周手術期にある対象と援助の人間関係を形成する。 対象の疾病の成り立ちと回復を促進する根拠となる知識と技術を身につけ、健康レベルの改善、QOLの向上を目指す看護を実践する。看護過程の展開に沿って対象者のニーズに合わせた看護計画を立案し実践・評価できる能力を養う。実習を通して自己の看護観について考える機会とする。									
授業目標： 1. 成人期および老年期の対象の特徴とそれぞれの健康特性を、身体・心理・社会・スピリチュアルの各側面から理解できる。 2. 根拠に基づいて健康上の諸問題を統合的に把握し、看護問題を見いだすことができる。 3. 周手術期にある対象および家族に必要な看護が計画できる。 4. 計画にそって、療養生活を支援できる。 5. 自己の看護実践を客観的に評価することができる。 6. 保健医療福祉チームにおける、看護師の役割および多職種との連携が理解できる。 7. 看護学生としてふさわしい態度を身につけることができる。 8. 看護に対する自己の考えを振り返ることができる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	担 当
5 日間	第1日目：学内で実習オリエンテーションと技術確認演習 第2日目以降：病棟実習 受け持ち患者の看護計画の立案と看護ケアの実施 病棟カンファレンス					実習事前演習 (基礎看護技術確認)		学内演習	川畑貴美子 佐藤 京子 下村 晃子 刈田 明子 川原 理香 中野 香 川崎 真子
5 日間	病棟実習 看護過程に基づいた受け持ち患者への看護ケアの実施 病棟カンファレンス・中間カンファレンス (関連図発表) 第2週目水曜日：学内において個別指導と個人面談 (中間) 木・金曜日病棟実習					詳細は「成人期の看護 急性期・回復期の看護ケア実践 実習要領」参照。 成人発達援助論、看護過程および成人期の発達援助演習 I (急性期・回復期) の復習。		臨地実習と見学	
5 日間	第13日目まで：病棟実習 受け持ち患者の看護過程の展開と看護ケアの実施 最終カンファレンス：看護要約と自己の看護観のまとめ 第14・15日目：学内でのまとめと最終個人面談、課題レポート作成								
教本： 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1~11] 医学書院 2. 経過別成人看護学 周術期看護 メヂカルフレンド社 3. NANDA-I 看護診断 定義と分類 最新版 医学書院					参考文献： 実習病棟での対象把握に必要な文献は、随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 実習への態度・参加状況、実習課題レポート・記録物を評価する。 実習への参加状況には実習オリエンテーションへの出席を含む。									
学生へのアドバイス： 積極的で真摯な姿勢で実習に取り組むこと。報告・連絡・相談を徹底すること。 言葉遣いや身だしなみ等マナーを守ること。個人情報の順守と守秘義務の徹底 成人発達援助論、成人期の発達援助演習 I、健康障害 A・B・C で学習した知識を元に実習を行う。									

開 講 年 次	3 年次 後期	選択・必修	必修	単 位 数	3	時 間 数	135	授業形態	実習
授業科目(英文)	慢性期・終末期の看護ケア実践 (Adult Health Nursing : Practicum II)					ナンバリング	N-NP46	科目分類	専門分野
担 当 教 員	下村見子・佐藤京子・川原理香・荻田明子・中野 香・川崎真子・川畑貴美子								
履 修 条 件	前提科目	3 年次前期までの必修科目を履修していること。							
	その他	IGRA検査、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性であること、または予防接種が完了していること。予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。11月以降の実習においては、インフルエンザの予防接種を受けていることも実習条件として追加される。							
授業概要： 成人期や老年期の慢性期・終末期にある対象と、援助的人間関係を形成する。 対象の疾病の成り立ちと回復を促進する根拠となる知識や技術を身につけ、健康レベルの改善、QOLの向上を目指す看護を実践する。慢性疾患を持ち疾病のコントロールを必要とする患者および家族の特徴を理解し、看護過程の展開に沿って対象者のニーズに合わせた看護計画を立案し実践・評価できる能力を養う。実習を通して自己の看護観について考える機会とする。									
授業目標： 1. 成人期および老年期の対象の特徴とそれぞれの健康特性を、身体・心理・社会・スピリチュアルの各側面から理解できる。 2. 根拠に基づいて健康上の諸問題を統合的に把握し、看護問題を見いだすことができる。 3. 対象および家族に必要な看護が計画できる。 4. 計画にそって、療養生活を支援できる。 5. 自己の看護実践を客観的に評価することができる。 6. 保健医療福祉チームにおける、看護師の役割および多職種連携が理解できる。 7. 看護学生としてふさわしい態度を身につけることができる。 8. 看護に対する自己の考えを振り返ることができる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
5 日間	第1日目：学内で実習オリエンテーションと自己学習 第2日目以降：病棟実習 受け持ち患者の看護計画の立案と看護ケアの実施 病棟カンファレンス					実習事前演習 (基礎看護技術確認)		学内演習	下村 見子 佐藤 京子 川原 理香 荻田 明子 中野 香 川崎 真子 川畑貴美子
5 日間	病棟実習 看護過程に基づいた受け持ち患者への看護ケアの実施 病棟カンファレンス・中間カンファレンス（関連図発表） 第2週目水曜日：学内において個別指導と個人面談（中間） 木・金曜日病棟実習					詳細は「成人期の看護 慢性期・終末期の看護ケア実践実習要領」参照。 成人発達援助論、看護過程および成人期の発達援助演習Ⅱ（慢性期・終末期）の復習。		臨地実習と見学	
5 日間	第13日目まで：病棟実習 受け持ち患者の看護過程の展開と看護ケアの実施 最終カンファレンス：看護要約と自己の看護観のまとめ 第14・15日目：学内でのまとめと最終個人面談、課題レポート作成								
教本： 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1～11] 医学書院 2. 経過別成人看護学 慢性期看護 メヂカルフレンド社 3. NANDA-I 看護診断 定義と分類 最新版 医学書院					参考文献： 実習病棟での対象把握に必要な文献は、随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 実習への態度・参加状況、実習課題レポート・記録物で評価する。 実習への参加状況には実習オリエンテーションへの出席を含む。									
学生へのアドバイス： 積極的で真摯な姿勢で実習に取り組むこと。報告・連絡・相談を徹底すること。 言葉遣いや身だしなみ等マナーを守ること。個人情報の順守と守秘義務の徹底 成人発達援助論、成人期の発達援助演習Ⅱ、健康障害A・B・Cで学習した知識を元に実習を行う。									

開 講 年 次	3 年次 後期	選択・必修	必修	単 位 数	3	時 間 数	135	授業形態	実習
授業科目(英文)	老年期の看護ケア実践 I (Gerontological Nursing Care : Practicum I)					ナンバリング	N-NP56	科目分類	専門分野
担 当 教 員	草地潤子・菊地悦子・掛谷和美・深田雅美								
履 修 条 件	前提科目	老年発達援助論、老年期の発達援助演習を修得していること							
	その他	IGRA検査、麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・B型肝炎の各抗体検査陰性で予防接種が完了していること、冬季実習においてはインフルエンザの予防接種を受けていること							
<b>授業概要</b> 亜急性期病棟・リハビリテーション病棟・地域包括ケア病棟に入院している高齢者が、早期にその方の望む場における生活を実現するための基礎的看護実践能力を涵養する。高齢者が身体的・精神的・社会的に健全な成長・発達・成熟を継続できるように、日常生活行動ならびにヘルスプロモーションに向けた援助方法について学ぶ。また高齢者を支援するための保健・医療・福祉のシステムを理解し、これらに関わる関連職種の役割について理解を深め、かつ連携の仕方とケア・コーディネーションができる方法について学ぶ。									
<b>授業目標</b> (病院) 1. 受け持ち患者の加齢性変化による生活への影響を説明できる。 2. 健康障害を持つ受け持ち患者の病態生理・症状・治療・二次障害を説明できる。 3. 生活歴や環境からの受け持ち患者の思いをくみ取ることができる。 4. 受け持ち患者の安寧や、安楽、安全に配慮した援助ができる。 5. 受け持ち患者のめざしうる最大限の機能の回復を促すことができる。 6. 高齢者の療養を支える職種と役割について理解し多職種連携の意義が説明できる。 7. 科学的根拠に基づき、援助を選択・実施・評価できる。 (老健) 1. 生活歴や環境からの受け持ち患者の思いをくみ取ることができる。 2. 介護老人保健施設の機能・役割・理念を説明できる。 3. 介護老人保健施設における看護の特徴と多職種連携の意義が説明できる。 (共通) 1. 高齢者の尊厳を守り、倫理的配慮をもって関わるができる。 2. 実習を通して自己の看護観を言語化できる。 3. 看護学生としての責任ある行動がとれる。									
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）	授業形態	担 当	
3 週間	<b>【病院実習】</b> 1. 各実習病院のオリエンテーションを受ける。 2. 学生は高齢患者1名を受け持ち、看護過程を展開する。 1) 患者の情報を収集し、アセスメントする。 2) 患者の看護問題について看護計画を立案し実施する。 3) 実習指導者とともに患者への看護実践を行う。 4) 行った看護援助を評価修正し、患者に適した援助を検討する。 <b>【介護老人保健施設】</b> 1. 各実習施設のオリエンテーションを受ける。 2. 入所高齢者とのコミュニケーションを通じ、施設での日常生活について理解を深めるとともに看護師のケア実践を見学し、看護職の役割を知る。					実習事前学習 ・加齢に伴う身体的・精神的・社会的機能の変化 ・老年期の発達援助演習、看護過程の復習  詳細は、「老年期の看護ケア実践 I 要領」参照	実 習	草地潤子 菊地悦子 掛谷和美 深田雅美	
教本： 随時提示する					参考文献： 随時提示する				
<b>実習評価の方法、評価基準</b> 学修・実践への取り組み、実習態度、課題レポート・記録物等、別途定める実習評価基準に順ずる。									
<b>学生へのアドバイス</b> 高齢者のこれまでの生活をふまえ、その方の個性を含めた支援を考えよう。高齢者の特徴など事前学習および自己学習をしっかりとした上で実習に臨みましょう。主体的に学習する姿勢を期待します。									

開 講 年 次	3 年次 後期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	90	授 業 形 態	実 習
授 業 科 目 (英 文)	精神看護ケア実践 (Mental Health Nursing : Practicum)					ナンバリング	N-NP66	科 目 分 類	専 門 分 野
担 当 教 員	丸山昭子・小野坂益成・川下貴士								
履 修 条 件	前 提 科 目	精神看護援助論、精神看護援助演習を修得していること							
	そ の 他	IGRA検査、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。冬季実習においてはインフルエンザワクチンの接種が条件となる。							
<p>授業概要：</p> <p>精神疾患を持つ人の入院中から退院支援までの回復の段階に応じた看護を理解し、指導の下に実践する。また、精神障害者の地域生活支援について、多職種と協働する必要性と方法を精神科デイケアや精神科訪問看護、精神科グループホーム等の実習を通して体験的に学ぶ。</p>									
<p>授業目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者との接し方を理解し、対話の実践を通して、治療的な人間関係を保つことができる。</li> <li>2. 薬物、作業、レクリエーション療法を通して患者に接することができる。</li> <li>3. 人権の尊重と行動の制限について述べるができる。</li> <li>4. 院内・院外における生活場面で、患者の安全と事故防止について述べるができる。</li> <li>5. 障害者理解を通して、自己の考え方を振り返ることができる。</li> <li>6. 地域で生活する精神障害者を支援する多職種の活動を記述できる。</li> <li>7. 看護理論の枠組みに沿って、系統的に対象者の情報を整理し、看護の方向性を記述できる。</li> </ol>									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )					事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )			担 当
10日間	<p>詳細は、「精神看護ケア実践要領」参照</p> <p>実習期間中、4日間は病棟、2日間はデイケア、1日はグループホームまたは精神科訪問看護等で実習する。初日にガイダンスを行い、それぞれの実習の最終日にはまとめ及び個別面接を学内にて行う。</p>					「精神看護ケア実践要領」参照			丸山 小野坂 川下
<p>教本：</p> <p>精神看護援助論、精神看護援助演習で使用したテキスト</p>					<p>参考文献：</p> <p>随時提示する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>実習への参加状況 (40%)、実習課題レポート・記録物 (60%) 等、別途定める実習評価表で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>精神看護援助論、精神看護援助演習で学習した内容を、事前に復習しておいてください。</p>									



## VII シラバス(4年)

### VII シラバス(4年)

文部科学省大学設置基準（令和4年9月30日一部改正）によると、「1単位にはおおむね45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする」とされており、授業時間以外に自己学習時間も含まれている。1又は2単位あたりに必要な学修時間は下表の通りである。

#### 単位あたりの学修時間

授業形式	単位数 (学修時間数)	授業回数 (コマ数)	授業時間数	自己学習時間数	
				合計	1コマあたり (事前+事後)
講義	1単位 (45時間)	8	16(15)時間	30時間	4時間
	2単位 (90時間)	15	30時間	60時間	4時間
演習	1単位 (45時間)	15	30時間	15時間	1時間
	2単位 (90時間)	30	60時間	30時間	1時間

出典：大学設置基準第二十一条

## Ⅶ シラバス(4年)

開 講 年 次	4 年 次 前 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	災 害 ・ 救 急 時 医 療 と 看 護 (BLS を 含 む) (Disaster and Emergency Nursing Management)					ナ ン バ リ ン グ	N-AM17	科 目 分 類	専 門 基 礎 分 野
担 当 教 員	吉 井 信 哉 ・ 佐 藤 京 子 ・ 刈 田 明 子 ・ 川 下 貴 士 ・ 川 崎 真 子					1 科 目 当 た り の 合 計 自 己 学 習 時 間			60 時 間
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>生命が危機に直面する三次救命救急を必要とする状況は、疾患から引き起こされるのみならず、事故や災害によっても起こり得る。ここでは、救命救急処置および看護に必要な基礎知識として、心肺蘇生法とそれらを必要とする病態や救命救急医療システムについて学習する。また、保健医療従事者に必要とされる一次および二次救命救急の技法を、演習を通して習得する。さらに、災害や緊急事態発生時の危機管理と対処方法、トリアージについて实际的に学ぶ。</p>									
授 業 目 標 :									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害医療と救急医療の違いを理解しつつ、災害時、急変時など看護師として実際に自ら考え行動が出来るような思考を養う。</li> <li>2. 災害時（小規模から大規模災害時）に国、県、市町村長がどの様に行動をして災害の対応を行うかを知り、その際にはどのような医療・看護が必要となるのかを理解する。</li> <li>3. 災害の際の指揮・命令系統、情報伝達を理解し、国県が指導して行っている災害救助チーム（DMAT<sup>1</sup>、DPAT<sup>2</sup>、JMAT<sup>3</sup>、DMORT<sup>4</sup>）の機能・機構を理解する。</li> <li>4. 災害時における外傷例を理解する。</li> <li>5. 災害サイクルの理解と生活支援や災害からの復興や、被災災害地域の保健衛生・健康管理、看護の知識を理解する。</li> <li>6. 災害時における看護の避難所サポートについて学ぶ。</li> <li>7. 救急医療において基本的な医療現場で用いる意識レベルの評価、熱傷の理解、包帯法やBLS（Basic Life Support：一次救命処置）による演習を行い、実際に評価・実行できるようにする。BLSにおいては事前学習、座学、演習、筆記試験、実技試験を行い、合格者には日本救急医学会認定BLS修了認定証が授与される。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) Disaster Medical Assistance Team、</li> <li>2) Disaster Psychiatric Assistance Team、</li> <li>3) Japan Medical Association Team、</li> <li>4) Disaster Mortuary Operational Response Team</li> </ol> </li> </ol>									
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	担 当
1	災 害 に つ い て、災 害 医 療 の 概 要 と 災 害 へ の 準 備 (災害についての理解と災害医療の原則を理解、災害サイクルと災害の準備と看護の役割、災害時の対応について)					事 前：な し 事 後：授 業 内 容 の 復 習		講 義	吉 井、佐 藤
2	災 害 看 護 ・ 救 急 看 護 に つ い て 看護からみた救急看護と災害看護の違いと災害看護・救急看護の診るべき点をあげ、災害時であればどうするのか、病院での急変時はどうするのか学ぶ。					事 前：な し 事 後：授 業 内 容 の 復 習		講 義	佐 藤、吉 井
3	急 性 期 医 療 に つ い て (仮) 大 規 模 感 染 症 流 行 に 対 し て (仮)					事 前：な し 事 後：授 業 内 容 の 復 習		講 義	ゲ ス ト ス ピ ー カ ー 吉 井、佐 藤
4	災 害 サ イ ク ル に 応 じ た 看 護 の あ り 方、災 害 の 法 制 度 災害サイクル各期に応じた看護師の役割について学ぶ。					事 前：な し 事 後：授 業 内 容 の 復 習		講 義 ・ 演 習	吉 井、佐 藤
5	災 害 時 の 指 揮 命 令 系 統 ・ 情 報 伝 達 に つ い て 医療従事者によるトリアージ・救出について、災害時の指揮命令系統の理解と統制を理解、情報伝達のシステムと情報伝達方法を知ることにより急性期の災害サイクルの理解を知る。 災害時のトリアージ（一次トリアージ、二次トリアージ）につて学ぶとともに、災害現場の救出の基本について、災害時の外傷時の評価について学ぶ。					事 前：な し 事 後：授 業 内 容 の 復 習		講 義 ・ 演 習	吉 井、佐 藤
6	看 護 だ か ら で き る 災 害 者 の 避 難 所 に お け る サ ポ ー ト (そ の 1) 看護としての災害者の災害時における生活環境改善やサポートについて学ぶ。					事 前：な し 事 後：授 業 内 容 の 復 習		講 義	吉 井、佐 藤
7	看 護 だ か ら で き る 災 害 者 の 避 難 所 に お け る サ ポ ー ト (そ の 2) 看護としての災害者の災害時における生活環境改善やサポートについて学ぶ。三角巾を使った応急処置					事 前：な し 事 後：授 業 内 容 の 復 習		講 義	吉 井、佐 藤
8	病 院 に お け る 災 害 時 の 看 護 師 と し て の 役 割 発災直後の病院での看護師の役割と具体的な対応について学ぶ。					事 前：な し 事 後：授 業 内 容 の 復 習		講 義	ゲ ス ト ス ピ ー カ ー、 吉 井、佐 藤
9	病 院 に お け る 災 害 時 の 看 護 師 と し て の 役 割 発災直後の病院での看護師の役割と具体的な対応について学ぶ。					事 前：な し 事 後：授 業 内 容 の 復 習		講 義	吉 井、佐 藤

10	<b>災害時・被災下における疾病</b> 災害時の疾患や被災下における慢性疾患の対処方法などについて	事前：なし 事後：授業内容の復習	講義	吉井、佐藤
11	<b>災害について、災害医療と災害への準備</b> (治療面からみた、災害についての理解と災害医療の原則を理解、災害サイクルと災害の準備と看護の役割、災害時の対応について)。	事前：なし 事後：授業内容の復習：授業内容の復習	演習	吉井、佐藤
12	<b>熱傷、意識レベルの評価、BLS演習前授業ならびテスト</b> 熱傷について学び、成人・小児の熱傷算定方法を学ぶ。 意識レベルの評価：JCS、GCSを中心とした意識レベルの評価。BLS演習前試験を行う。	事前：テキストの自己学習 事後：授業内容の復習	演習	吉井、佐藤
13	<b>DPAT・心のケア・DMORTについて</b> 災害時には急性疾患が注目されるものの、心身的ストレスが災害後に大きな問題になっていることが分かってきた。心的ストレスに対し災害派遣精神医療チーム (DPAT) による患者への対応や、被災者のPost Traumatic Stress Disorder (PTSD) を初めとする精神疾患発症の予防などを支援する専門チームの災害時の働きなどを理解するとともに、DMORT (災害遺族・遺体対応) についても理解をする。	事前：なし 事後：授業内容の復習	演習	吉井、佐藤
14	<b>BLS (Basic Life Support : 一次救命処置) vol. 1</b> 1 ブース3～4名の受講生 (学生) とインストラクター1名に対し1体の蘇生人形を用いて演習を行う。発見から意識の確認、胸骨圧迫、ポケットマスクやバグバルブマスクを用いた人工呼吸法と、AEDを用いた蘇生を座学、実地を用いて学び、実際に急変時に行えるようインストラクターの指導の下、実練習を行う。	事前：テキスト内容の予習 事後：授業内容の復習	演習	ゲストスピーカー、 吉井、佐藤
15	<b>BLS (Basic Life Support : 一次救命処置) vol. 2</b> 前演習学んだ蘇生方法を引き続き学びつつ、実際に急変時に行えるようにメガコードを用いた合否試験を行う。筆記試験・実技試験合格者には日本救急医学会認定BLS修了認定証が授与される。	事前：なし 事後：授業内容の復習	演習	ゲストスピーカー、 吉井、佐藤
<p>教本： 災害看護学 (新体系看護学全書)：辺見 弘 (編集)、山西文子 (編集) 系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院 松蔭大学BSLコース・コンセンサス：吉井信哉 (編集) ⇒ 授業の際配布</p> <p>参考教本：  <ul style="list-style-type: none"> <li>災害看護 (ナースング・グラフィカー看護の統合と実践(3))：酒井明子 (編集)</li> <li>災害看護一看護の専門知識を統合して実践につなげる (看護学テキストNiCE)：酒井明子 (著)、</li> <li>MCLS-CBRNEテキスト-CBRNE現場初期対応の考え方：日本集団災害医学会 (監修)、大友康裕 (編集)</li> <li>JRC蘇生ガイドライン2022：</li> <li>DMAT標準テキスト第2版</li> <li>改訂第5版日本救急医学会ICLSコースガイドブック：山畑佳篤 (著)、小倉真治 (監修)</li> </ul> その他、随時提示する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：  <ul style="list-style-type: none"> <li>授業評価：定期試験 (BLS内容も含む)、授業参加など総合評価する。なお、授業参加 (出席) は最低条件である。・一次救命処置の演習として日本救急医学会認定のBLSコースを開催する。本コースにおいては座学、事前試験、演習/実地試験を行い合格者に認定証を発行する。本コースの不合格者であっても、他の評価にて総合的に単位認定を行うため、BLSコース不合格であっても単位は不合格とは限らない。BLSコース修了 (不合格であっても) 他の蘇生シミュレーションコースの受講は可能となる。なお、2年以内に他施設で日本救急医学会BLSコースを受講し認定 (プロバイダー) されている場合には本コース受講にて更新とする。しかし、他AHA BLSコース、消防所や運転免許証でBLSコースなどの受講・認定をしても、本コースの更新とは認められない。本コースを受講・認定試験合格にて初めて認定される。本BLSコースにおいて不合格者は再試験・再実地試験は行わない。なお、学期末試験においてはBLSコースの内容も含めて筆記ないし選択肢による試験を行う。本BLSコース修了認定後2年以内に日本救急医学会認定BLSコースを受講しアシスタントインストラクターとして指導することが望ましい。学期末試験においてはBLSコース内容も含めて筆記ないし選択肢試験を行う。</li> </ul> </p>				
<p>学生へのアドバイス：  <ul style="list-style-type: none"> <li>病院実習にて臨床経験し、実際の医療現場は体験したと思いますが、周知のごとく人の急変は日頃あまり多くはありません。BLSはその遭遇が少ない急変時の対応の1つです。しかし、せっかく修得した知識も半年もすれば低下します。知識の持続はヒトに教えたり、振り返ることにより持続します。これを機に看護師になっても継続してBLSなどのセミナーに参加し知識を継続してください。</li> <li>災害については本授業では概要を中心に話します。これから学生の皆さんが就職する各医療機関・教育機関における災害対策には多くの違いがあります。また、災害は規模や周囲の環境によっても対応が様々です。BLS同様に継続して意識し学ぶよう心掛けてください。</li> </ul> </p>				

開 講 年 次	4 年 次 前 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	15	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	先端医療・新興再興感染症 (Introduction to Advanced Medical Technologies)					ナンバリング	N-AM38	科 目 分 類	専 門 基 礎 分 野
担 当 教 員	高 田 英 明					1 科 目 当 た り の 合 計 自 己 学 習 時 間			30 時 間
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>最先端かつ高度な医療技術が臨床の場で数多く利用されている。これらの医療を理解することは、看護実践をする上で重要な課題となっている。この講義では、特に診断・治療に利用される先端医療技術、診断機器の実際を学習し、それぞれの原理、機能、成果、問題点等について理解を深める。具体的には、先端画像診断、遺伝子診断と治療、遠隔医療、カテーテル治療、内視鏡下治療、臓器移植、人工臓器、人工材料、再生医療、医療ロボット、アンチエイジング等について学習する。</p>									
授 業 目 標 :									
・ 最先端の医療について知識を深める									
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	担 当
1	先進医療 (1) 現代医学の進歩について概論 1					事前: 事後: 授業内容の復習		講義	高田
2	先進医療 (2) 現代医学の進歩について概論 2					事前: 事後: 授業内容の復習		講義	高田
3	先進医療 (3) 医療AI					事前: 事後: 授業内容の復習		講義	高田
4	先進医療 (4) 遠隔医療					事前: 事後: 授業内容の復習		講義	高田
5	先進医療 (5) 遺伝子治療、ゲノム医療					事前: 事後: 授業内容の復習		講義	高田
6	先進医療 (6) 伝統医学					事前: 事後: 授業内容の復習		講義	高田
7	先進医療 (7) 新興感染症 1					事前: 事後: 授業内容の復習		講義	高田
8	先進医療 (8) 新興感染症 2					事前: 事後: 授業内容の復習		講義	高田
教 本 : 参 考 文 献 :									
配布資料、プリント等									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業参加状況 (リアクションペーパーの返答等) ・ レポート等で総合評価する。なお、レポートは講義内容と自ら調べた内容を総合して提出すること (自ら調べた内容については参考文献ないし参考図書は必ず記載すること)。</li> <li>・ 授業中の私語、スマートフォン (私用での使用)、授業中の無断退出は禁止とする。</li> </ul>									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
<p>周知のごとく医療は日進月歩であり、最先端の医療の治療にて今まで克服できなかった病気が克服できるようになったり、侵襲が強かった治療も侵襲が軽減され多くの苦痛を受けなくなってなったりとしている。また、先進の治療ばかりに注目されるが、人としてどのような終末を迎え、どのような終末が人にとってよいか、治療ばかりに目が向いてしまうが、よりよい人生の最後を迎えるのが良いのか、今回の授業を受け、違う視点から医療を学んでほしい。また、新しいことや人の終末をふまえ 興味を持ち、常に学ぶ姿勢も養ってほしい。</p>									

開 講 年 次	4 年 次 前 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	45	授 業 形 態	実 習
授 業 科 目 (英 文)	老年期の看護ケア実践 II (Gerontological Nursing Care : Practicum II)					ナンバリング	N-NP57	科 目 分 類	専 門 分 野
担 当 教 員	草地潤子・菊地悦子・掛谷和美・深田雅美								
履 修 条 件	前提科目	老年発達援助論、老年期の発達援助演習、老年期の看護ケア実践 I を修得していること							
	その他	IGRA検査、麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・B型肝炎の各抗体検査陰性で予防接種が完了していること							
<b>授業概要：</b> 地域で生活している高齢者が健康づくりに取り組むためのさまざまな援助方法の中から、プログラムの企画、実施を通して、高齢者のヘルスプロモーションの必要性が理解できる。そして地域包括ケアシステムにおける「高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続ける」ことを実現する方法について学ぶ。									
<b>授業目標：</b> 1. 地域で生活する高齢者の生活や健康のとらえ方を理解する。 2. 地域で生活する高齢者のヘルスプロモーションの活用やグループ活動の意義を理解する。 3. 地域で生活する高齢者の健康増進活動への支援の在り方を考察する。 4. 実習体験を通して高齢者看護観を統合し、課題を明確にする。									
授業計画、事前学習、事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	担 当
1 週 間	第 1 日 目 学内オリエンテーション 健康管理に関するインタビュー  第 2 日 目 厚木市寿荘における高齢者の趣味活動の参加観察 健康あつぎ推進リーダーの見学  第 3 日 目 「森の保健室」の準備  第 4 日 目 「森の保健室」実施  第 5 日 目 実習の振り返り					実習事前学習 ・ヘルスプロモーションの概念 ・高齢期の健康課題  詳細は、「老年期の看護ケア実践 II 要領」参照		実 習	草 地 潤 子 菊 地 悦 子 掛 谷 和 美 深 田 雅 美
<b>教本：</b> 随時提示する									
<b>参考文献：</b> 随時提示する									
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 学修・実践への取り組み、実習態度、課題レポート、事前学習、記録物等、別途定める実習評価基準に順ずる。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 実習では地域住民、地域活動を実践する方々、行政職員などの協力で実施できることを忘れず、品位ある行動を心掛けることを期待します。									

開 講 年 次	4 年 次 前 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	90	授 業 形 態	実 習
授 業 科 目 (英 文)	地 域 ・ 在 宅 の 看 護 ケ ア 実 践 (Community and Home Care Nursing: Practicum)					ナ ン バ リ ン グ	N-NP77	科 目 分 類	専 門 分 野
担 当 教 員	渡 部 月 子 ・ 望 月 麻 衣 ・ 保 母 恵								
履 修 条 件	前 提 科 目	在 宅 看 護 援 助 論 ・ 地 域 ・ 在 宅 の 看 護 援 助 演 習 ・ 地 域 看 護 論 を 修 得 し て い る こ と							
	そ の 他	I G R A 検 査 が 陰 性 で あ る こ と ・ ま た 麻 疹 ・ 風 疹 ・ 水 痘 ・ 流 行 性 耳 下 腺 炎 ・ B 型 肝 炎 の 予 防 接 種 が 完 了 し て い る こ と							
授 業 概 要 :									
<p>在宅療養者が生活する地域の訪問看護ステーション等において、少人数のグループで臨地実習を行う。訪問看護師とともに療養者の自宅に同行訪問を行い、療養者宅における看護ケアの実際を学ぶ。療養者や家族の健康課題や生活課題を把握し、在宅看護による健康の維持・増進について学ぶとともに地域包括支援センターにおける地域包括ケアシステムに基づく多職種との連携や継続看護の重要性について深く理解する。また、地域で訪問診療を実施している病院・診療所において臨地実習を行い、在宅療養生活を支える医療と看護の実際について学ぶ。</p>									
授 業 目 標 :									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 訪問看護活動を通して、在宅療養者とその家族への理解を深めるとともに、生活の場に応じた看護技術の提供を学ぶ。</li> <li>2. 地域包括支援センターの活動を通して地域のケアシステムや介護保険制度、保健・医療・福祉領域の社会資源について理解を深め、関係機関・関連職種との連携の実際を学ぶ。</li> <li>3. 在宅における看護実践と領域別実習で実施した看護実践を統合し、継続看護の視点から看護の機能と役割について学ぶ。</li> <li>4. 地域で訪問診療を実施している病院・診療所の医師・看護師が実際に行っている活動とその必要性について学ぶ。</li> </ol>									
授 業 計 画 ・ 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 ・ 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			担 当 者
2 週 間 (10 日 間)	<p>1 週 目 初 日 : 学 内 オ リ エ ン テ ー シ ョ ン 2 ~ 5 日 目 : 訪 問 看 護 ス テ ー シ ョ ン で の 臨 地 実 習 訪 問 看 護 師 と と も に 同 行 訪 問 を 行 う</p> <p>2 週 目 6 日 目 : 記 録 の 整 理 ・ 事 例 の ま と め 7 ~ 9 日 目 : 訪 問 診 療 を 実 施 し て い る 病 院 ・ 診 療 所 で の 臨 地 実 習 医 師 ・ 看 護 師 等 と と も に 同 行 訪 問 を 行 う 地 域 包 括 支 援 セ ン タ ー で の 臨 地 実 習 地 域 包 括 支 援 セ ン タ ー の 概 要 を 理 解 し ・ セ ン タ ー の 事 業 等 に 参 加 す る 10 日 目 : 最 終 カ ン フ ェ レ ン ス ・ ま と め</p>					「地域・在宅の看護ケア実践」 要領参照			渡 部 望 月 保 母
教 本 : 在 宅 看 護 援 助 論 ・ 地 域 ・ 在 宅 の 看 護 援 助 演 習 で 使 用 し た テ キ ス ト ・ 資 料									
					参 考 文 献 : 随 時 提 示 す る 。				
成 績 評 価 の 方 法 ・ 評 価 基 準 :									
実 習 へ の 参 加 状 況 ・ 実 習 目 標 の 達 成 度 ・ 記 録 物 ・ 実 習 態 度 等 ・ 別 途 定 め る 実 習 評 価 基 準 に 準 じ て 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
地 域 で 生 活 す る 療 養 者 の 自 宅 に 訪 問 す る の で ・ 訪 問 マ ナ ー や 倫 理 的 配 慮 に は と く に 留 意 し ・ 積 極 的 な 姿 勢 で 実 習 す る こ と 。 各 自 健 康 管 理 に 十 分 注 意 す る こ と 。									

開 講 年 次	4 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	看護マネジメント論 (Introduction to Nursing Management)					ナンバリング	N-N117	科目分類	専門分野
担 当 教 員	佐藤京子・川畑貴美子					1科目当たりの合計自己学習時間			15時間
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 看護マネジメントとは、看護の目的を効率的、効果的、そして創造的に果たすための機能です。看護職が、高齢化や重症化によるケアニーズの増大、生き残りをかけたヘルスケア組織の経営圧力の中で、人々の尊厳をまもり、ケア専門職としての責任を果たしていくためには、看護管理がこれまで以上に重要になります。看護職自身の自律を支え促進し、多様性を踏まえた協働の仕組みをつくり、対象者とともにケアを創造していく看護管理を学びます。									
<b>授業目標：</b> 1. これからの看護には、すべての看護職に看護管理能力が求められることを理解する。 2. 看護マネジメントは、看護・ケアの価値を基盤とした管理を理解する。 3. 看護マネジメントには組織への視点とともに、組織を取り巻く社会への視点も必要であることを理解する。 4. 看護マネジメントの重要な要素として、看護師自身の専門職としての成長が不可欠であることを理解する。									
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1	人々の生活と看護のかかわり ・看護職の多様な活動の場とマネジメント ・看護職の活動の変遷					事前：多様な看護職の活動の場とは何かテキストを精読し理解して授業に臨む 事後：授業内容の復習		講義	川畑
2	看護管理の基本となるもの ・看護管理の定義 ・看護管理の基盤となる知識					事前：看護職と管理について、病院機能とは何かを、テキストを精読し理解できるように準備する。 事後：授業内容の復習		講義	川畑
3	看護管理の組織と方法論 ・専門職とは								
4	看護師の仕事とその管理 ・看護管理の目的 ・看護管理で重要なこと					事前：看護管理とは何か、テキストを精読し理解できるように準備する。 事後：授業内容の復習		講義	川畑
5	看護の質向上 ・看護管理と倫理					事前：看護の質、倫理とは何か、テキストを精読し理解ができるように準備する。 事後：授業内容の復習		講義	佐藤
6	医療安全の概念とシステム思考と方法 ・医療・看護の質の評価								
7	看護師の仕事とその管理 ・病院機能とモノ・情報・コスト管理 ・看護管理提供システム					事前：モノの管理、ケアシステムについてテキストを精読し理解できるように準備 事後：授業内容の復習		講義	川畑
8	看護管理に求められる能力 ・セルフマネジメントのスキル					事前：看護管理に必要な能力について、テキストを精読し、実践場面での理解ができるように準備する。 事後：授業内容の復習		講義	佐藤
9	コミュニケーションスキル ・看護管理能力の基盤となる理論								
10	看護学活動をとりまく法律・制度 ・看護管理に関連する法律 ・医療・福祉・看護政策の動向					事前：医療・看護に関係する法律、医療制度と経済について理解できるように準備。 事後：授業内容の復習		講義	川畑
11	看護職とキャリア学 ・社会人と専門職					事前：看護職のキャリア、医療・看護の質保障とはどのようなことか理解できるようにテキストを精読し準備する。 事後：授業内容の復習		講義	佐藤
12	看護と経営：医療と経済 ・看護にかかる医療・介護制度								
13	看護政策の動向、看護の専門機関・職能団体 看護マネジメントのまとめ					事前：看護政策とは何か、テキストを精読し理解ができるように準備する。 事後：授業内容の復習		講義	川畑
14	看護管理と病院経営					事前：病院組織と看護職との関連等、理解できるように準備する。 事後：講演内容の復習		講演	ゲストスピーカー
15	看護のトップマネジメントの実際を学び、組織理念・看護提供システム・人的資源活用の機能など								
<b>教本：</b> 1. ナーシング・グラフィック 看護の統合と実践① 看護管理 吉田千文・志田京子・武村雪絵・手島 恵編 (MCメディア出版)					<b>参考文献：</b> 1. 看護管理学習テキスト 第3版 第1巻 ヘルスケアシステム論 井部俊子監修 日本看護協会出版会 2023年度版 2. 看護管理学習テキスト 第3版 第2巻・第3巻・第4巻・第5巻 増野園恵他著 日本看護協会出版会 2023年度版 その他は随時提示する。				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加状況等（5%）、定期試験（95%）等で総合評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 日々の看護を提供する看護職の実践を支えているのは看護管理です。それぞれの単元の内容をテキストで予習し、毎回の授業を復習し、自分の考えを深めましょう。									

開 講 年 次	4 年 次 前 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	90	授 業 形 態	実 習
授 業 科 目 (英 文)	看護マネジメント実践 (統合実習) (Nursing Management Practicum)					ナンバリング	N-NP87	科目分類	専門分野
担 当 教 員	下村晃子・草地潤子・川畑貴美子・丸山昭子・大脇淳子・藤井智恵子・渡部月子・菊地悦子・佐藤京子・牛島典子・掛谷和美・吉田裕子・小野坂益成・望月麻衣・川原理香・刈田明子・保母 恵・木原博子・川下貴士・前島貴子・勅使河原俊子・西 法子・深田雅美・箭内彩也佳・小俣ちはる・眞壁公美子								
履 修 条 件	前提科目	看護科学領域における看護の基礎、リプロダクティブ・ヘルスの看護、小児期の看護、成人期の看護、老年期の看護、精神の看護、地域・在宅の看護の実習を、すべて修得していること。							
	その他	IGRA検査で陰性の者、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で抗体がある者または陰性で予防接種が完了している者							
<b>授業概要：</b> 看護マネジメント実践は、各専門領域での実習を踏まえ、既修の看護に関する知識・技術・態度を統合し、病院・施設または地域場で看護マネジメントが実践できる基礎的能力を養う。 そのため、本看護実践の経験を通して、集団および個人へのヘルスニーズに焦点を当て、看護マネジメントなどの実際について学修する。									
<b>授業目標：</b> 1. 看護チームにおける看護マネジメントの視点を学び、組織の方針に基づいた役割を理解し、看護実践に活かすことのできる能力を養う。 2. 複数の対象がもつニーズを理解し、科学的根拠に基づいた看護を実践するための問題解決能力を養う。 3. 看護専門職者としての保健医療福祉の関連職種間の連携・調整に必要な協働能力を養う。 4. 看護専門職者としての倫理観と責任感を養う。 5. 実践の中で自己の課題に気づき、看護観を養う。 なお、授業目標の学習の視点は、別冊「看護マネジメント実践 実習要領」を参照のこと									
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )					事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )			担 当 者
1 週 目 5 日 間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習1日目は学内ガイダンス、実習に関する事前学習等を行う。</li> <li>・実習2・3・4・5日目は臨地での実習を行う。</li> <li>・実習2日目には実習施設でのオリエンテーションを受ける。</li> <li>・日程及び実習の展開は、学生が実習する看護学領域や実習施設毎の実習計画により実施する。</li> </ul>					詳細は、看護マネジメント実践(統合実習)の実習要領および、「各領域看護マネジメント実践 実習要領」を参照のこと			上部に記載
2 週 目 5 日 間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習6・7・8・9日目は臨地で実習を行う。</li> <li>・9日目は臨地で、病棟実習指導者を交えたまとめのカンファレンスを行う。</li> <li>・10日目の最終日は学内にて、実習に関するまとめや報告会、実習評価等を行う。</li> </ul>								
<b>実習の方法：</b> 1. 看護学領域ごとに、看護マネジメント実践(統合実習)の目的・目標を達成するための実習を開講する。 2. 個々の学生が、実習への興味、関心、将来の計画に沿って、一看護学領域を選んで履修する。 3. 看護マネジメント実践(統合実習)の全体オリエンテーションの他に、実習領域別で事前オリエンテーションを実施する。 4. 各看護学領域別に、担当教員、実習指導者の指導の下に実習を行う。 5. 実習領域における看護実践の場の特性を生かし、対象に必要な看護をマネジメントする能力を習得する。 看護実践の1例を以下に挙げる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師と共に看護チームの一員として行動する複数患者への看護</li> <li>・病院・病棟の看護体制の特性を生かした看護</li> <li>・実習施設の理念に基づく看護管理、特に、看護管理者、リーダー看護師の役割と機能</li> <li>・退院後の在宅・外来看護に向けた継続看護</li> <li>・チーム医療・他職種との協働による、患者の健康回復を促進するための看護</li> <li>・訪問看護ステーションの看護</li> <li>・療養環境の整備・医療安全の視点での看護</li> </ul> 6. 学生は助言を受けながら看護チームの一員として看護実践をした後、自己の看護マネジメント実践(統合実習)のあり方について振り返り(評価)、その学びを深める。 7. 看護学の実習領域は以下の7領域とする。 看護の基礎、リプロダクティブ・ヘルスの看護、小児期の看護、成人期の看護、老年期の看護、精神の看護、地域・在宅の看護 8. 各領域の学生人数は3～8名程度に配置する。(別紙実習配置表参照) 9. 実習終了後に「将来の看護職者として私が目指すこと」というレポートを作成し提出する。 <b>実習の日程：</b> 実習を行う時期は7月中旬から8月上旬であるが、各看護学領域によって異なる。									
<b>教本：</b> 4年次までの学習で使用したテキストおよび資料					<b>参考文献：</b> 実習施設での対象把握に必要な文献は、随時提示する。				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 実習の出席状況、態度、課題提出状況など、実習課題レポート・記録物等、別途定める実習評価基準に準じて評価する。実習での態度は学内実習オリエンテーションへの出席も含む。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 看護マネジメント実践(統合実習)の実施までに修得した、すべての知識・技術・態度を統合し、卒業後、看護専門職として、看護に従事するための基盤を作る重要な実習です。各自看護への熱意をもって真剣に取り組むことを期待します。									

開 講 年 次	4 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	国際医療と看護 (Global Health and Nursing Practice)					ナンバリング	N-NI47	科目分類	専門分野
担 当 教 員	三浦左千夫					1 科目当たりの合計自己学習時間			30時間
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 国内外を対象とした日常生活レベルでの基本的な健康管理システムとそれをサポートする国際協力について学ぶ。特に、プライマリヘルスケアシステムとその国の教育システム、国民の意識、経済力、気候風土と文化の関連性について考察し、地域差についてどのようなバランスをとるべきかを考える。									
<b>授業目標：</b> 1. 寄生虫感染症を通じ輸入感染症の危険性、感染予防の知識を向上する。 2. 寄生虫感染症の流行地の公衆衛生学的背景と我が国の差異について理解を深める。 3. 国際看護の基盤となるに多文化理解の必要性を理解できる。									
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1	輸入感染症とは？ 寄生虫感染症蠕虫総論					事前：輸入感染症とは？ 事後：		視聴覚優先の講義	三浦左千夫
2	寄生虫感染症（線虫感染症～ノーベル医学賞まで）					事前： 事後：		視聴覚優先の講義	三浦左千夫
3	寄生虫感染症（吸虫感染）国際協力－住血吸虫対策					事前： 事後：		視聴覚優先の講義	三浦左千夫
4	寄生虫感染症（糸虫感染）					事前： 事後：		視聴覚優先の講義	三浦左千夫
5	寄生虫感染症（原虫総論）病原体媒介節足動物					事前： 事後：		視聴覚優先の講義	三浦左千夫
6	原虫感染症 I アメーバ感染症～マラリア感染症					事前： 事後：		視聴覚優先の講義	三浦左千夫
7	原虫感染症 II 先天性感染（国際協力母子保健）					事前：母子感染とは？ 事後：		視聴覚優先の講義	三浦左千夫
8	我が国におけるシャーガス病の現況（しのびよるシャーガス病）					事前： 事後：忍びよるシャーガス病と言われる理由は？		視聴覚優先の講義	三浦左千夫
<b>教本：</b> 1. 医動物学 有蘭直樹・吉田幸雄 著 南山堂					<b>参考文献：</b> 1. 顧みられない熱帯病 北 潔 2. 実践グローバルヘルス 日本国際保健医療学会編 杏林書院 3. その他は随時提示する。				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加状況等、小テスト・レポート等、定期試験等で総合評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 寄生虫疾患を通じて世界巡りを楽しみながら輸入感染症を理解すると同時に国際医療協力への道を探る。									

開 講 年 次	4 年 次 後 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習	
授 業 科 目 (英 文)	卒 業 演 習 (Nursing Professional Development : Seminar)					ナ ン バ リ ン グ	N-NI98	科 目 分 類	専 門 分 野	
担 当 教 員	下村晃子・大脇淳子・川畑貴美子・丸山昭子・藤井智恵子・渡部月子・草地潤子・菊地悦子・佐藤京子・掛谷和美・牛島典子・小野坂益成・望月麻衣・川原理香・吉田裕子・木原博子・刈田明子・保母 恵・川下貴士・前島貴子・勅使河原俊子・西 法子・深田雅美・箭内彩也佳・小俣ちはる・眞壁公美子									
履 修 条 件	前 提 科 目	4 年 次 前 期 ま だ の 専 門 分 野 の 領 域 別 科 目 の 単 位 を 全 て 修 得 し て い る こ と (実 習 を 含 む)。								
	そ の 他	な し	1 科 目 当 た り の 合 計 自 己 学 習 時 間				15 時 間			
授 業 概 要 :										
<p>本学の定めた卒業時の到達目標に照らし、学生自身が客観的振り返り、自らの到達度を評価し、その評価結果をもとにすでに学んだ専門分野（看護の基礎、リプロダクティブ・ヘルスの看護、小児期の看護、成人期の看護、老年期の看護、精神の看護、地域・在宅の看護、看護の統合など）の不足している知識、技術、情意を主体的にオムニバス形式で学習し、正確に、内容を補充するとともに、自らの能動的学習能力（読解力、理解力、判断力、文章力など）を獲得できるように学習する。</p>										
授 業 目 標 :										
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門分野における講義・演習・実習を踏まえて、卒業するにふさわしい知識・技術を持っているかを総合的に確認できる。</li> <li>2. 卒業時の到達目標を見据えて、試験方式で知識・技術のエビデンスを自己評価できる。</li> <li>3. 学生自身が、自分の課題を探索でき、それを修復する努力ができる。</li> <li>4. これを機会に、学習する能動的な能力を修正できる。</li> </ol>										
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式										
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	担 当		
1・2	看護の基礎 講義・演習・実習で学んだ知識の確認				事前：テキストの精読 事後：授業内容の復習		講義・演習	藤井 他		
3・4	小児期の看護 講義・演習・実習で学んだ知識の確認				事前：テキストの精読 事後：授業内容の復習		講義・演習	大脇 他		
5～7	成人期の看護 講義・演習・実習で学んだ知識の確認				事前：テキストの精読 事後：授業内容の復習		講義・演習	川畑 他		
8・9	老年期の看護 講義・演習・実習で学んだ知識の確認				事前：テキストの精読 事後：授業内容の復習		講義・演習	草地 他		
10・11	リプロダクティブ・ヘルスの看護 講義・演習・実習で学んだ知識の確認				事前：テキストの精読 事後：授業内容の復習		講義・演習	前島 他		
12・13	精神の看護 講義・演習・実習で学んだ知識の確認				事前：テキストの精読 事後：授業内容の復習		講義・演習	丸山 他		
14・15	地域・在宅の看護 講義・演習・実習で学んだ知識の確認				事前：テキストの精読 事後：授業内容の復習		講義・演習	渡部 他		
教 本 :										
各授業で使用したもの全ての教本 レジュメ 資料等										
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :										
<ul style="list-style-type: none"> <li>* 定期試験 (60分) は領域ごとに試験を実施し、すべての領域の試験の合格により単位認定とします。</li> <li>* 授業内試験、定期試験の結果で総合的に合否を決定します。</li> <li>* この科目の単位取得には、領域ごとに2/3以上の出席を条件とします。</li> </ul>										
学 生 へ の ア ド バ イ ス :										
国家試験の過去問題及び各領域の定期試験等の試験問題を全て復習し、最後のまとめとしての自己の知識力を振り返り、国家試験受験への準備とすることが出来ます。										

開 講 年 次	4 年次 後期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	医療系アドバンスセミナー (Advanced Medical Seminar)					ナンバリング	N-AM98	科目分類	専門基礎分野
担 当 教 員	吉井 信哉					1 科目当たりの合計自己学習時間			60時間
履 修 条 件	前提科目	身体の構造と機能 A, B、病態学総論、健康障害 A, B を修得していること							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 本学の定めた卒業時の到達目標に照らし、学生自身が客観的に振り返り、自らの到達度を評価し、その評価基準結果をもとにすでに学んだ小児、成人。老人に慢性期・急性期に発達する諸疾病の各種病態に焦点をあて学習した知識を確認し、その後新しく採用された検査、治療などについて追加講義し4年間の知識を総合的に問う学習とする。専門基礎科目（解剖整理、病理学、微生物学、薬理学、栄養学、公衆衛生など）の不足している知識・技術・情意を主体的に学習し、正確に、内容を補充するとともに、自らの能動的学習能力（読解力、理解力、判断力、文章力など）を獲得できるように学習する。									
<b>授業目標：</b> 1. 各臓器についてそれぞれの構造と機能、およびその異常と疾患との関連を確認し、説明できる。 2. それらの疾患が他の臓器の形態・機能の異常とどう関連するかを確認し、説明できる。 3. 個別の臓器によらない疾患について、病態を確認し、説明できる。 4. それぞれの疾患について、症例もみながら、治療の流れを知り、治療について概略を説明できる。									
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>									
授業回数	授業内容及び計画					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1	呼吸器系臓器の構造・機能と主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	吉井
2	生体の化学と酸塩基平衡、ホメオスタシスについて					事前：注① 事後：注②		演習	吉井
3	循環器系臓器の構造・機能と主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	吉井
4	消化器系臓器の構造・機能と主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	吉井
5	血液・造血器の構造・機能と主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	吉井
6	脳・神経系の構造・機能と主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	吉井
7	膠原病に関わる主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	吉井
8	内分泌臓器の構造・機能と主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	吉井
9	アレルギーに関わる主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	吉井
10	代謝系臓器の構造・機能と主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	吉井
11	感染症および皮膚に関わる主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	吉井
12	腎・泌尿器系臓器の構造・機能と主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	吉井
13	感覚器（眼科領域）の構造と機能・主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	吉井
14	感覚器（耳鼻科領域）の構造と機能・主要疾患をめぐって					事前：注① 事後：注②		演習	吉井
15	模擬試験（到達度判定）							演習	吉井
注① 当該分野のこれまでの教科書を復習してくること。 注② 当日よく確認できなかったことを、これまでの教科書・プリントを参照して解決しておく。									
<b>教本：</b> 特になし。随時プリントを配布する。									
<b>参考文献：</b> 1. 「身体の構造と機能 A, B」および「健康障害 A～C」で使用した教科書 2. <a href="https://nurseful.jp/nursefulshikkanbetsu/">https://nurseful.jp/nursefulshikkanbetsu/</a> 「ナースフル疾患別シリーズ」など、WEB上に無料で閲覧できるサイトも多い。 その他は随時提示する。									
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業への出席は単位認定の前提条件とし、授業参加状況等（15%）、小テスト・レポート等（15%）、定期試験（70%）等で総合評価する。 課題等が出された場合には、次の講義でそれを基に討論を行う予定である。必ず準備してくること。									
<b>学生へのアドバイス：</b>									

開 講 年 次	4 年次 後期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	看護理論の理解 (Nursing Theory and Practice)					ナンバリング	N-BN47	科目分類	専門分野
担 当 教 員	藤井智恵子					1科目当たりの合計自己学習時間			30時間
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 看護理論は看護の見方・考え方の方向性を示し、看護実践の理論的思考に活用されることについて学ぶこととする。また、本科目では、理論についての一般的な概念を学んだあとに、看護理論家による代表的な看護理論を取りあげて学修する。さらに、看護理論における中範囲理論を含め、理論構築の過程など理論学修に必要な概念や、それぞれの看護のメタパラダイムや理論内容について、実習でかかわった事例を通して学修する。									
<b>授業目標：</b> 1. 理論についての一般的な考え方と看護理論家による代表的な看護理論について説明することができる。 2. 看護理論を実践に活かすために、理論のクリティークができる。 3. 看護の見方・考え方が、看護実践で看護師の理論的思考に活用されていることを説明することができる。 4. 実習でかかわった事例を看護理論で意味づけることによって、自己の看護観を明確化することができる。 5. 看護学生アイデンティティの確立が看護専門職の成長につながっていくことの意味を説明することができる。									
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>理論の一般的な考え方を基本とした看護理論の考え方</li> <li>看護理論家による代表的な看護理論とその特徴</li> <li>看護の哲学：ナイチンゲール</li> </ul>					事前：看護理論の考え方、看護理論家の看護の考え方の特徴を、教本を参考に学習し授業に臨むこと 事後：まとめノート		講義	藤井
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護理論家による代表的な看護理論とその特徴</li> <li>ヒューマンケアリングの看護理論： トラベルビ、ペプロー、オレム、ワトソン、ベナーなど</li> </ul>					事前：看護理論家の看護の考え方の特徴を、教本を参考に学習し授業に臨むこと 事後：まとめノート		講義	藤井
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護理論家による代表的な看護理論とその特徴</li> <li>セルフケア理論：オレム、適応システム理論：ロイなど</li> </ul>					事前：看護理論家の看護の考え方の特徴を、教本を参考に学習し授業に臨むこと 事後：看護理論のクリティークを行う		講義	藤井
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護理論のクリティークをおこなった内容を発表し、看護理論の理解を深める。</li> </ul>					事前：看護理論のクリティークを行う 事後：まとめノート		講義 演習	藤井
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護理論が及ぼす看護実践での理論的思考への活用</li> <li>事例検討：実習でかかわった事例を看護理論で意味づけることにより、自己の看護観の明確化を図る。</li> </ul>					事前：実習での事例を看護理論で意味づけられるよう、本授業の内容を復習し、授業に臨むこと 事後：まとめノート		講義 演習	藤井
6	事例検討 実習でかかわった事例を看護理論で意味づけることにより、自己の看護観の明確化を図る。					事前：実習での事例を看護理論で意味づけられるよう、本授業の内容を復習し、授業に臨むこと 事後：まとめノート		講義 演習	藤井
7	事例検討 実習でかかわった事例を看護理論で意味づけることにより、自己の看護観の明確化を図る。					事前：実習での事例を看護理論で意味づけられるよう、本授業の内容を復習し、授業に臨むこと 事後：まとめノート		講義 演習	藤井
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護学生としてのアイデンティティの確立と看護専門職としての成長</li> <li>自己の看護観を明確にすることの意味</li> </ul>					事前：本授業で学習した内容を復習し、看護理論の適応と看護の専門性について考え、授業に臨むこと 事後：最終レポート課題作成		講義	藤井
<b>教本：</b> 看護理論 筒井真優美編集 南江堂					<b>参考文献：</b> 「看護覚え書」 F.ナイチンゲール（日本語訳本） その他 随時提示する。				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加態度（10%）、課題レポート（30%）、最終レポート（60%）									
<b>学生へのアドバイス：</b> 本授業を通して、4年間で学習した看護の考え方を看護理論の学習を通して深め、看護専門職として誇りが持てるよう授業に取り組んで下さい。事例検討では、積極的な討議となるよう期待します。まとめノートで予習・復習をして授業に臨んで下さい。レポートの提出は、提出期限を守ること。									

開 講 年 次	4 年 次 通 年	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	4	時 間 数	120	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	看護研究 (Nursing Research)					ナンバリング	N-NI27	科 目 分 類	専 門 分 野
担 当 教 員	丸山昭子・菊地悦子・大脇淳子・川畑貴美子・藤井智恵子・渡部月子・草地潤子・下村晃子・佐藤京子・牛島典子・掛谷和美・吉田裕子・小野坂益成・望月麻衣・川原理香・刈田明子・木原博子・保母 恵・川下貴士・前島貴子・勅使河原俊子								
履 修 条 件	前提科目	3 年次までの必修科目が履修単位修得済であること				1 科目当たりの合計自己学習時間			60 時間
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 学生のこれまでの学習の集大成として、個々の看護現象に対する関心や問題提起について、テーマを設定し研究過程を踏まえることにより、研究能力を涵養する授業科目である。 領域別臨地実習や看護マネジメント実践（統合実習）において疑問に感じたり深めたい事柄を科学的に考察し、まとめることにより、看護の意図的な取り組みの論理性、実践の正確な記述、結果の適切な分析や評価のあり方など、看護研究の基礎的方法の習得を図りながら、研究計画に基づき実践し、論文としてまとめ発表する。									
<b>授業目標：</b> 1. 看護に対する研究的関心を書き表すことができる。 2. 関心のある課題について文献検討をし、テーマを焦点化できる。 3. 適切な研究方法を選択し、看護研究計画を立てることができる。 4. 看護研究計画に基づき、研究データの収集ができる。 5. 収集されたデータを客観的に整理・分析できる。 6. 研究結果に基づいた考察ができる。 7. 行われた研究を執筆要領に従って論文としてまとめることができる。 8. 研究着手から論文発表までの過程を倫理的に遂行できる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			担 当 者
前 期	<b>ガイダンス</b> 担当教員の紹介 ・ 情報収集を行い、研究テーマを設定することができる ・ 文献検索を行い、研究目的を明確にすることができる ・ 研究目的にそった研究方法を選択することができる ・ 研究計画書を作成できる（人を対象とした研究では倫理委員会審査を受ける） ・ 研究計画に基づき調査（データ収集）を実行できる ・ 収集された情報（データ）を整理し、分析できる					事前・事後の課題は個人の進捗状況に合わせ、指導教員が個別に指示する。			上記科目担当者から個別に選任される
後 期	・ 分析したデータをまとめ、結果として表すことができる ・ 研究結果を読みこみ考察することができる ・ 研究プロセスと結果・考察を研究論文としてまとめることができる ・ まとめた研究論文を他者にわかるように発表できる					事前・事後の課題は個人の進捗状況に合わせ、指導教員が個別に指示する。			上記科目担当者から個別に選任される
<b>教本：</b> 教本は定めない。必要に応じて担当教員が資料を紹介する。					<b>参考文献：</b> 3 年次の看護研究方法論での資料 各学生の研究テーマに合った文献を指導教員が紹介する。				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 看護学科共通の看護研究評価表をもとに授業目標の達成度を指導教員が評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 看護における自分の関心事や疑問を、研究という形で探求してみましょう。仕上げるまでに、思ったよりも時間がかかります。タイム管理をしっかりと行いましょう。									

開 講 年 次	4 年 次 後 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	15	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	産 業 保 健 (Introduction to Occupational Health and Safety)					ナ ン バ リ ン グ	N-NI97	科 目 分 類	専 門 分 野
担 当 教 員	藤 井 智 恵 子 ・ 望 月 麻 衣					1 科 目 当 た り の 合 計 自 己 学 習 時 間			30 時 間
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 産 業 の 場 で 働 く 人 々 の 健 康 に 関 す る 様 々 な 問 題 を 理 解 し、作 業 や 職 場 環 境 が 健 康 に 及 ぼ す 影 響 に つ い て 学 ぶ。労 働 者 の 健 康 を 守 る 法 規、関 係 機 関 と の 連 絡 調 整、行 政 施 策 を 理 解 し、産 業 保 健 に お け る 看 護 職 の 役 割 に つ い て 学 ぶ。									
授 業 目 標 : 1. 労 働 者 の 健 康 を 守 る 法 規、衛 生 行 政 管 理 体 制、事 業 場 の 安 全 衛 生 組 織 を 説 明 で き る。 2. 産 業 構 造 の 変 化 に 伴 い、労 働 者 の 健 康 障 害 の 推 移、業 務 上 疾 病 の 統 計 的 デ ー タ か ら 労 働 者 の 健 康 状 態 を 述 べ る こ と が で き る。 3. 事 業 場 に お け る 健 康 診 断 と 事 後 指 導、健 康 相 談、健 康 づ くり、メ ン タ ル ヘ ル ス 不 調 者 へ の 対 応 に お け る 産 業 看 護 職 の 役 割 を 述 べ る こ と が で き る。									
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	担 当
1	産 業 保 健 の 概 要 一 産 業 保 健 の 歴 史、産 業 に お け る 看 護 職 の 役 割 一 産 業 看 護 の 新 定 義				事 前 : シ ラ バ ス の 内 容 の 確 認 事 後 : 産 業 保 健 の 目 的 と 定 義 に つ い て ま と め る			講 義	藤 井 智 恵 子
2	産 業 保 健 を 取 り 巻 く 現 状 一 業 務 上 疾 病 の 統 計 デ ー タ か ら 労 働 者 の 健 康 状 態 を 分 析 す る。 労 働 者 を 取 り 巻 く 法 律、第 14 次 労 働 災 害 防 止 計 画				事 前 : 「業 務 上 疾 病」に つ い て 熟 読 事 後 : 労 働 者 を 取 り 巻 く 法 律 に つ い て ま と め る			講 義	藤 井 智 恵 子
3	労 働 者 及 び 集 団 ・ 組 織 を 対 象 と し た 支 援				事 前 : 「第 14 次 労 働 災 害 防 止 計 画」を 熟 読 事 後 : 労 働 者 及 び 集 団 ・ 組 織 を 対 象 と し た 支 援 支 援 に つ い て ま と め る			講 義	藤 井 智 恵 子
4	職 業 性 疾 病 と そ の 予 防				事 前 : 「職 業 性 疾 病」を 熟 読 事 後 : 職 業 性 疾 病 に つ い て ま と め る			講 義	藤 井 智 恵 子
5	作 業 関 連 疾 患 と そ の 予 防				事 前 : 「作 業 関 連 疾 患」に つ い て 熟 読 事 後 : 作 業 関 連 疾 患 と そ の 予 防 に つ い て ま と め る			講 義	藤 井 智 恵 子
6	働 く 人 の メ ン タ ル ヘ ル ス と そ の 予 防 策				事 前 : 「働 く 人 の メ ン タ ル ヘ ル ス」に つ い て 熟 読 事 後 : 働 く 人 の メ ン タ ル ヘ ル ス と そ の 予 防 策 に つ い て ま と め る			講 義	望 月 麻 衣
7	健 康 経 営				事 前 : 「健 康 経 営」に つ い て 調 べ る 事 後 : 健 康 経 営 に つ い て ま と め る			講 義	望 月 麻 衣
8	産 業 保 健 の 専 門 性 一 産 業 保 健 に 求 め ら れ る コ ン ピ テ ン シ ー、産 業 保 健 の 役 割 を 果 た す た め の 心 構 え 一 に つ い て グ ル ー プ ワ ー ク で デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を し て 学 び を 深 め る				事 前 : 「産 業 保 健 の 専 門 性」に つ い て ま と め る 事 後 : 「産 業 看 護 職 の 専 門 性 の 役 割」に つ い て ま と め る			講 義 演 習	藤 井 智 恵 子 望 月 麻 衣
教 本 :					参 考 文 献 :				
1. 国 民 衛 生 の 動 向 2026/2027 厚 生 労 働 統 計 局 2. 労 働 衛 生 の し お り 令 和 8 年 度 版 中 央 度 労 働 災 害 防 止 協 会 そ の 他 は 随 時 提 示 す る。									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 等 (10%)、レ ポ ー ト 等 (30%)、最 終 レ ポ ー ト (60%) 等 で 総 合 評 価 す る。 ま と め ノ ー ト を 使 用 し て、予 習、復 習 を 行 い 授 業 に 臨 む こ と。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 産 業 保 健 は 労 働 者 を 対 象 と し ます。労 働 者 人 口 は、6,400 万 人、年 齢 層 は 18 歳 ~ 60 歳 代 が 中 心 で す。働 く 人 の 健 康 問 題 に 関 心 を 持 ち、新 聞 に も 目 を 通 し ま し ょ う。									



# VIII 進 度 表

カリキュラムに準じた進度表です  
年度により、開講期が異なる場合があります



分野	科 目 名	学年	単 位		授 業 形 態	配当年次・時間数								
			必修	選択		1年		2年		3年		4年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
看護の基礎	ライフステージと発達看護論	1前	1		講義	15								
	看護学原論	1前	2		講義	30								
	フィジカルアセスメント演習	1後	1		演習		30							
	生活援助技術演習Ⅰ	1前	2		演習	60								
	生活援助技術演習Ⅱ	1後	2		演習		60							
	医療支援技術	2前	2		演習			60						
	看護方法論（看護過程）演習	1後	1		演習		30							
	基礎看護ケア実践Ⅰ（看護活動の実際）	1後	1		実習		45							
	基礎看護ケア実践Ⅱ（生活の援助）	2前	2		実習			90						
	看護と倫理	2前	1		講義			15						
	看護理論の理解	4前		1	講義								15	
看護の発展	リプロダクティブ・ヘルズ援助論	2前	2		講義			30						
	リプロダクティブ・ヘルズ援助演習	3前	2		演習					60				
	生殖・周産期の看護ケア実践	3後	2		実習						90			
小児期の看護	小児発達援助論	2後	2		講義				30					
	小児期の発達援助演習	3前	2		演習					60				
	小児期の看護ケア実践	3後	2		実習						90			
成人期の看護	成人発達援助論	1後	2		講義		30							
	成人期の発達援助演習Ⅰ（急性期・回復期）	2後	2		演習				60					
	成人期の発達援助演習Ⅱ（慢性期・終末期）	3前	2		演習					60				
	急性期・回復期の看護ケア実践	3後	3		実習							135		
	慢性期・終末期の看護ケア実践	3後	3		実習								135	
老年期の看護	老年発達援助論	1後	2		講義		30							
	老年期の発達援助演習	2前	2		演習			60						
	老年期の看護ケア実践Ⅰ（高齢者の地域包括ケア）	3後	3		実習							135		
	老年期の看護ケア実践Ⅱ（地域老年の健康指導・支援の実際）	4前	1		実習								45	
精神の看護	精神看護援助論	2後	2		講義				30					
	精神看護援助演習	3前	2		演習					60				
	精神看護ケア実践	3後	2		実習						90			
	災害時精神的援助論	3前		1	講義					15				
	アディクション看護論	2後		1	講義				15					
地域・在宅の看護	家族看護学	2前	1		講義			15						
	地域看護論	2後・3前	1		講義				15					
	在宅看護援助論	2前	2		講義			30						
	地域・在宅の看護援助演習	2後	2		演習				60					
	地域・在宅の看護ケア実践	4前	2		実習								90	
看護の統合	健康教育論	3前	1		講義					15				
	看護研究方法論	3前	1		演習					30				
	看護研究	4通	4		演習								120	
	看護マネジメント論	4前	1		演習							30		
	看護マネジメント実践（統合実習）	4前	2		実習								90	
	国際医療と看護	4前	1		講義								15	
	卒業演習	4後	1		演習									30
	産業保健	4前		1	講義								15	



## IX 科目ナンバリング

## IX 科目ナンバリング

# 科目ナンバリング

科目のナンバリングは、教育課程（カリキュラム）の体系が容易に理解できるように、科目間の連携や科目内容を表す記号をつけ、教育課程の構造をわかりやすく明示する仕組みです。

## 1. 科目ナンバリングの意義

### 1) 学生の主体的な学習の支援

学生が、学習すべき授業科目の履修を検討する際、授業科目の分類、標準的な学習の段階や順序を理解したうえで選択することができます。

また、コードの構成は全学科で統一されているため、他学科の教育課程の体系を理解することが容易となり、学生が主体的な学習を行うための助けとなります。

### 2) 学外に対する教育課程の体系の理解促進

科目ナンバリングを公開することによって、学外に対する本学の教育課程の体系の理解の促進や、それによる国外大学との連携や単位互換等の円滑化に役立ちます。

## 2. 科目ナンバリングの構成

1) 主催区分コード＝科目を開講する学科、研究科をアルファベット1文字で示します。

2) 大区分コード＝学問領域を大きく区分し、アルファベット2文字で示します。

3) 小区分コード＝大区分の学問領域をさらに細かく分類し、数字1文字で示します。

4) レベルコード＝科目の配当年次をセメスタにして4学年をそれぞれ前期・後期にして、数字1文字で示します。

1 = 1年次前期      2 = 1年次後期      3 = 2年次前期      4 = 2年次後期  
5 = 3年次前期      6 = 3年次後期      7 = 4年次前期      8 = 4年次後期

ナンバリングは以上のように構成され、授業科目毎にコードが付されます。

科目ナンバリングを令和4(2022)年度の教育課程から、文系3学部9学科は大学ホームページに記載し、看護学部看護学科はシラバスに記載し、大学院は履修要項に明示します。

なお、看護学部看護学科の科目ナンバリングの見方については下記に示すとおりです。

例 身体の構造と機能A N-MS11

主催区分	N	看護学部看護学科は「N」と表示
大区分	MS	「医学領域」を示す⇒疾病の科学
小区分	1	解剖学・生理学
レベル	1	配当年次をセメスタで示す⇒1年前期

※科目ナンバリングは、年度毎に付番するのではなく、原則として授業科目に固定したものです。この点で履修登録の際に使用する「時間割コード」とは役割が異なりますのでご注意ください。

看護学部2022年度カリキュラム：大区分・小区分コード

大区分		小区分	
哲学 Philosophy	PH	1	思想(建学の精神)
		2	哲学・倫理学
社会学 Sociology	SO	1	社会学
基礎教養 liberal arts	LI	9	その他
スポーツ科学 Sports science	SS	2	スポーツ実技
経済学 Economics	EC	2	理論経済学
		5	財政・公共経済
法学 Law	LA	6	医事法
コミュニケーション学 Communication science	CO	9	その他
語学 Language study	LG	1	英語
		2	中国語
		6	日本語
心理学 Psychology	PS	3	知覚, 認知
		4	発達, 教育
		9	その他
教育学 Education	ED	1	教育基礎
情報学 Informatics	IN	1	情報システム
		2	メディア・教養
統計学 Statistics	ST	1	データサイエンス
疾病の科学 Medical Sciences	MS	1	解剖学・生理学
		2	病態学
		3	薬理学の基礎・放射線医学の基礎
		4	栄養学
		5	生化学
		6	公衆衛生学
先進医療 Advanced Medical technology	AM	1	救急・災害医療
		2	医療安全管理
		3	先端医療
		9	その他

大区分		小区分	
看護の基礎 Basic Nursing	BN	1	看護の原理と理論
		2	生涯発達看護論
		3	看護倫理
		4	看護の基礎技術
ライフステージの看護 Developmental stages Nursing	DN	1	リプロダクティブ・ヘルス看護
		2	小児期の看護
		3	成人期の看護
		4	老年期の看護
地域の看護 Community Nursing	CN	1	精神の看護
		2	在宅の看護
		3	心理的危機の看護
看護の実践 Nursing Practice	NP	1	看護実践の基礎
		2	生殖・周産期の看護実践
		3	小児期の看護実践
		4	成人期の看護実践
		5	老年期の看護実践
		6	精神の看護実践
		7	在宅の看護実践
		8	看護マネジメント実践
看護の統合 Nursing Integration	NI	1	看護マネジメント
		2	看護研究
		3	公衆衛生看護
		4	国際看護
		9	その他

# X 教員名簿



## 専任

氏 名	職 位	領 域	研究室
牛 島 典 子 (ウシジマノリコ)	准教授	看護の基礎	1414
大 橋 優美子 (オオハシユミコ)	教 授	成人期の看護	1313
大 脇 淳 子 (オオワキジュンコ)	教 授	小児期の看護	1307
小野坂 益 成 (オノサカマスナリ)	講 師	精神の看護	1406
小 俣 ち は る (オマタチハル)	助 教	看護の基礎	2307
掛 谷 和 美 (カケヤカズミ)	准教授	老年期の看護	1416
荏 田 明 子 (カリタアキコ)	講 師	成人期の看護	1415
川 崎 真 子 (カワサキマコ)	助 手	成人期の看護	2307
川 下 貴 士 (カワシモタカシ)	講 師	精神の看護	1406
川 畑 貴美子 (カワバタキミコ)	教 授	成人期の看護	1408
川 原 理 香 (カワハラリカ)	講 師	成人期の看護	1411
菊 地 悦 子 (キクチエツコ)	教 授	老年期の看護	1303
木 原 博 子 (キハラヒロコ)	講 師	リプロダクティブ・ヘルスの看護	1411
草 地 潤 子 (クサチジュンコ)	教 授	老年期の看護	1315
佐 藤 京 子 (サトウキョウコ)	准教授	成人期の看護	1417
下 村 晃 子 (シモムラアキコ)	教 授	成人期の看護	1413
勅使河原 俊 子 (テシガワラトシコ)	講 師	看護の基礎	1410
中 野 香 (ナカノカオリ)	助 教	成人期の看護	2307
西 法 子 (ニシノリコ)	助 教	看護の基礎	2307
前 島 貴 子 (マエジマタカコ)	講 師	リプロダクティブ・ヘルスの看護	1410
深 田 雅 美 (フカダマサミ)	助 教	老年期の看護	2307
藤 井 智恵子 (フジイチエコ)	教 授	看護の基礎	1407
保 母 恵 (ホボメグミ)	講 師	地域・在宅の看護	1417
眞 壁 公美子 (マカベクミコ)	助 教	小児期の看護	2307
丸 山 昭 子 (マルヤマアキコ)	教 授	精神の看護	1316
望 月 麻 衣 (モチヅクマイ)	講 師	地域・在宅の看護	1415
箭 内 彩也佳 (ヤナイサヤカ)	助 教	リプロダクティブ・ヘルスの看護	2307
吉 井 信 哉 (ヨシイシンヤ)	教 授	専門基礎	1314
吉 田 裕 子 (ヨシダユウコ)	講 師	小児期の看護	1416
渡 部 月 子 (ワタナベツキコ)	教 授	地域・在宅の看護	1305

## 兼担

氏 名	職 位	研究室
大 沢 裕 (オオサワヒロシ)	コミュニケーション文化学部 教授	3611
岡 部 佑 人 (オカベユウト)	コミュニケーション文化学部 准教授	3603
金 澤 秀 嗣 (カナザワシュウジ)	経営文化学部 准教授	3603
鈴 木 秀 顕 (スズキヒデアキ)	観光メディア文化学部 准教授	1304
深 谷 野 亜 (フカヤノア)	コミュニケーション文化学部 教授	3807
牧 裕 夫 (マキヒロオ)	コミュニケーション文化学部 教授	3803
増 田 裕 彦 (マスダヒロヒコ)	経営文化学部 准教授	3813
松 浦 広 明 (マツウラヒロアキ)	観光メディア文化学部 教授・副学長	1204
宮 崎 隆 (ミヤザキタカシ)	観光メディア文化学部 教授	3711
横 手 拓 治 (ヨコテタクジ)	コミュニケーション文化学部 教授	3601

## 非常勤

氏 名
内 田 哲 也 (ウチダテツヤ)
菅 沼 憲 治 (スガヌマケンジ)
関 口 剛 (セキグチゴウ)
高 田 英 明 (タカタヒデアキ)
中 正 剛 (ナカセイゴウ)
成 尾 宗 浩 (ナルオムネヒロ)
福 田 良 夫 (フクダヨシオ)
別 所 文 雄 (ベッショフミオ)
山 口 恭 子 (ヤマグチキョウコ)
三 浦 左千夫 (ミウラサチオ)
渡 邊 良 久 (ワタナベヨシヒサ)

## 科目別索引

アディクション看護論	89
医療安全管理・感染管理	96
医療系アドバンスセミナー	126
医療と経済	82
医療支援技術	72
英語コミュニケーション	35
家族看護学	78
看護と倫理	74
看護のための栄養学（治療食を含む）	56
看護のための教育学	81
看護のための経済学	66
看護のための社会学	50
看護のための生化学A	42
看護のための生化学B	41
看護のための哲学	47
看護のための倫理学	33
看護英語A（病院内会話）	49
看護学原論	44
看護関係法令	83
看護研究	128
看護研究方法論	107
看護方法論（看護過程）演習	59
看護マネジメント実践（統合実習）	123
看護マネジメント論	122
看護理論の理解	127
感情と行動	80
基礎看護ケア実践Ⅰ（看護活動の実際）	60
基礎看護ケア実践Ⅱ（生活の援助）	73
急性期・回復期の看護ケア実践	110
健康教育論	106
健康障害A	52
健康障害B	54
健康障害C	70
公衆衛生	84
国際医療と看護	124
心の理解と共有	31
コミュニケーション理論と実際	65

災害時精神的援助論	105
災害・救急時医療と看護（BLSを含む）	117
在宅看護援助論	79
産業保健	129
小児発達援助論	85
小児期の発達援助演習	99
小児期の看護ケア実践	109
情報基礎	34
身体の構造と機能A（総論・構造）	37
身体の構造と機能B	39
ストレスマネジメント	32
生活援助技術演習Ⅰ	45
生活援助技術演習Ⅱ	58
生殖・周産期の看護ケア実践	108
精神看護援助論	88
精神看護援助演習	103
精神看護ケア実践	113
成人期の発達援助演習Ⅰ（急性期・回復期）	86
成人期の発達援助演習Ⅱ（慢性期・終末期）	101
成人発達援助論	61
先端医療・新興再興感染症	119
卒業演習	125
地域・在宅の看護援助演習	91
地域看護論	90
地域・在宅の看護ケア実践	121
日本語表現法（現代文長文読解）	36
人間と環境	67
病態学総論	51
フィジカルアセスメント演習	57
保健医療福祉行政と政策	69
保健衛生統計	95
マルチメディア表現	68
慢性期・終末期の看護ケア実践	111
薬物や放射線による人間の反応	71
吉田松陰論	48
ライフステージと発達看護論	43
リプロダクティブ・ヘルス援助論	75
リプロダクティブ・ヘルス援助演習	97
老年期の発達援助演習	76
老年発達援助論	62
老年期の看護ケア実践Ⅰ	112
老年期の看護ケア実践Ⅱ	120